参考資料2

医療と健康保険に関する意識等調査
報告書

平成 25 年 11 月

全国健康保険協会

医療と健康保険に関する意識等調査

＝目次＝

１　調査概要……1
１．１　調査の目的……1
１．２　調査設計……1
１．３　調査手法……1
１．４　調査実施時期……1
１．５　調査内容……1
１．６　回答者基本属性……2
２　調査結果のまとめ……3
３　調査結果詳細……8
３．１　医療機関受診状況……8
３．１．１　最近１年間の受診状況（問７）……8
３．１．２　利用医療機関までの交通手段と所要時間（問７付問）……9
３．１．３　１か月あたりの自己負担額（問８）……10
３．１．４　本人または家族の治療状況（問９）……12
３．１．５　直近に外来受診した医療機関（問１０）……13
３．２　医療機関に対する重視度と満足度……14
３．２．１　医療機関選択時に重視する項目（問１１－１）……14
３．２．２　直近受診医療機関に対する項目別の満足度（問１１－２）……17
３．２．３　直近受診医療機関に対する総合満足度（問１２）……19
３．３　受診意向と健康管理意識……21
３．３．１　健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（問１７）……21
３．３．２　かかりつけ医の有無（問１５）……24
３．３．３　早期受診意向の有無（問１３）……27
３．３．４　初診時の受診意向（問１４）……28
３．３．５　夜間救急時の受診意向（問１６）……29
３．４　医療制度に関する意識や利用状況……31
３．４．１　医療全般に対する満足度（問１８）……31
３．４．２　医療に対する不安（問１９）……33
３．４．３　医療機関に関して不足している情報（問２０）……37
３．４．４　健康や医療についてほしい情報（問２１）……38
３．４．５　期待する医療政策（問３０）……39
３．４．６　ジェネリック医薬品の認知・使用経験（問２２）……41
３．４．７　ジェネリック医薬品の未利用理由（問２２付問）……43
３．４．８　高額療養費制度の認知・利用状況（問２３）……45

３．５　医療費負担.....47
３．５．１　医療費適正化に対する考え（問２４）.....47
３．５．２　負担増の選択（問２５）.....49
３．５．３　医療サービスの水準と費用負担についての考え（問２６）.....52
３．５．４　紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え（問２７）.....54
３．５．５　民間保険加入に対する考え（問２８）.....57
３．５．６　医療費・保険料の公平性の考え方（問２９）.....59
３．６　健康寿命等について（問３１）.....67
資料編《調査票》.....76

1　調査概要

１．１　調査の目的

協会けんぽ加入者の医療や健康保険に対する意識や意見、要望等を把握し、協会の事業やサービスの向上、保険者機能の発揮のための企画立案に資する基礎資料とする。

１．２　調査設計

調査対象者　：委託先である株式会社インテージリサーチの「インテージ・ネットモニター」のうち協会けんぽ加入者（事前調査により把握）

対象者条件　：20 歳から 74 歳男女。年代、性別、地域、被保険者・被扶養者の分布に偏りがないよう、加入者の構成比に準じてサンプル設計。

対象者数　　：有効回収数　2,268 サンプル
調査依頼数　3,394 サンプル（有効回収率 66.8%）

１．３　調査手法　インターネット調査

１．４　調査実施時期　平成 25 年 9 月 6 日～9 日（事前調査実施 8 月 30 日～9 月 4 日）

１．５　調査内容

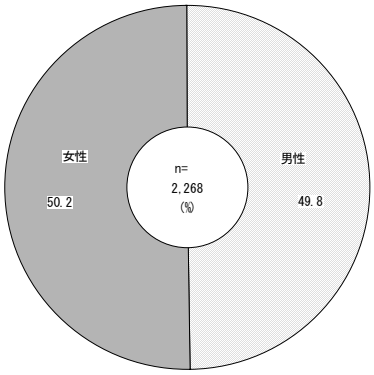
- ✧　医療機関の受診状況
- ✧　医療機関に対する重視度と満足度
- ✧　受診意向と健康管理意識
- ✧　医療制度に関する意識や利用状況
- ✧　医療費負担に対する考え方
- ✧　健康寿命等について

※本調査において、複数回答のデータにはその旨記載している。
特に記載のないデータは単数回答である。

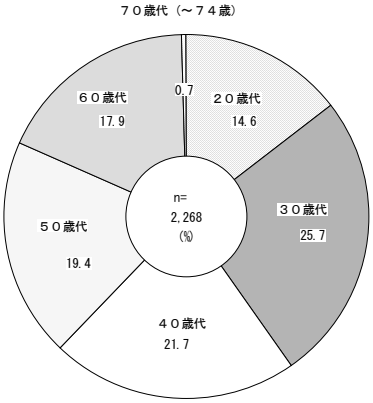
１．６　回答者基本属性

- **性別**：「男性」49.8%、「女性」50.2%
- **年代**：「20 歳代」14.6%、「30 歳代」25.7%、「40 歳代」21.7%、「50 歳代」19.4%、「60 歳代」17.9%、「70～74 歳」0.7%
- **地域**：「北海道・東北」14.9%、「関東」16.4%、「甲信越・北陸」8.4%、「東海」12.1%、「近畿」17.9%、「中国」9.0%、「四国」4.3%、「九州・沖縄」17.0%
- **加入区分**：「被保険者本人」が 7 割（71.8%）、「被扶養者（配偶者）」が 2 割（22.2%）
- **職業**:「会社員･団体職員」が半数（46.5%）、「専業主婦（夫）･家事手伝い」が 1 割強（14.6%）、「パートタイマー・アルバイト」が 1 割強（13.4%）。
- **世帯年収**：「400 万円～600 万円未満」が 3 割（27.9%）ともっとも多く、「200 万円～400 万円未満」（26.4%）がそれに続き、年収 600 万円未満が全体の 6 割（59.6%）を占める。

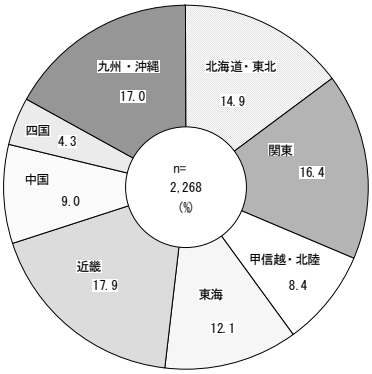
性別



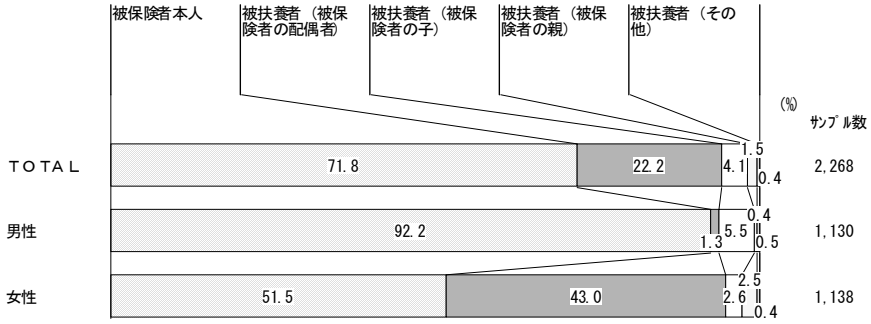
年代



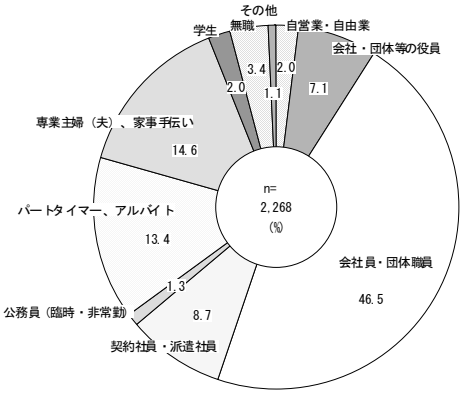
地域



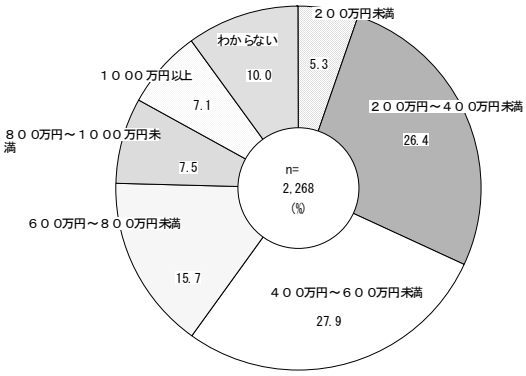
加入区分



職業



世帯年収

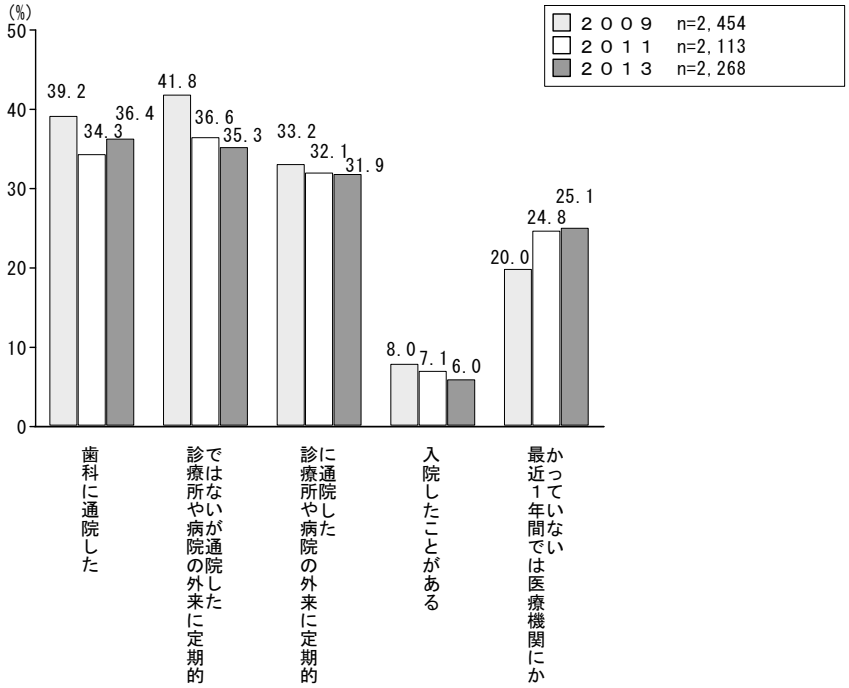


2　調査結果のまとめ

■最近１年間の受診状況（詳細 p. 8 参照）

最近１年間で、定期的に外来受診しているのは 3 割（31.9%）、不定期だが外来を受診した経験があるのは 3 割強（35.3%）である。また、全体の 1 割弱（6.0%）に入院経験がある。

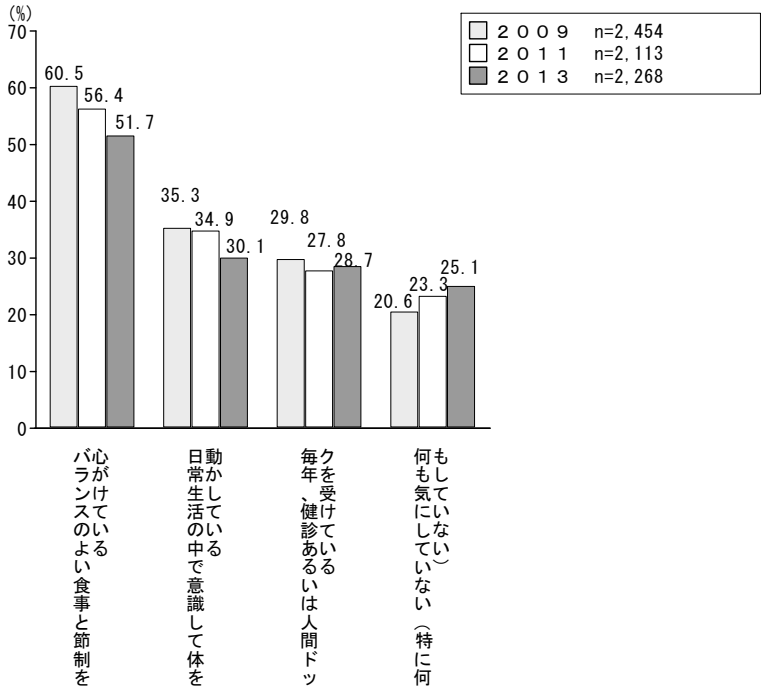
2009 年、2011 年と比較すると、医療機関非利用者の割合が高くなる傾向となっている。



■健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（詳細 p. 21 参照）

健康維持および生活習慣病予防のための取り組みの上位項目を見ると、「バランスのよい食事と節制を心がけている」割合がもっとも高く、5 割（51.7%）となっている。

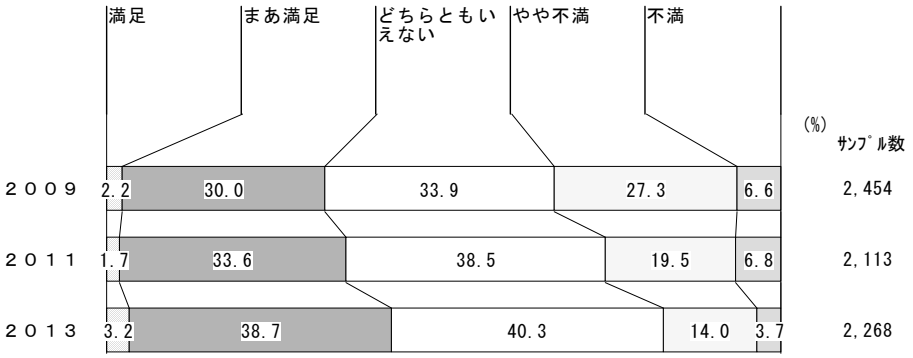
2009 年、2011 年と比較すると、徐々に「何も気にしていない（特に何もしていない）」割合が高まる傾向にあり、2013 年は 4 人に 1 人（25.1%）が該当する。



■医療全般に対する満足度（詳細 p. 31 参照）

日本の医療全般に対しては、4 割（41.9%）が満足（「満足」＋「まあ満足」）している。

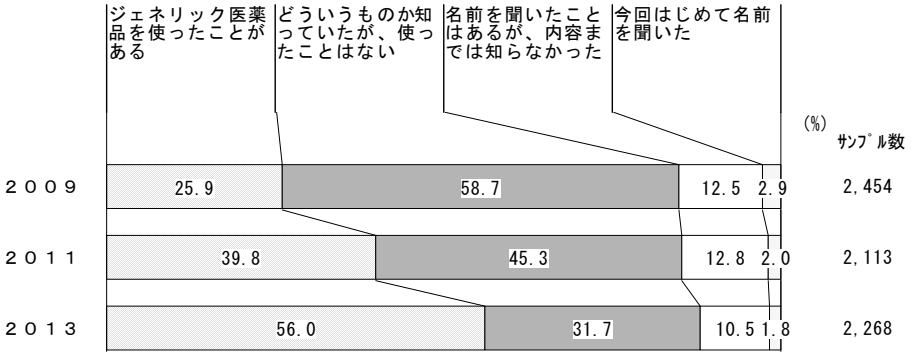
2009 年、2011 年と比較すると、満足（「満足」＋「まあ満足」）と「どちらともいえない」の割合が高くなる一方で、不満（「やや不満」＋「不満」）は低くなる傾向となっている。



■ジェネリック医薬品の認知・使用経験（詳細 p. 41 参照）

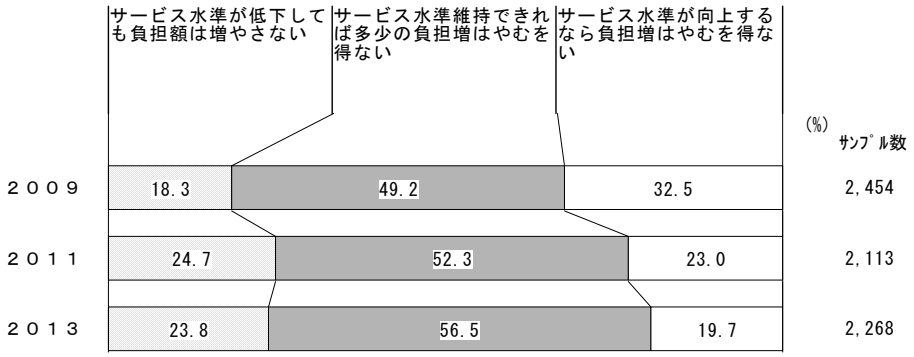
ジェネリック医薬品の使用経験は過半数の 6 割弱（56.0%）にのぼり、「どういうものか知っていたが、使ったことはない」（31.7%）と合わせると 9 割弱（87.7%）が内容まで認知している。

2009 年、2011 年と比較すると、使用経験者の割合が徐々に高くなっている。



■医療サービスの水準と費用負担についての考え（詳細 p. 52 参照）

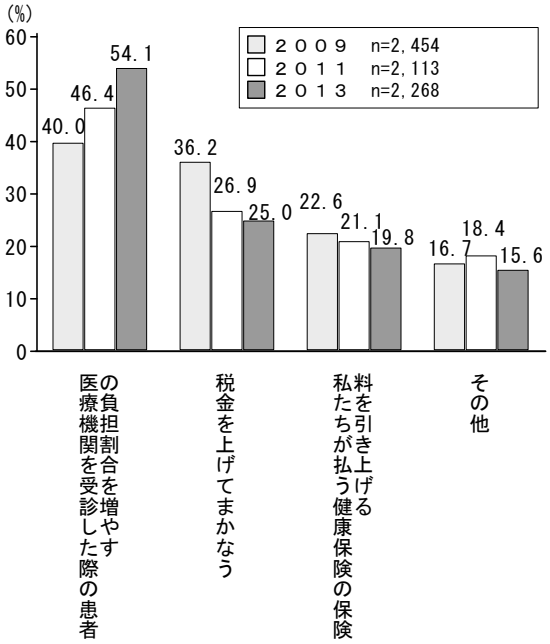
「サービス水準が維持できれば多少の負担増はやむを得ない」と「サービス水準が低下しても負担額は増やさない」が 2009 年と比較して高くなっている一方、「サービス水準が向上するなら負担増はやむを得ない」が徐々に低くなっている。



■負担増の選択（詳細 p. 49 参照）

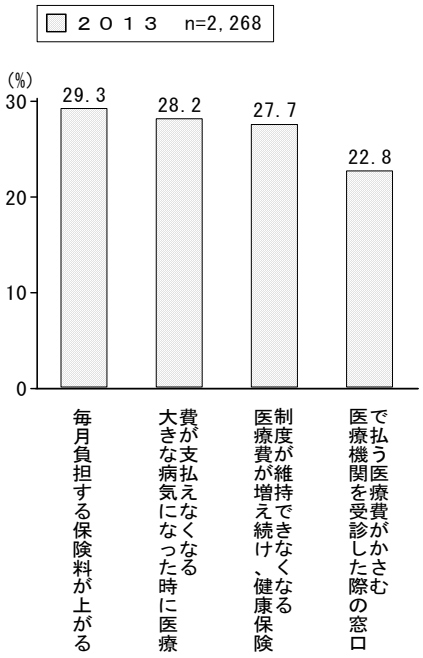
医療費増に対するまかない方を複数回答でたずねたところ、5 割強（54.1%）が「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」と回答している。次いで「税金を上げてまかなう」（25.0%）、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」（19.8%）となっている。

2009 年、2011 年と比較すると、「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」が徐々に高くなっている。



■医療に対する不安（詳細 p. 33 参照）

医療に対する不安について「非常に不安がある」と回答のあった上位項目を見ると、「毎月負担する保険料が上がる」が 3 割（29.3%）ともっとも高く、次いで「大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる」（28.2%）、「医療費が増え続け、健康保険制度が維持できなくなる」（27.7%）の順となっている。



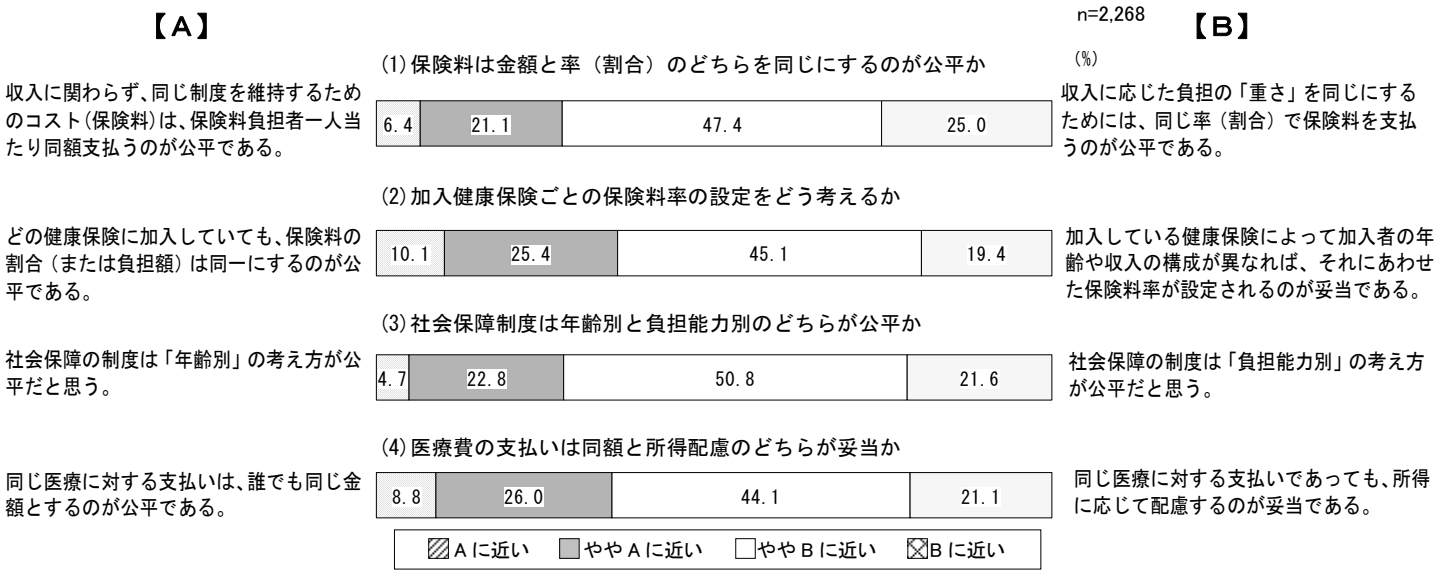
■医療費・保険料の公平性の考え方（詳細 p.59 参照）

(1)【保険料は金額と率（割合）のどちらを同じにするのが公平か】については、「収入に応じた率（割合）で支払うのが公平」と考える人が 7 割強（72.4%）と高い。

(2)【加入健康保険ごとの保険料率の設定をどう考えるか】については、「加入健康保険に応じた保険料率設定が妥当」と考える人が 6 割強（64.5%）と高い。

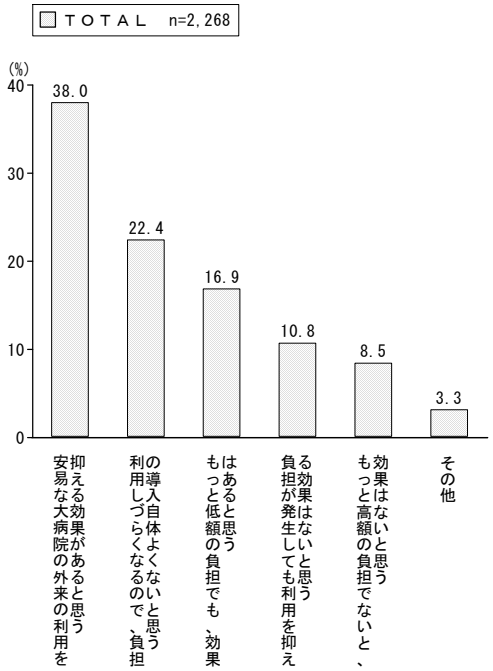
(3)【社会保障制度は年齢別と負担能力別のどちらが公平か】については、年齢別ではなく「負担能力別の考え方が公平」と考える人が 7 割強（72.4%）と高い。

(4)【医療費の支払いは同額と所得配慮のどちらが妥当か】については、「同じ医療に対する支払いであっても所得に応じて配慮するのが妥当」と考える人が 6 割強（65.2%）と高い。



■紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え（詳細 p.54 参照）

紹介状なしの大病院の外来受診について 1 万円などの定額負担を導入する案に対して、4 割（38.0%）が「安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う」と回答している。次いで、「利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う」（22.4%）、「もっと低額の負担でも、効果はあると思う」（16.9%）の順となっている。



■健康寿命等について（詳細 p. 67 参照）

(1)『高齢者と考える年齢』の平均は 70.21 歳。

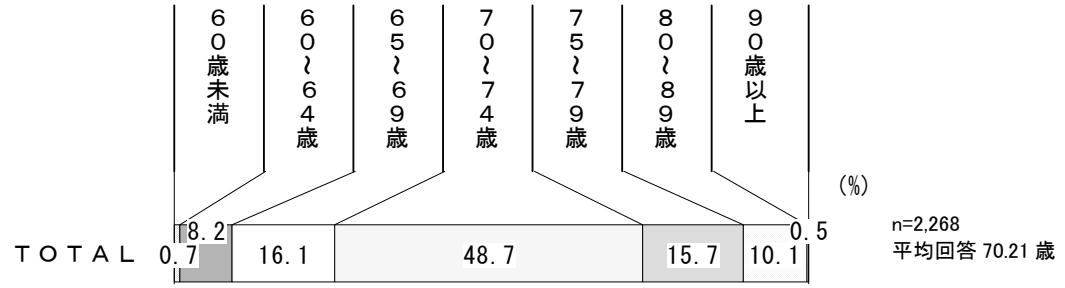
(2) 現在働いている人が考える『仕事をやめる年齢』 の平均は 64.06 歳。

(3)『介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢』の平均は 74.85 歳。

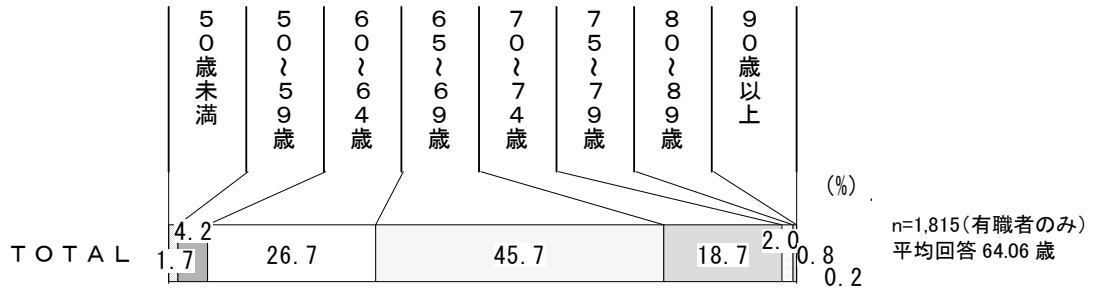
(4)『生きていたいと思う年齢』の平均は 78.32 歳。

平均年齢で見ると、(2)仕事をやめる年齢 ＜ (1)高齢者と考える年齢 ＜ (3)介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢 ＜ (4)生きていたいと思う年齢の順となっている。

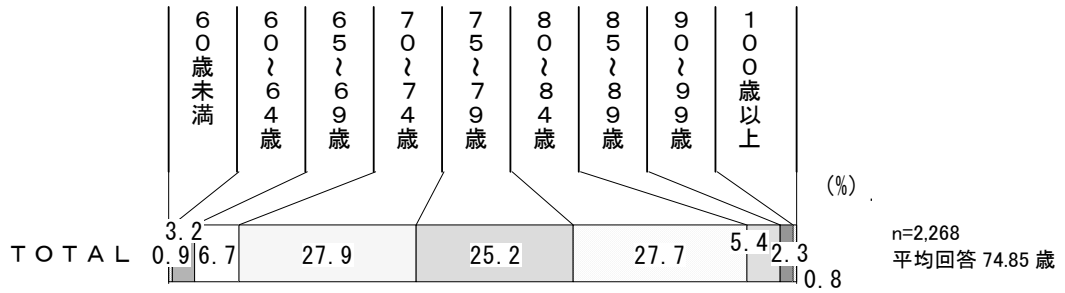
(1)高齢者と考える年齢



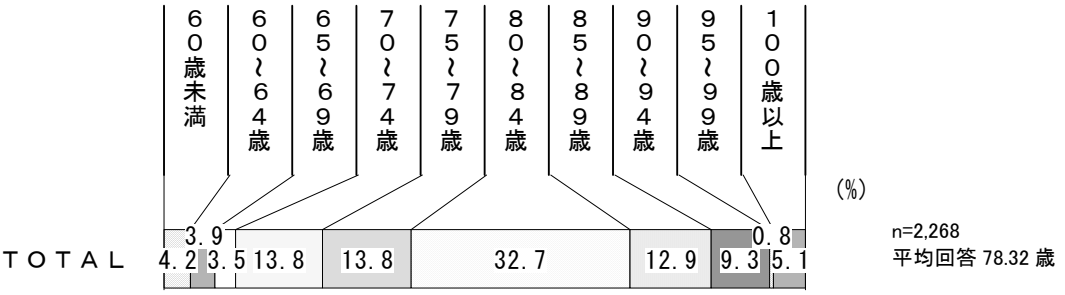
(2)仕事をやめる年齢（有職者のみ）



(3)介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢



(4)生きていたいと思う年齢



３　調査結果詳細

３．１　医療機関受診状況

３．１．１　最近１年間の受診状況（問７）

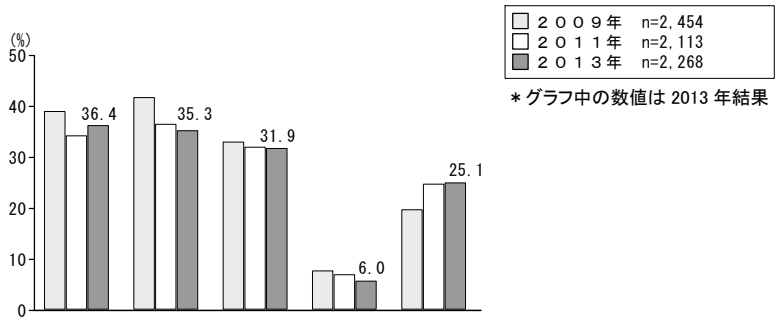
問７　最近１年間で、あなたは病気やけがの治療のために医療機関にかかったことがありますか。
（回答は該当するものすべて）

4 割弱（36.4%）が「歯科に通院した」と回答しており、次いで「診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した」（35.3%）、「診療所や病院の外来に定期的に通院した」（31.9%）となっている。「入院したことがある」のは全体の 1 割弱（6.0%）である。一方、「最近 1 年間では医療機関にかかっていない」のは 2 割強（25.1%）である。

性・年代別に見ると、男女ともに 50 歳代以上では定期的な通院の割合が高くなっている。また、男性 20・30 歳代では「最近 1 年間では医療機関にかかっていない」の割合が 4 割弱あり、他の層より高い。

2009 年、2011 年と比較すると、「最近 1 年間では医療機関にかかっていない」の割合が高まっており、「診療所や病院の外来に定期的にではないが通院した」の割合は低くなる傾向となっている。

問７　最近１年間の受診状況（複数回答）



	性・年代（２０１３）	n	4 歯科に通院した	3 診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した	2 診療所や病院の外来に定期的に通院した	1 入院したことがある	5 最近１年間では医療機関にかかっていない
1	２００９年	2,454	39.2	41.8	33.2	8.0	20.0
2	２０１１年	2,113	34.3	36.6	32.1	7.1	24.8
3	２０１３年	2,268	36.4	35.3	31.9	6.0	25.1
4	■男性計	1,130	34.3	29.6	33.4	6.3	27.7
5	男性２０歳代	154	35.1	28.6	13.6	5.8	39.0
6	男性３０歳代	297	29.3	35.0	18.5	3.4	37.4
7	男性４０歳代	247	32.8	36.8	26.3	7.3	28.7
8	男性５０歳代	213	37.6	24.4	49.3	6.6	18.3
9	男性６０・７０歳代	219	39.3	19.6	59.8	9.1	14.6
10	■女性計	1,138	38.5	41.0	30.5	5.6	22.6
11	女性２０歳代	178	36.5	41.6	28.1	11.2	27.0
12	女性３０歳代	287	38.0	51.2	19.5	5.9	22.3
13	女性４０歳代	245	36.7	40.4	30.2	4.1	23.7
14	女性５０歳代	227	38.8	36.6	37.0	3.1	21.6
15	女性６０・７０歳代	201	42.8	31.8	41.3	5.0	18.9

３．１．２　利用医療機関までの交通手段と所要時間（問７付問）

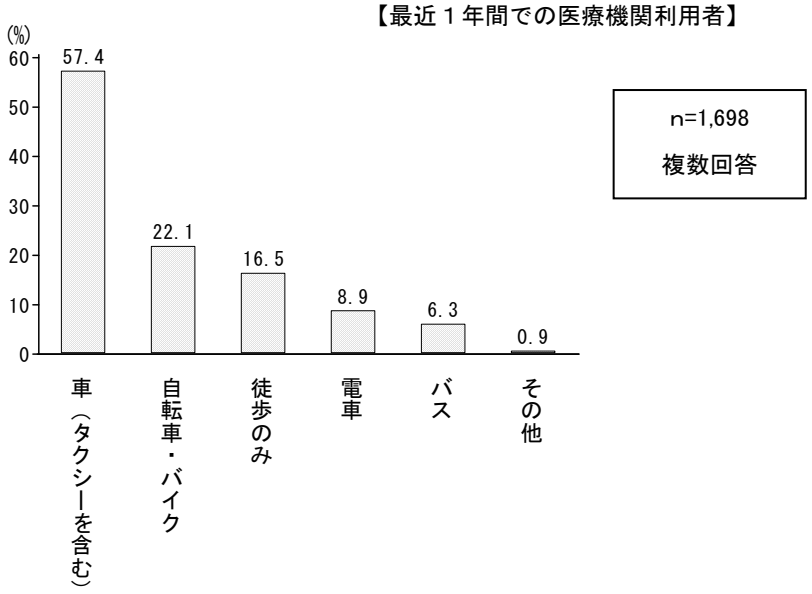
付問１　最近１年間で利用機会がもっとも多かった医療機関について、あなたの自宅または職場や学校から、その医療機関に行くのによく利用する交通手段と時間をお答えください。（回答は該当するものすべて）　【最近１年間での医療機関利用者】

交通手段としては、半数以上が「車（タクシーを含む）」（57.4%）を利用しており、次いで「自転車・バイク」（22.1%）、「徒歩のみ」（16.5%）となっている。

また、医療機関までの所要時間でもっとも多いのは「10 分～20 分未満」（42.5%）、次いで「5 分～10 分未満」（20.0%）となっており、20 分未満が 7 割（68.7%）を占める。

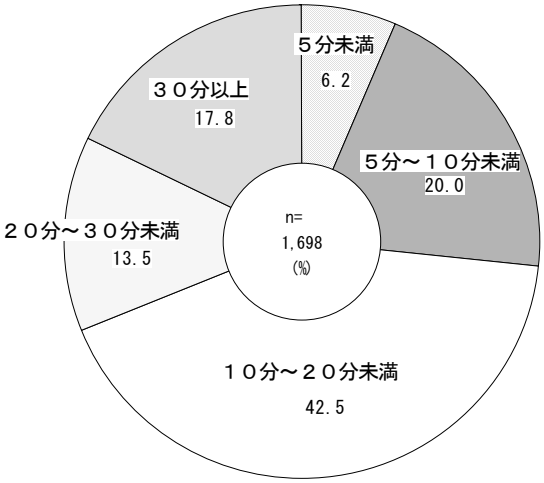
付問１　利用医療機関までの交通手段（複数回答）

【最近１年間での医療機関利用者】



付問１　利用医療機関までの所要時間

【最近１年間での医療機関利用者】



３．１．３　１か月あたりの自己負担額（問８）

問８　今年 8 月の 1 か月間に、あなた自身の受診のために医療機関の窓口で支払った金額は合計でいくら位でしたか。8 月の支払いがなかった方は、ここ 1 年の間で支払いがあった月の平均概算額をお答えください。（回答は１つ）　【最近１年間での医療機関利用者】

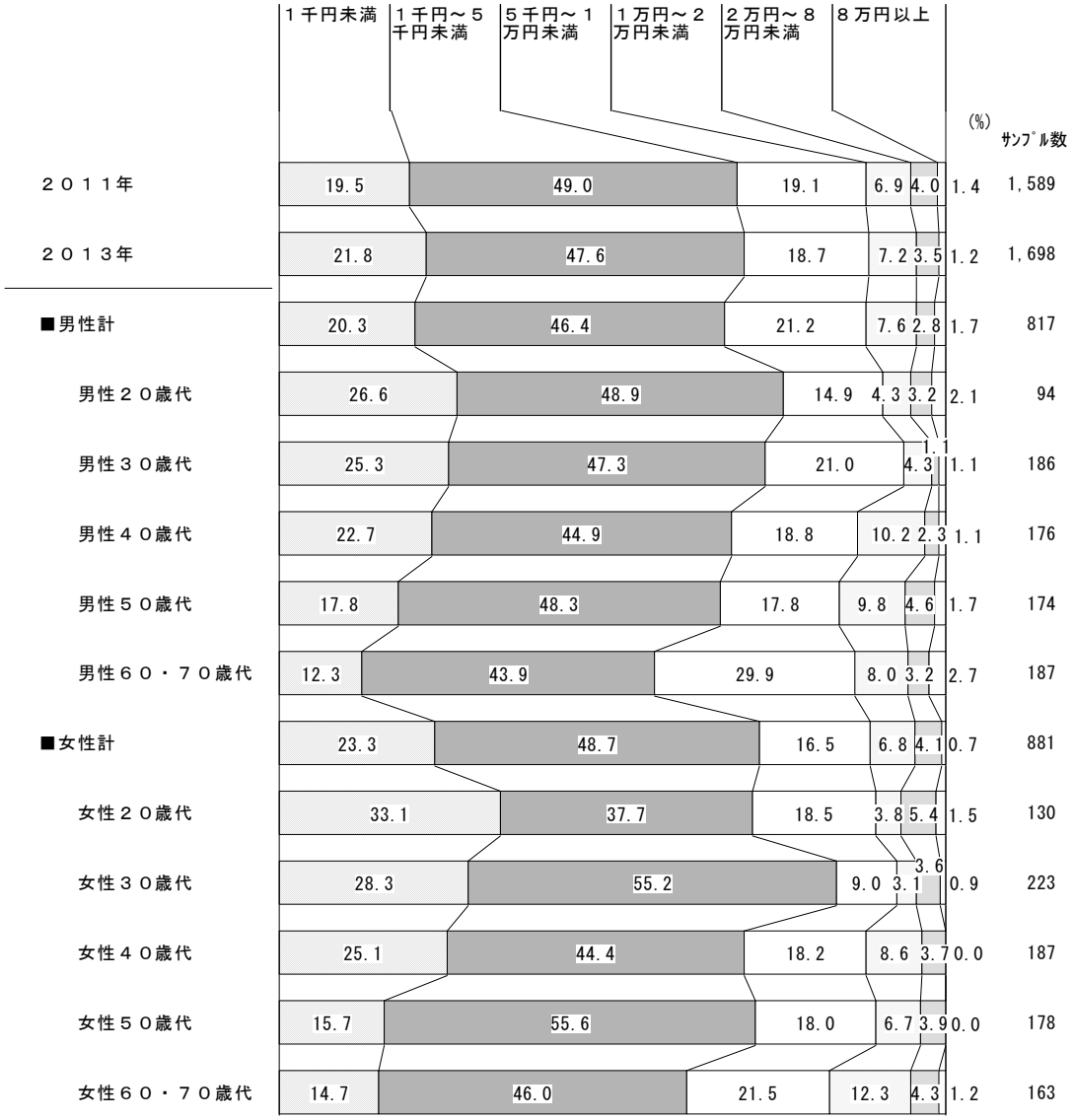
窓口で支払う金額は、「１千円～５千円未満」が 47.6%と半数を占めている。次いで「１千円未満」（21.8%）、「５千円～１万円未満」（18.7%）がそれぞれ 2 割であり、全体の 9 割（88.1%）は１万円未満の支払いとなっている。

性・年代別に見ると、男女ともに 60・70 歳代では「1 千円未満」の割合が低く、「5 千円以上」支払っている割合が 4 割と他の年代より高くなっている。

2011 年と比較すると同じような結果となっており、傾向は変化していない。

問８　１か月あたりの自己負担額

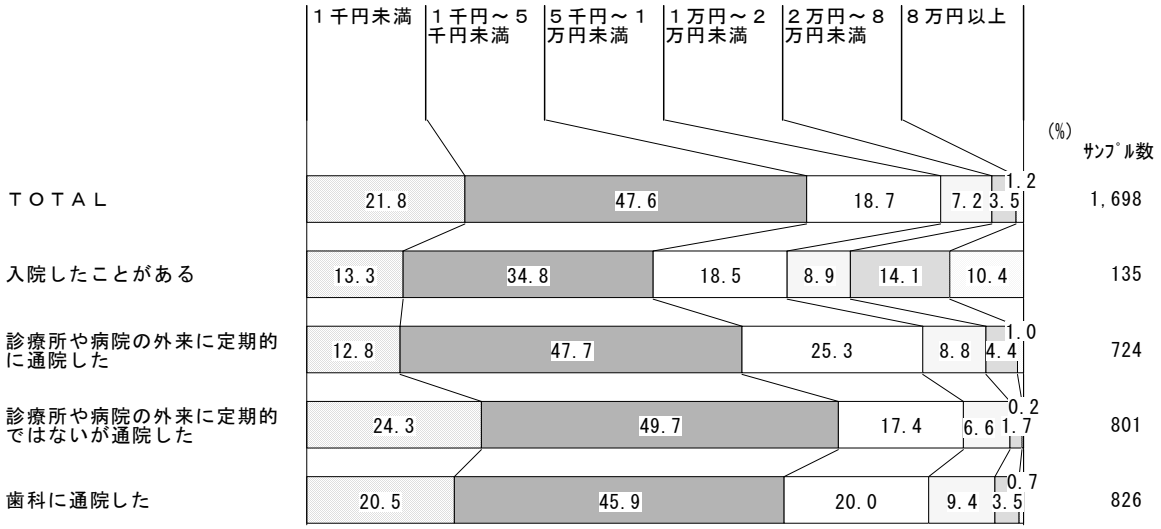
【最近１年間での医療機関利用者】



受診状況別（p.8：問７参照）に見ると、『入院したことがある』人では自己負担額２万円以上の割合が他の層より高く、２割強（24.5%）となっている。また、『外来に定期的に通院した』人では「５千円～１万円未満」、『歯科に通院した』人では「１万円～２万円未満」の割合が他の層より高くなっている。

問８　１か月あたりの自己負担額

【最近１年間での医療機関利用者】



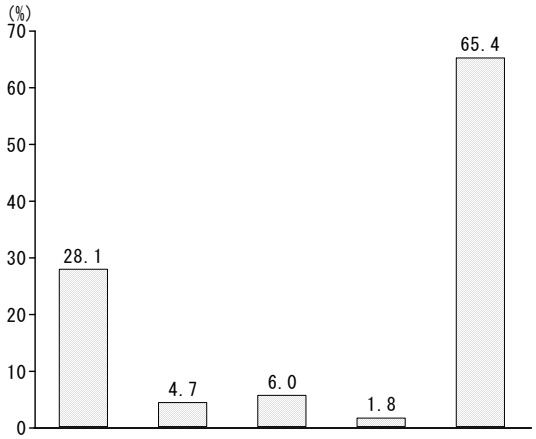
３．１．４　本人または家族の治療状況（問９）

問９　あなた自身またはご家族の中に、以下のような状態にあてはまる方はいらっしゃいますか。当てはまるものを選んでください。（回答は該当するものすべて）

本人または家族の治療状況は、「慢性疾患で現在治療中の人がいる」が 3 割（28.1%）、「介護保険制度のサービスを利用している人がいる」が 6.0%、「心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる」が 4.7%である。6 割強（65.4%）は、現在治療中等の人はいないと回答している。

性・年代別に見ると、男女ともに 50 歳代以上で「慢性疾患で現在治療中の人がいる」世帯の割合が高くなっている。

問９　本人または家族の治療状況（複数回答）



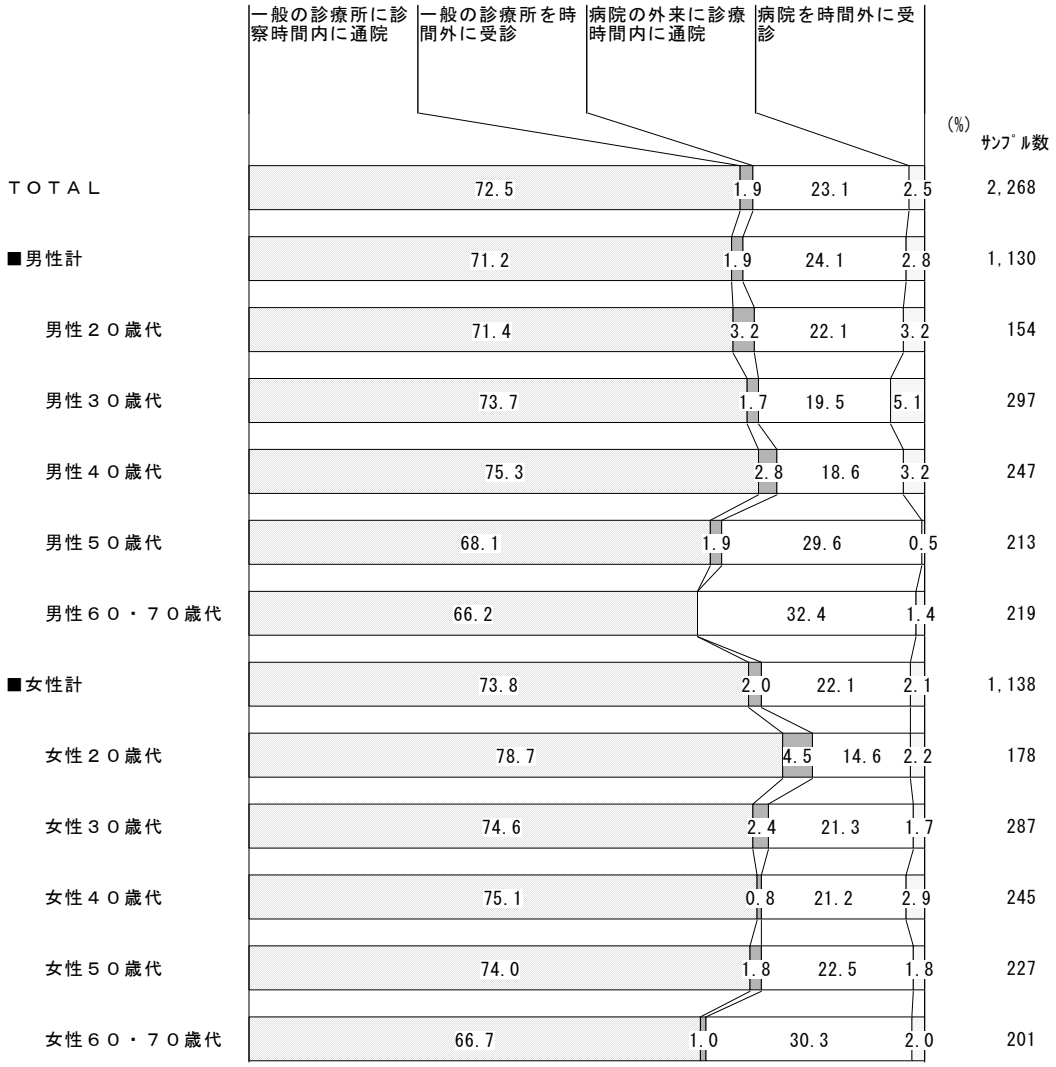
	性・年代	n	1 慢性疾患で現在治療中の人がいる	2 心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	3 介護保険制度のサービスを利用している人がいる	4 １年以内に介護保険制度のサービスの必要な人がいる	5 上記に当てはまる人はいない
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	28.1	4.7	6.0	1.8	65.4
1	■男性計	1,130	27.8	5.0	6.6	1.7	64.9
2	男性２０歳代	154	14.3	3.9	5.8	3.2	78.6
3	男性３０歳代	297	12.8	4.7	3.7	0.0	81.1
4	男性４０歳代	247	21.5	3.6	5.7	2.0	72.1
5	男性５０歳代	213	37.6	5.2	8.5	2.3	54.0
6	男性６０・７０歳代	219	55.3	7.3	10.5	1.8	35.6
7	■女性計	1,138	28.5	4.5	5.4	1.8	66.0
8	女性２０歳代	178	19.7	2.8	5.1	1.7	75.3
9	女性３０歳代	287	15.0	3.1	5.2	0.3	79.4
10	女性４０歳代	245	22.4	5.3	4.9	1.6	71.0
11	女性５０歳代	227	42.3	4.0	7.0	2.6	52.4
12	女性６０・７０歳代	201	47.3	7.5	4.5	3.5	47.8

３．１．５　直近に外来受診した医療機関（問１０）

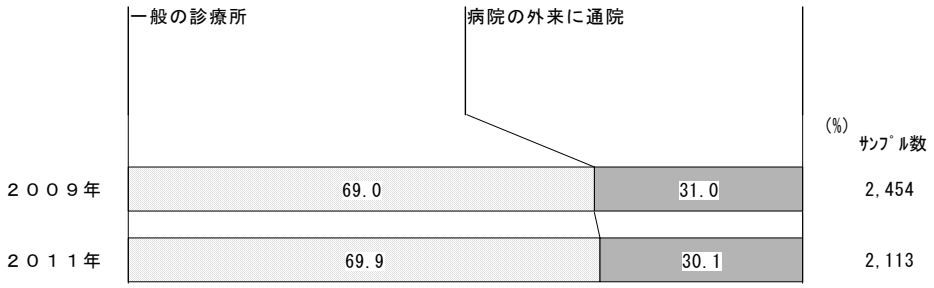
問１０　あなたが一番最近、外来（通院）受診した医療機関は次のどれですか。ここ１年間は医療機関にかかっていない方も、一番最近受診した医療機関についてお答えください。（回答は１つ）

直近に外来（通院）受診した医療機関としては、7 割強（72.5%）が「一般の診療所に診察時間内に通院」と回答している。時間外を合わせると 7 割強（74.4%）が診療所を、2 割強（25.6%）が病院を受診した結果となっている。なお、時間外の受診は「一般の診療所を時間外に受診」（1.9%）、「病院を時間外に受診」（2.5%）、それぞれ 2%前後となっている。

問１０　直近に外来（通院）受診した医療機関



問１０　直近に外来（通院）受診した医療機関　＊過去参考値



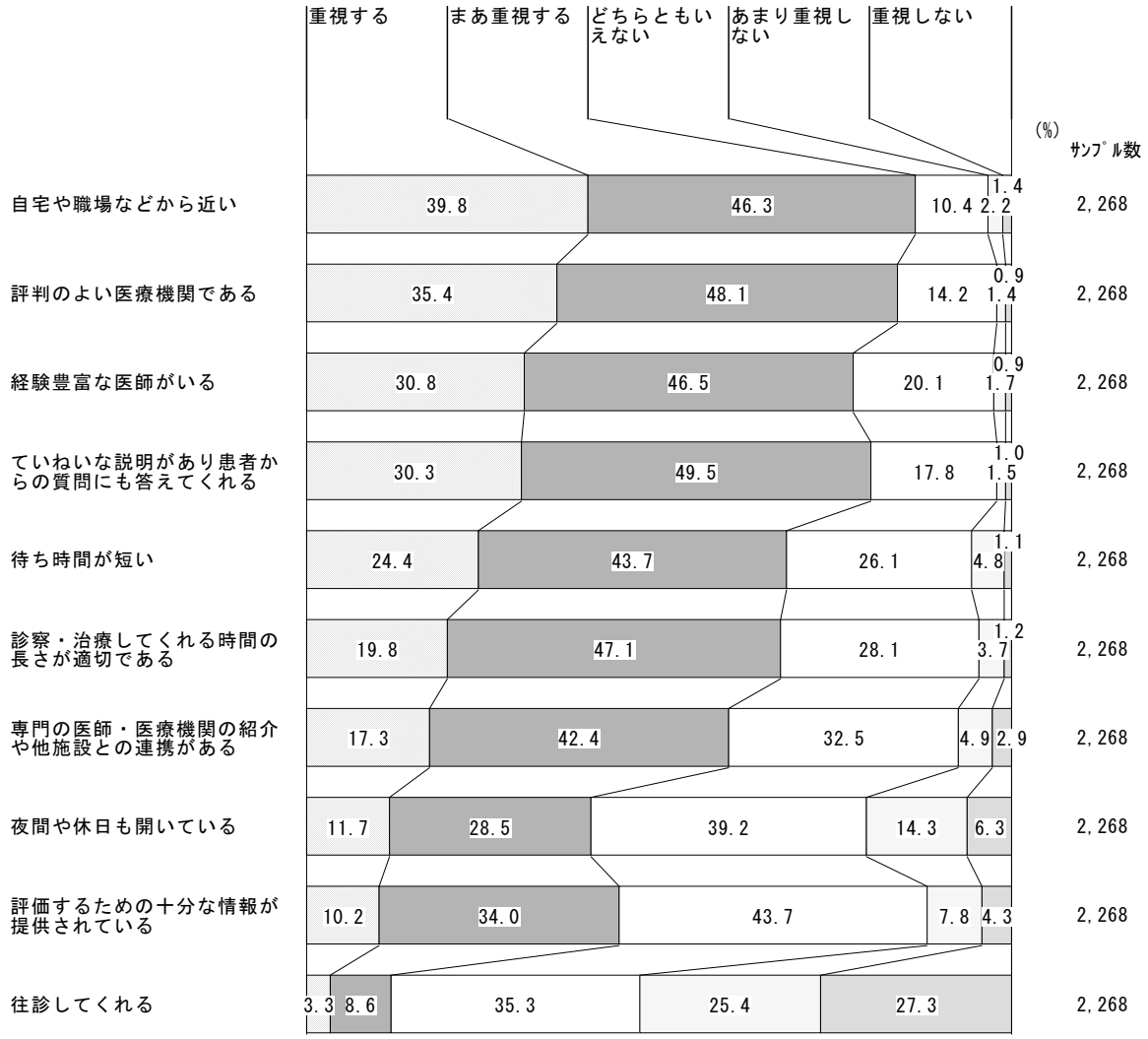
３．２　医療機関に対する重視度と満足度

３．２．１　医療機関選択時に重視する項目（問１１－１）

問１１－１　あなたは外来（通院）の医療機関を選ぶ際、どのようなことを重視していますか。次の項目ごとに重視度をお答えください。（回答はそれぞれ１つずつ）

外来（通院）の医療機関を選ぶ際に重視する項目は、「自宅や職場などから近い」（39.8%）が４割でもっとも「重視する」割合が高く、次いで「評判のよい医療機関である」（35.4%）、「経験豊富な医師がいる」（30.8%）、「ていねいな説明があり患者からの質問にも答えてくれる」（30.3%）となっている。

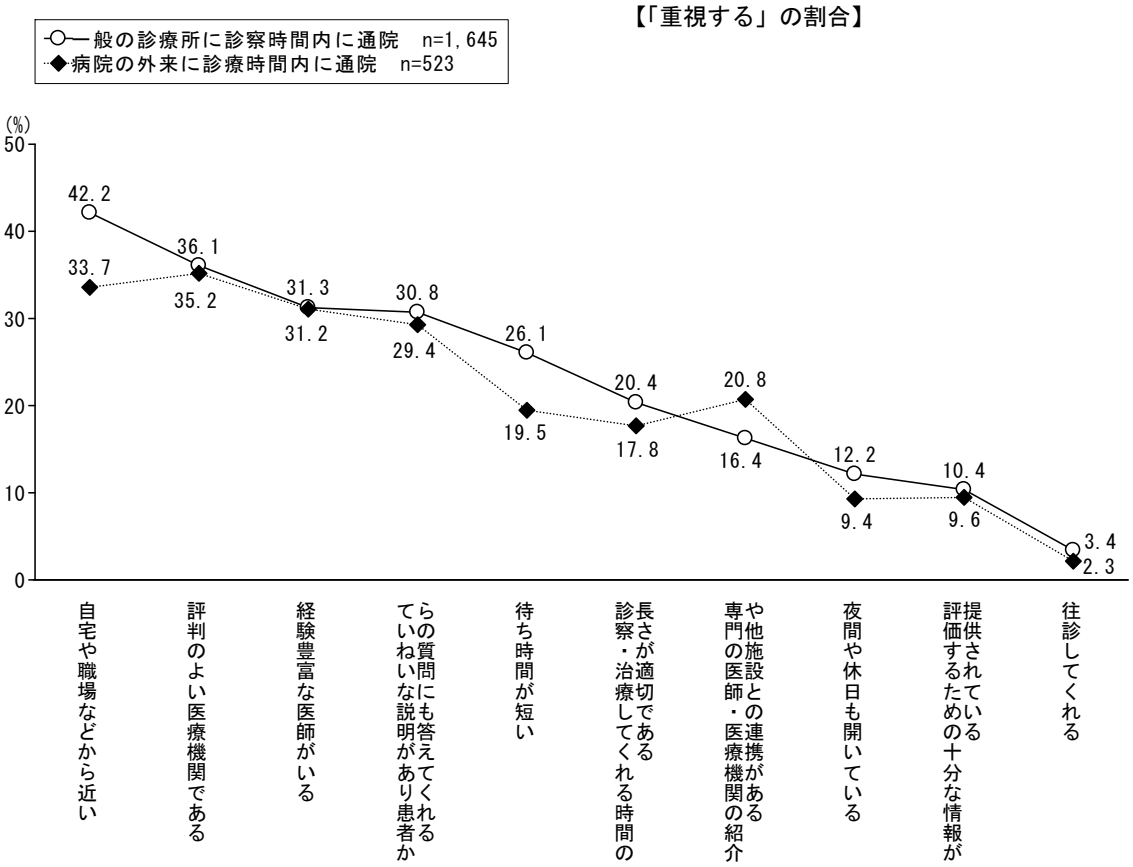
問１１－１　医療機関選択時に重視する項目



直近に外来受診した医療機関別（p.13：問 10 参照）に見ると、『一般の診療所に診療時間内に通院』している人では「自宅や職場などから近い」（42.2%）がもっとも重視されているが、『病院の外来に診療時間内に通院』している人は「評判のよい医療機関である」（35.2%）をもっとも重視している。

この他、差が生じている項目として、『一般の診療所に診療時間内に通院』している人は「待ち時間が短い」を、『病院の外来に診療時間内に通院』している人は「専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある」を重視する傾向となっている。

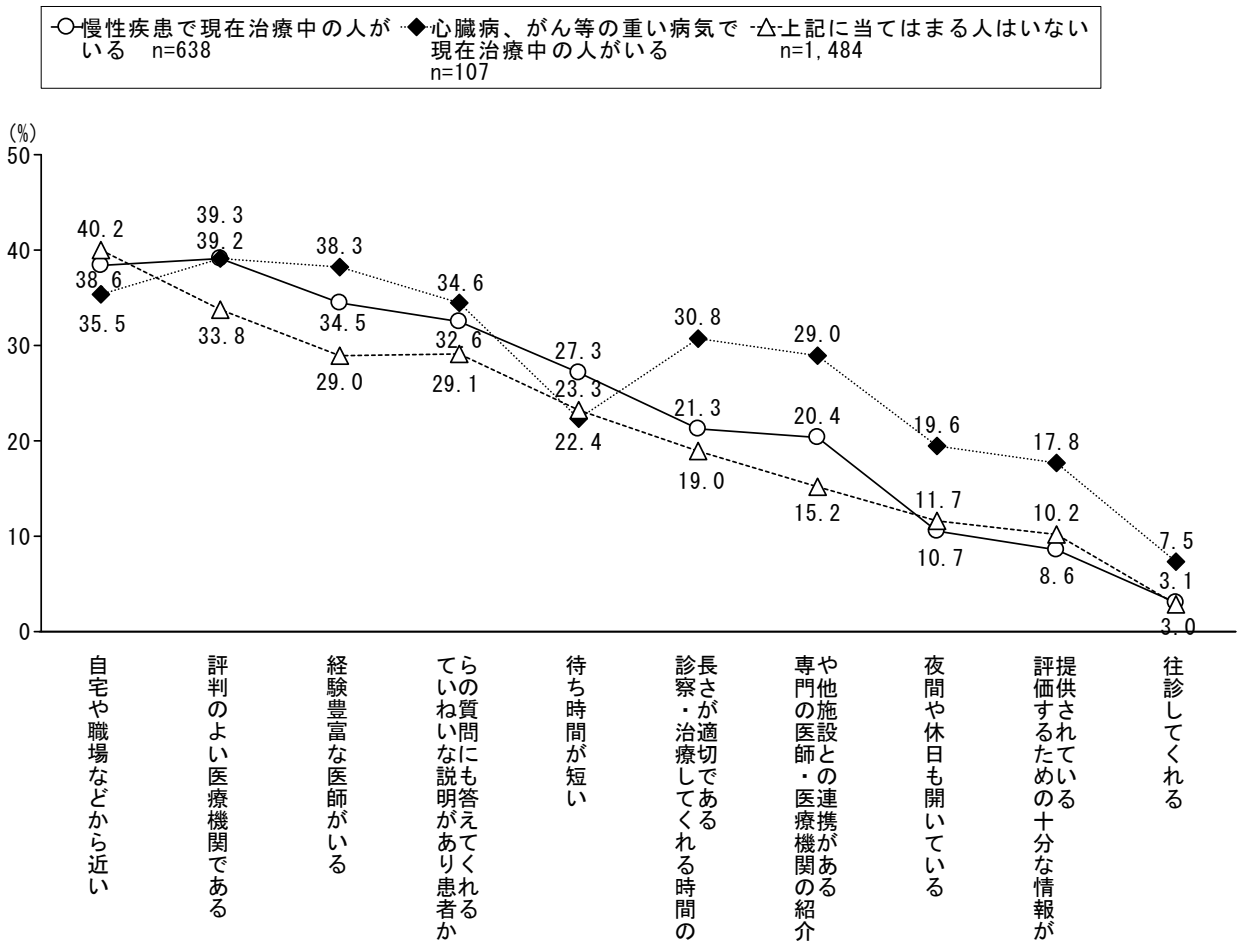
問１１－１　医療機関選択時に重視する項目



本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、他の層より「診察・治療してくれる時間の長さが適切である」や「専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある」、「夜間や休日も開いている」、「評価するための十分な情報が提供されている」、「往診してくれる」の重視度が高い。

問１１－１　医療機関選択時に重視する項目

【「重視する」の割合】



３．２．２　直近受診医療機関に対する項目別の満足度（問１１－２）

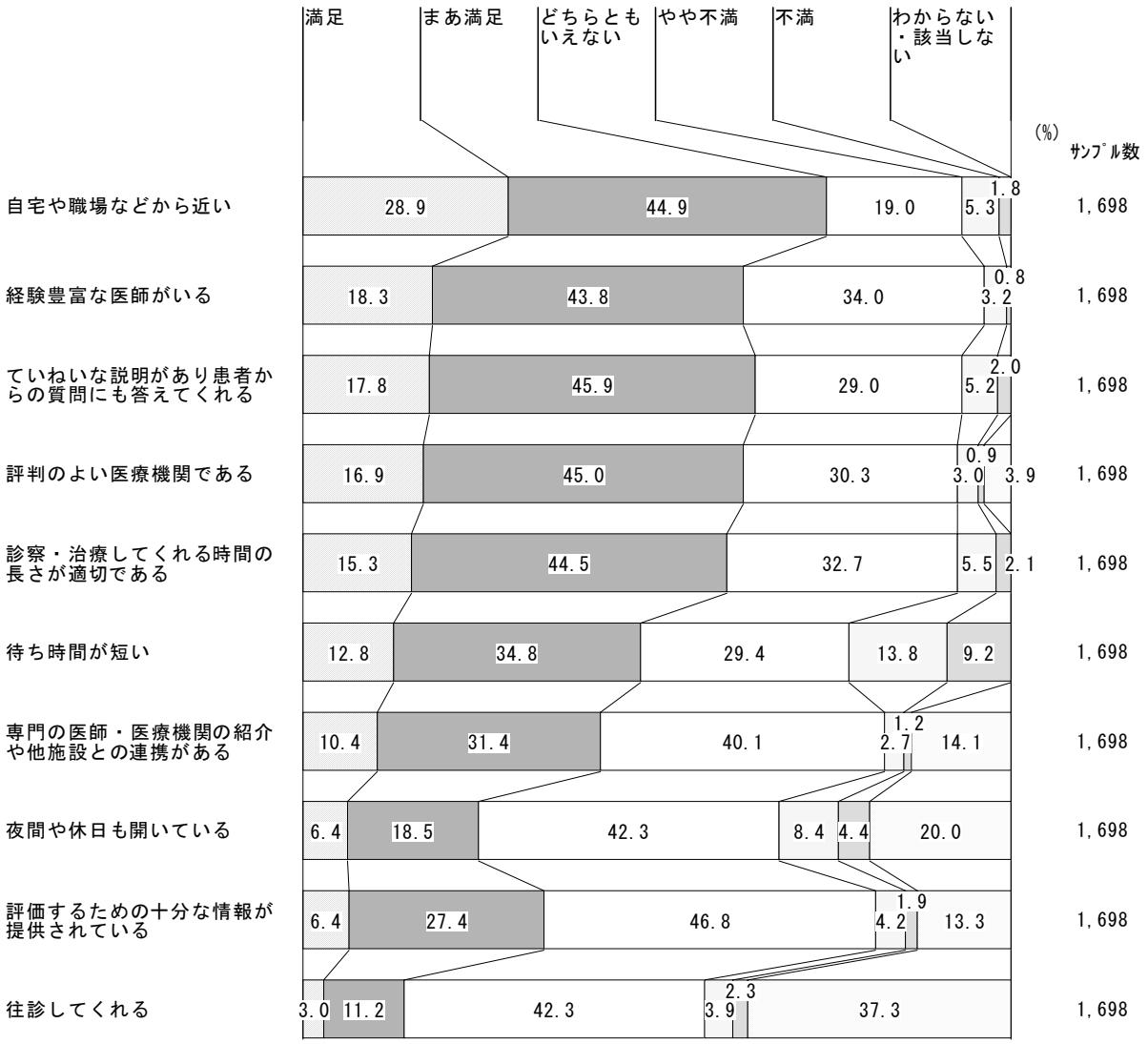
問１１－２　一番最近に外来（通院）受診した医療機関について、項目ごとの満足度をお答えください。
（回答はそれぞれ１つずつ）

直近に受診した医療機関に対する「満足」の割合では、「自宅や職場などから近い」（28.9%）がもっとも高い。次いで「経験豊富な医師がいる」（18.3%）、「ていねいな説明があり患者からの質問にも答えてくれる」（17.8%）、の順である。

一方、不満（「やや不満」＋「不満」）の割合は、「待ち時間が短い」（23.0%）、「夜間や休日も開いている」（12.8%）の項目で高くなっている。

問１１－２　直近受診医療機関に対する項目別の満足度

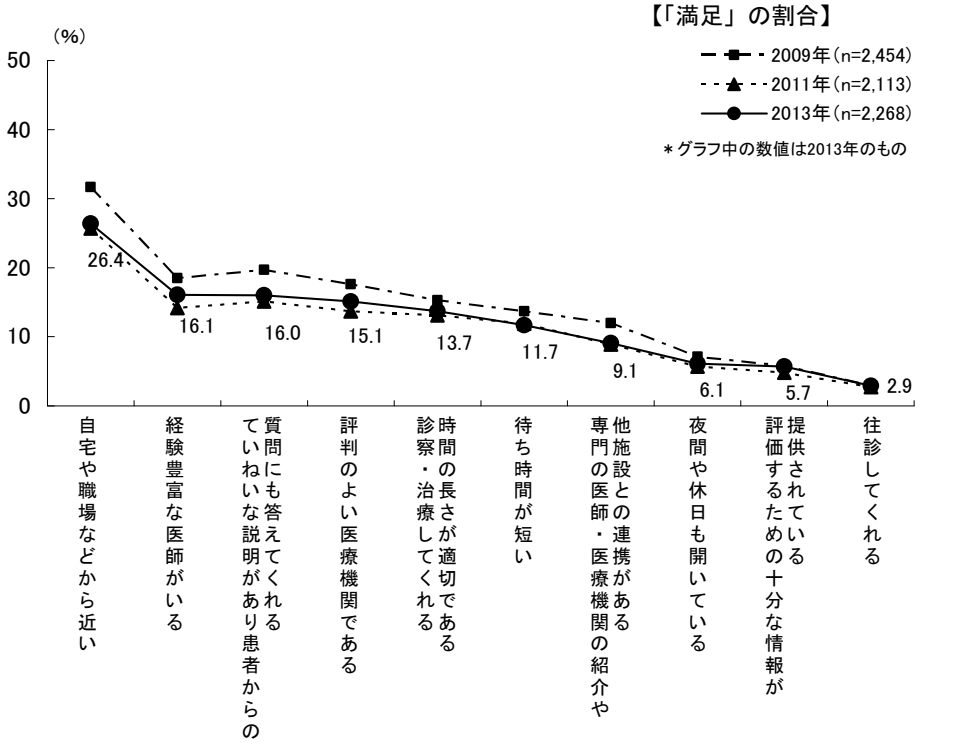
【最近１年間での医療機関利用者】



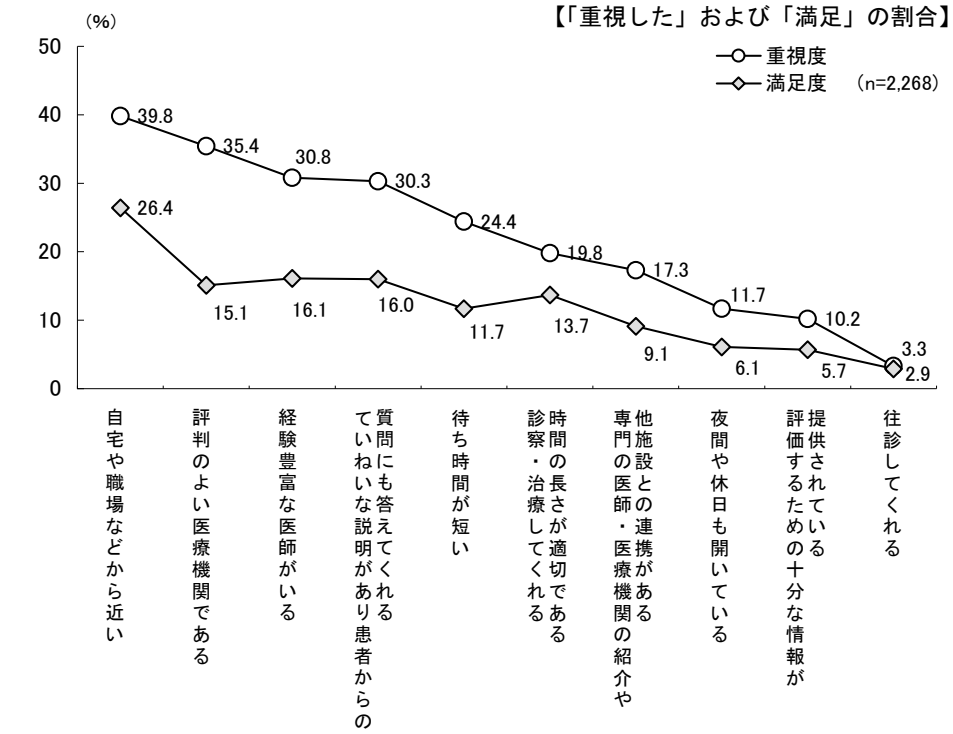
2009 年、2011 年と比較すると、「自宅や職場などから近い」、「経験豊富な医師がいる」「ていねいな説明があり患者からの質問に答えてくれる」など「満足」した項目の上位は変わらず、全体的に 2011 年とほぼ同程度の「満足」の割合となっている。

また、医療機関選択時に重視する項目（p.14：問 11－1 参照）と直近受診医療機関に対する項目別の満足度（p.17：問 11－2 参照）との関係を見ると、重視する上位 5 項目（「自宅や職場などから近い」、「評判のよい医療機関である」、「経験豊富な医師がいる」、「ていねいな説明があり患者からの質問にも答えてくれる」、「待ち時間が短い」）において、満足度との大きな開きが見られた。

問１１－２　直近受診医療機関に対する項目別の満足度



問１１　直近受診医療機関に対する項目別の重視度と満足度



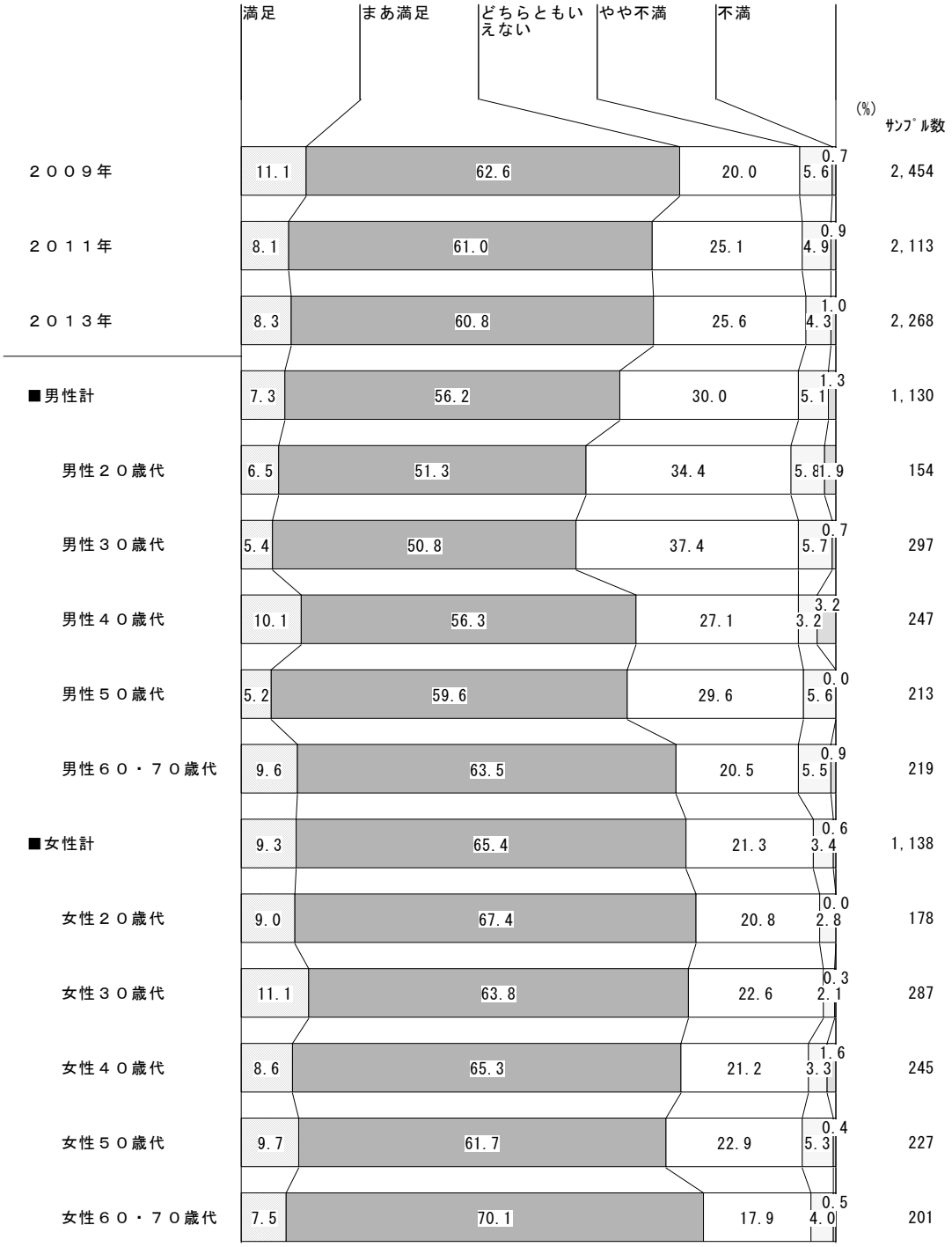
３．２．３　直近受診医療機関に対する総合満足度（問１２）

問１２　上記のような内容をすべて考慮すると、外来（通院）受診したその医療機関には総合的にどの程度満足していますか。（回答は１つ）

外来（通院）受診した医療機関の総合的な満足度は、「満足」が１割弱（8.3%）、「まあ満足」が６割（60.8%）と、７割の人がおおむね満足と回答している。「やや不満」は 4.3%、「不満」は 1.0%であった。性・年代別では満足度に大きな違いは見られなかった。

2009 年、2011 年との比較では、2009 年に比べて 2011 年および 2013 年の「満足」の割合が低く、「どちらとも言えない」が徐々に高くなっている。

問１２　直近受診医療機関に対する総合満足度

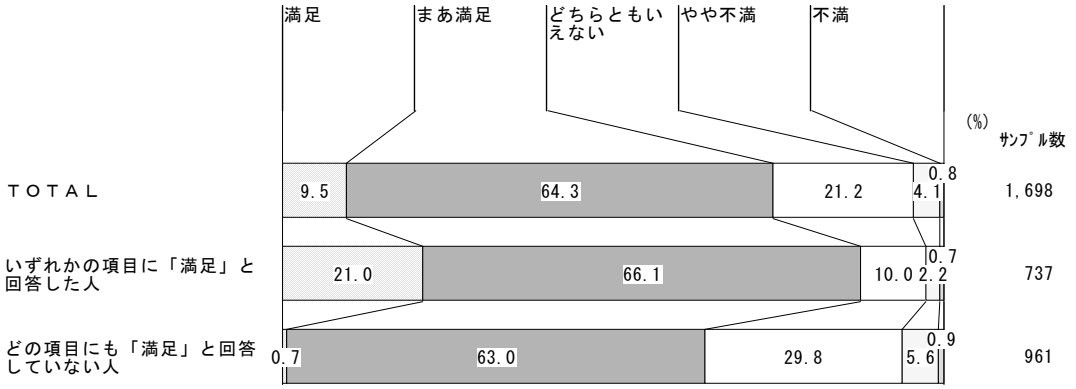


問 11－2 の各項目で「満足」と答えた人（p.17 参照）と問 12 の総合満足度の関係を見ると、いずれかの項目に「満足」と回答した人の 9 割弱（87.1%）は、直近に受診した医療機関に対して「満足」「まあ満足」と回答している。

項目別で「満足」の回答割合がもっとも高かった『自宅や職場などから近い』では、総合満足度における「満足」の回答が 2 割強（24.8%）にとどまったのに比べ、他の項目で満足と答えた人の総合満足度における「満足」の回答は高めの割合になっている。

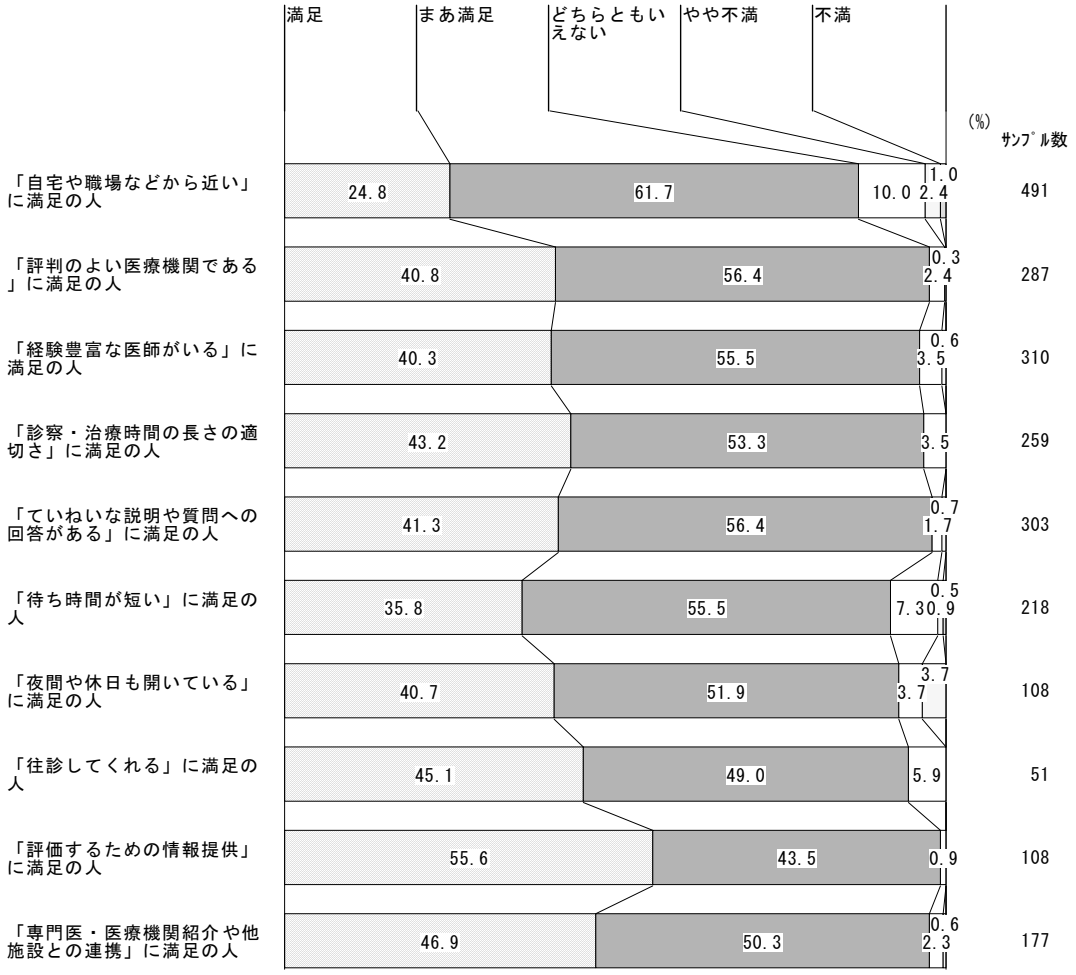
問１２　直近受診医療機関に対する総合満足度

【最近１年間での医療機関利用者】



問１２　直近受診医療機関に対する総合満足度

【最近１年間での医療機関利用者】



３．３　受診意向と健康管理意識

３．３．１　健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（問１７）

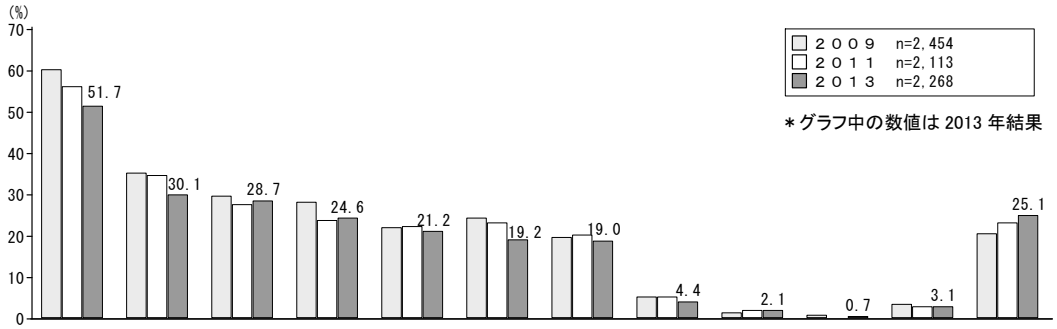
問１７　あなたは、高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリックシンドローム」を避けるため、あるいは健康維持のために日ごろからどのような取り組みを行っていますか。（次の説明をお読みのうえお答えください。）（回答は該当するものすべて）

健康維持・生活習慣病予防のための取り組みとして、「バランスのよい食事と節制を心がけている」（51.7%）が 5 割ともっとも高く、次いで「日常生活の中で意識して体を動かしている」（30.1%）、「毎年、健診あるいは人間ドックを受けている」（28.7%）の順となっている。「何も気にしていない（特に何もしていない）」は 2 割強（25.1%）、「メタボと診断されたが、特にしていることはない」は 3.1%であった。

性・年代別に見ると、上位 4 項目については男性 60・70 歳代と女性の 50 歳代以上で高く、「生活習慣病で、医師の指示に従って治療を受けている」は男女ともに 60・70 歳代が他の年代に比べて高い。また、「バランスのよい食事と節制を心がけている」については女性の割合が高い。「何も気にしていない（特に何もしていない）」は男性の割合が高く、特に 20・30 歳代では 4 割となっている。

2009 年、2011 年との比較では、「何も気にしていない（特に何もしていない）」の割合が徐々に高くなっている。

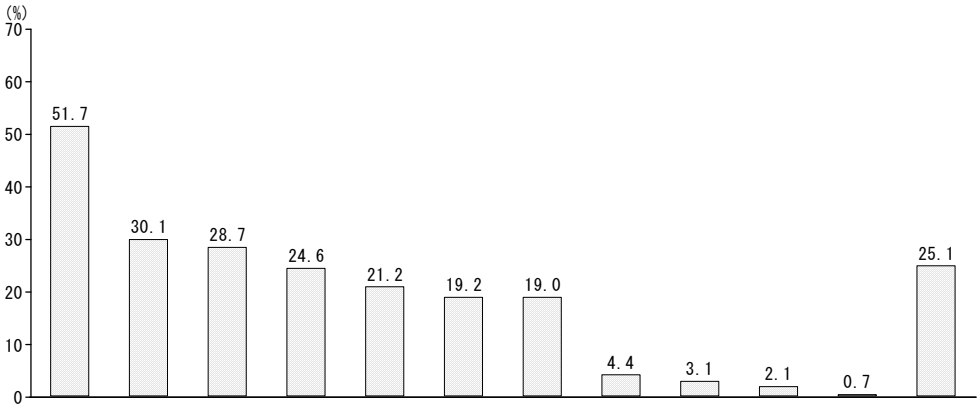
問１７　健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（複数回答）



	性・年代（２０１３）	n	1 心がけている バランスのよい食事と節制を	2 動かしている 日常生活の中で意識して体を	7 クを受けている 毎年、健診あるいは人間ドッ	6 を心がけている 日常的に体重や血圧等の測定	5 アルコールを控えている	3 定期的に運動している	4 喫煙を控えている	10 従って治療を受けている 生活習慣病で、医師の指示に	8 慣改善に取り組んでいる 特定保健指導を受け、生活習	11 その他	9 していることはない メタボと診断されたが、特に	12 もしていない） 何も気にしていない（特に何
1	２００９年	2,454	60.5	35.3	29.8	28.4	22.3	24.4	20.0	5.4	1.5	1.0	3.7	20.6
2	２０１１年	2,113	56.4	34.9	27.8	23.9	22.5	23.4	20.5	5.5	2.3	0.4	3.2	23.3
3	２０１３年	2,268	51.7	30.1	28.7	24.6	21.2	19.2	19.0	4.4	2.1	0.7	3.1	25.1
4	■男性計	1,130	41.6	27.6	27.6	22.0	20.5	21.8	18.5	5.0	3.6	0.8	4.5	30.0
5	男性２０歳代	154	28.6	18.8	5.8	6.5	24.0	20.8	16.2	0.6	2.6	0.6	0.6	40.9
6	男性３０歳代	297	33.3	19.2	16.5	10.1	18.9	20.2	16.2	2.0	1.3	0.0	1.7	41.8
7	男性４０歳代	247	40.5	23.1	27.1	16.6	19.8	25.1	17.8	3.2	3.2	0.4	4.9	30.0
8	男性５０歳代	213	46.0	31.5	32.4	28.6	21.1	18.3	19.7	6.6	6.1	1.4	6.6	23.5
9	男性６０・７０歳代	219	58.9	46.6	53.9	48.9	20.5	24.2	22.8	12.3	5.5	1.8	8.7	12.8
10	■女性計	1,138	61.7	32.6	29.8	27.2	21.9	16.6	19.5	3.9	0.5	0.5	1.8	20.2
11	女性２０歳代	178	51.1	28.7	12.9	13.5	26.4	6.7	29.2	0.6	0.0	0.6	0.0	28.7
12	女性３０歳代	287	58.9	25.1	22.0	18.1	21.6	12.9	20.9	1.0	0.3	0.0	1.4	26.8
13	女性４０歳代	245	59.6	30.2	36.7	24.1	21.2	11.8	16.3	2.0	0.0	0.4	0.4	21.6
14	女性５０歳代	227	67.4	38.3	37.0	36.1	21.6	22.5	14.5	3.1	1.3	0.0	4.0	12.8
15	女性６０・７０歳代	201	71.1	43.3	39.3	45.8	19.4	29.9	18.4	13.9	1.0	2.0	3.0	10.0

本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がいる』世帯の人は何らかの取り組みをしている割合が高い。慢性疾患や重病、介護サービス利用等に当てはまる人はいない（『上記に当てはまる人はいない』）世帯の人は総じて取り組みの割合が低く、「何も気にしていない（特に何もしていない）」人が 3 割（30.2%）を占めている。

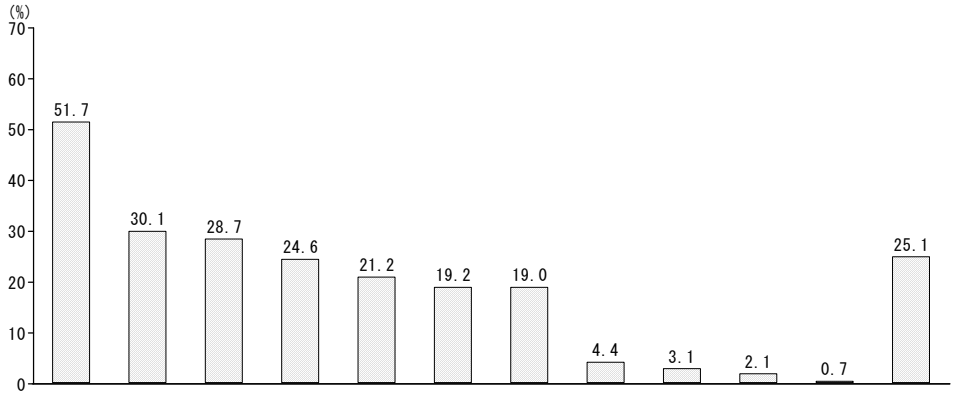
問１７　健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（複数回答）



	問９　本人または家族の治療状況（複数回答）	n	1 心がけているバランスのよい食事と節制を	2 動かしている日常生活の中で意識して体を	7 クを受けている毎年、健診あるいは人間ドッ	6 を心がけている日常的に体重や血圧等の測定	5 アルコールを控えている	3 定期的に運動している	4 喫煙を控えている	10 従って治療を受けている生活習慣病で、医師の指示に	9 していることはないメタボと診断されたが、特に	8 慣改善に取り組んでいる特定保健指導を受け、生活習	11 その他	12 もしていない）何も気にしていない（特に何
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	51.7	30.1	28.7	24.6	21.2	19.2	19.0	4.4	3.1	2.1	0.7	25.1
1	慢性疾患で現在治療中の人がいる	638	61.0	37.0	36.4	40.4	22.9	22.7	22.7	13.3	5.2	2.7	0.9	14.7
2	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	107	51.4	38.3	36.4	30.8	28.0	22.4	21.5	10.3	6.5	4.7	1.9	13.1
3	介護サービスを利用中、１年以内に利用予定	162	53.7	38.9	34.6	24.7	25.9	16.0	21.0	9.9	4.3	3.7	1.2	17.3
4	上記に当てはまる人はいない	1,484	47.8	26.5	24.9	18.1	20.5	18.1	17.5	0.7	2.2	1.6	0.6	30.2

加入者区分別に見ると、被保険者女性は「毎年、健診あるいは人間ドックを受けている」割合が、被扶養者女性では「バランスのよい食事と節制を心がけている」と「日常的に体重や血圧等の測定を心がけている」の割合が高めになっている。男性は被保険者、被扶養者ともに「何も気にしていない（特に何もしていない)」割合が高い。

問１７　健康維持・生活習慣病予防のための取り組み（複数回答）



	＊被保険者本人／被扶養者	n	1 心がけているバランスのよい食事と節制を	2 動かしている日常生活の中で意識して体を	7 クを受けている毎年、健診あるいは人間ドッ	6 を心がけている日常的に体重や血圧等の測定	5 アルコールを控えている	3 定期的に運動している	4 喫煙を控えている	10 従って治療を受けている生活習慣病で、医師の指示に	9 していることはないメタボと診断されたが、特に	8 慣改善に取り組んでいる特定保健指導を受け、生活習	11 その他	12 もしていない）何も気にしていない（特に何
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	51.7	30.1	28.7	24.6	21.2	19.2	19.0	4.4	3.1	2.1	0.7	25.1
1	■被保険者本人	1,628	48.5	29.8	31.7	22.9	20.0	19.7	18.6	4.4	3.6	2.8	0.6	26.0
2	男性	1,042	42.8	28.0	28.9	22.2	19.9	22.0	18.5	4.9	4.7	3.7	0.9	29.3
3	女性	586	58.5	32.9	36.7	24.1	20.3	15.7	18.6	3.6	1.7	1.0	0.0	20.1
4	■被扶養者	640	59.8	30.9	21.1	29.1	24.2	17.8	20.2	4.4	1.9	0.3	0.9	22.8
5	男性	88	27.3	22.7	12.5	20.5	28.4	19.3	18.2	5.7	2.3	2.3	0.0	38.6
6	女性	552	65.0	32.2	22.5	30.4	23.6	17.6	20.5	4.2	1.8	0.0	1.1	20.3

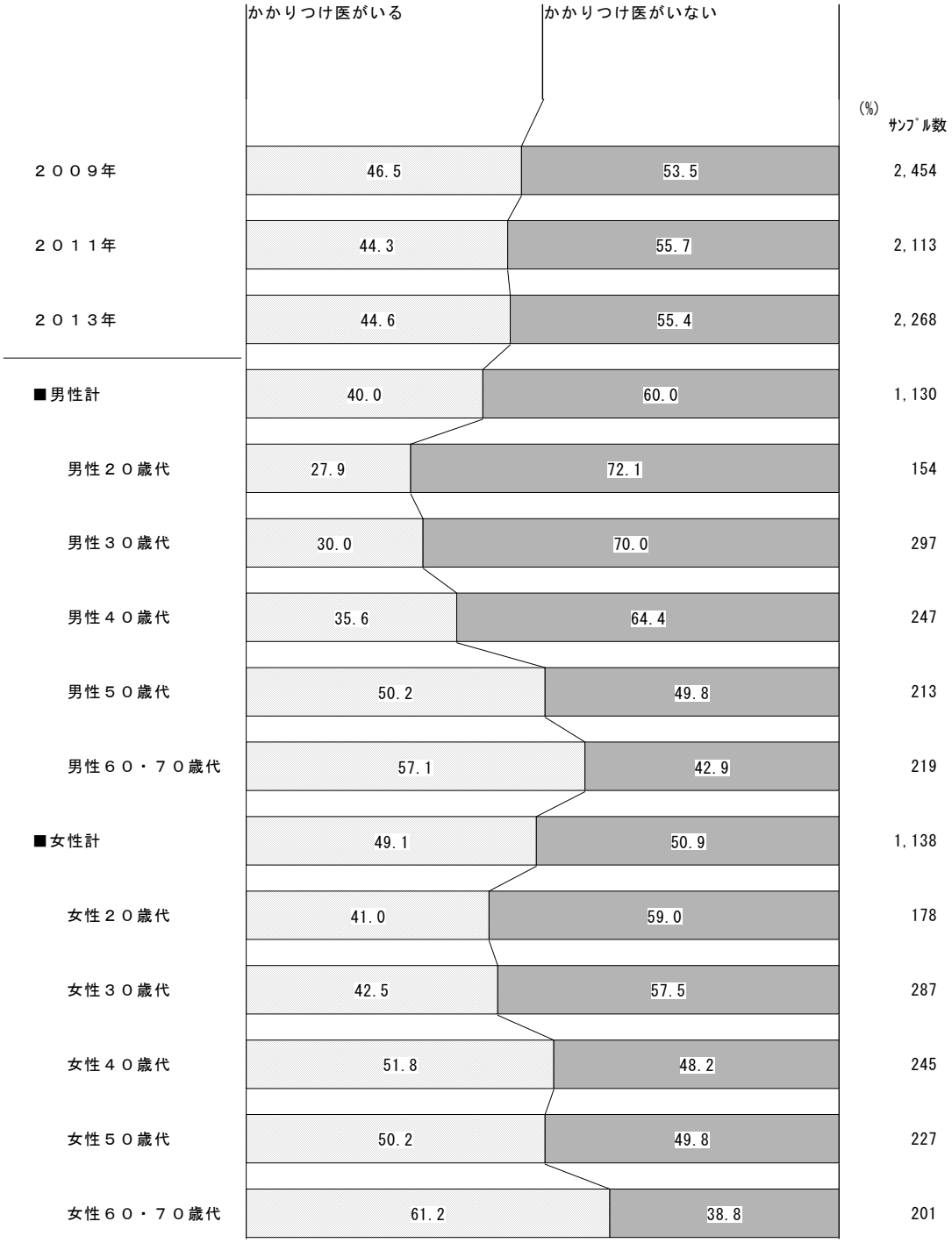
３．３．２　かかりつけ医の有無（問１５）

問１５　あなたには、熱が高いなど体の具合が悪い時、まず診てもらったり相談したりすることのできる「かかりつけ医」がいますか。（回答は１つ）

4 割強（44.6%）はかかりつけ医がいると回答しており、2009 年、2011 年と同程度の割合となっている。

性・年代別に見ると、男性の 20～40 歳代でかかりつけ医がいない割合が高く、特に男性 20 歳代（72.1%）、30 歳代（70.0%）は 7 割が「かかりつけ医がいない」と回答している。一方、60・70 歳代では「かかりつけ医がいる」と回答した割合が男性（57.1%）、女性（61.2%）ともに高く、6 割にかかりつけ医がいる。

問１５　かかりつけ医の有無



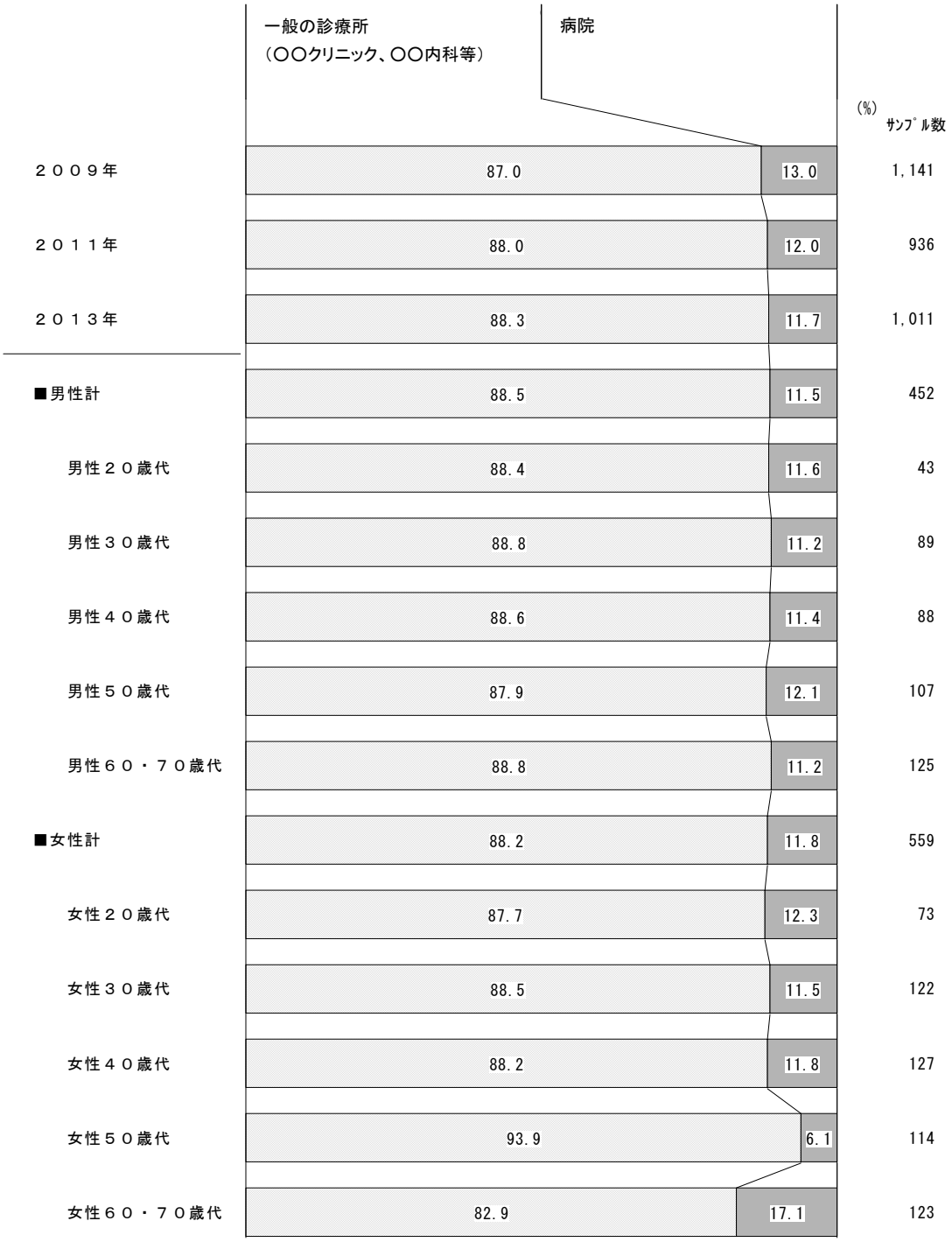
付問１　その医師のいる医療機関は、次のどれですか。（回答は１つ）【かかりつけ医がいる人】

かかりつけ医の所属する医療機関は、9 割（88.3%）が「一般の診療所」と回答している。これは、2009 年、2011 年と同程度の割合となっている。

性・年代別で特に違いは見られない。

付問１　かかりつけ医の所属医療機関

【かかりつけ医がいる人】



付問２　その医師をかかりつけ医として選んだ理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）
【かかりつけ医がいる人】

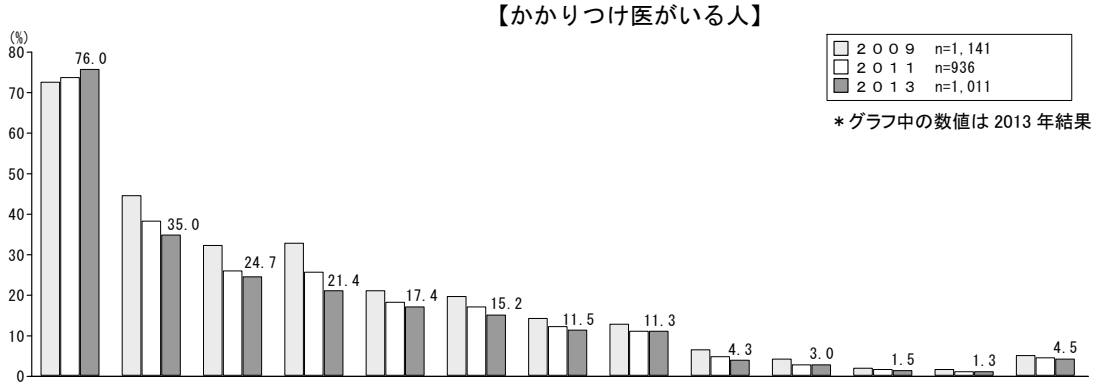
かかりつけ医を選んだ理由は、「自宅から近いから」（76.0%）がもっとも多く、7 割以上の人が選択している。次いで「医師の人柄がよいから」（35.0%）、「あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから」（24.7%）、「病気や治療についてよく説明してくれるから」（21.4%）の順となっている。

性・年代別に見ると、男性 60・70 歳代で「あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから」や「他の病院・医師から薦められたから」の割合が高い。また、女性 60・70 歳代では「最新の設備を備えているから」の割合が高くなっている。

2009 年、2011 年との比較では、「自宅から近いから」の割合が徐々に高くなっており、一方でそれ以外の項目の割合は徐々に低くなっている。

付問２　かかりつけ医を選んだ理由（複数回答）

【かかりつけ医がいる人】



＊グラフ中の数値は 2013 年結果

	性・年代（２０１３）	n	1 自宅から近いから	4 医師の人柄がよいから	8 あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから	6 病気や治療についてよく説明してくれるから	3 評判がよかったから	7 どんな病気でも診てくれるから	5 医師の診療技術が優れているから	2 職場や学校から近いから	9 深夜や休日などの緊急時にも診てくれるから	11 最新の設備を整えているから	12 他の病院・医師から薦められたから	10 往診してくれるから	13 その他
1	２００９年	1,141	72.8	44.8	32.3	33.0	21.4	19.9	14.5	12.9	6.6	4.5	2.1	1.8	5.3
2	２０１１年	936	73.7	38.4	26.2	25.9	18.4	17.2	12.5	11.2	4.9	2.9	1.8	1.4	4.6
3	２０１３年	1,011	76.0	35.0	24.7	21.4	17.4	15.2	11.5	11.3	4.3	3.0	1.5	1.3	4.5
4	■男性計	452	78.5	32.3	26.8	18.6	17.5	16.6	10.8	11.5	4.0	3.1	2.2	2.0	3.8
5	男性２０歳代	43	83.7	20.9	30.2	14.0	20.9	16.3	9.3	4.7	9.3	2.3	0.0	2.3	2.3
6	男性３０歳代	89	76.4	28.1	16.9	10.1	14.6	7.9	11.2	12.4	2.2	2.2	2.2	1.1	7.9
7	男性４０歳代	88	79.5	34.1	21.6	21.6	19.3	18.2	13.6	13.6	5.7	0.0	1.1	2.3	2.3
8	男性５０歳代	107	79.4	32.7	27.1	15.9	14.0	19.6	6.5	12.1	4.7	5.6	0.9	1.9	1.9
9	男性６０・７０歳代	125	76.8	37.6	36.0	26.4	20.0	19.2	12.8	11.2	1.6	4.0	4.8	2.4	4.0
10	■女性計	559	73.9	37.2	23.1	23.6	17.4	14.1	12.0	11.1	4.5	2.9	0.9	0.7	5.2
11	女性２０歳代	73	76.7	26.0	23.3	19.2	19.2	11.0	8.2	15.1	2.7	1.4	1.4	1.4	4.1
12	女性３０歳代	122	72.1	29.5	26.2	22.1	22.1	12.3	13.1	9.8	4.1	0.0	0.0	0.0	4.9
13	女性４０歳代	127	70.9	41.7	17.3	24.4	16.5	18.1	11.8	15.7	5.5	1.6	0.0	0.0	7.1
14	女性５０歳代	114	74.6	46.5	26.3	25.4	19.3	17.5	14.0	12.3	2.6	2.6	2.6	0.9	4.4
15	女性６０・７０歳代	123	76.4	38.2	22.8	25.2	10.6	10.6	11.4	4.1	6.5	8.1	0.8	1.6	4.9

３．３．３　早期受診意向の有無（問１３）

問１３　あなたは、熱が出るなど体の具合が悪い時には早めに医療機関を受診する方ですか。 （回答は１つ）

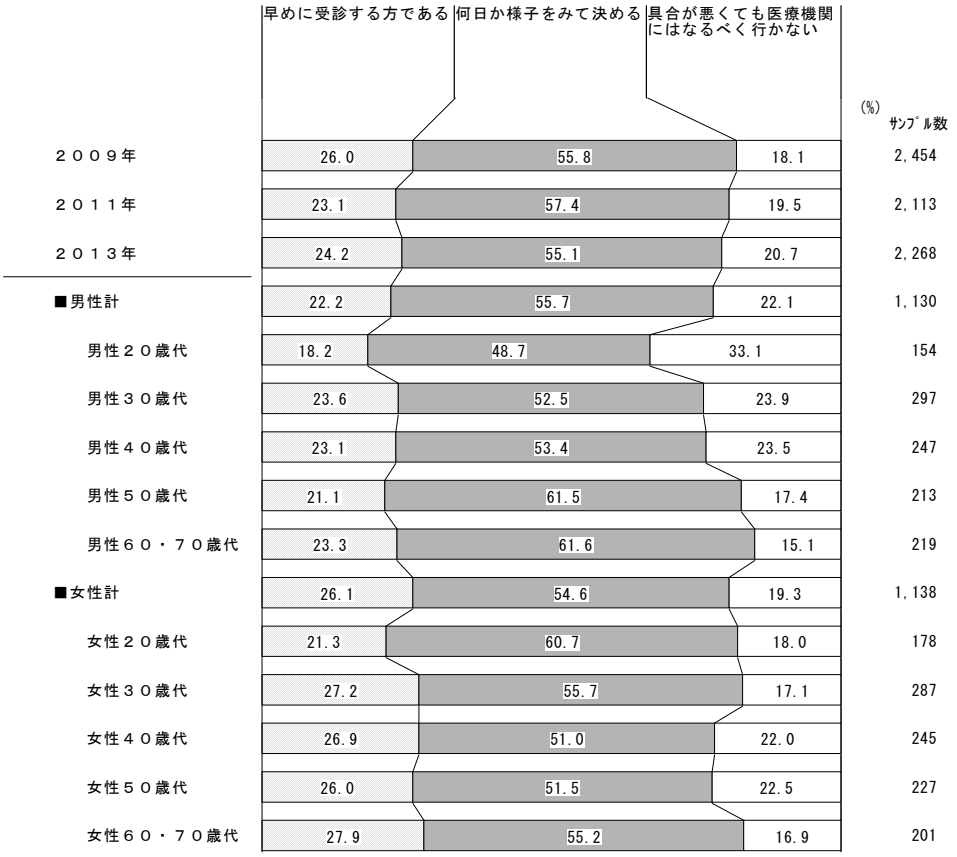
具合が悪いときの受診のタイミングは、「何日か様子を見て決める」が 5 割強（55.1%）を占め、「早めに受診する方である」（24.2%）と「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」（20.7%）がそれぞれ約 2 割となっている。

性・年代別に見ると、男性 20 歳代で「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」が 3 割強（33.1%）と他の層より高い。

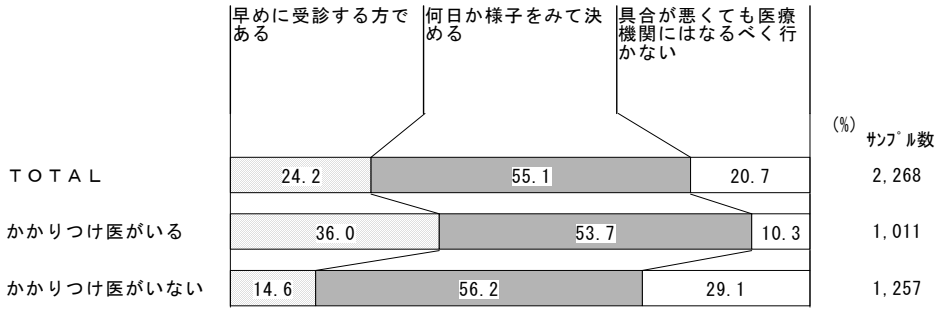
2009 年、2011 年との比較では、「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」の割合が徐々に高くなっている。

かかりつけ医の有無別（p.24：問 15 参照）に見ると、『かかりつけ医がいる』人では「早めに受診する方である」が 4 割弱（36.0%）と、『かかりつけ医がいない』人に比べてその割合が高く、一方『かかりつけ医がいない』人の 3 割（29.1%）は「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」と回答している。

問１３　早期受診意向の有無



問１３　早期受診意向の有無



３．３．４　初診時の受診意向（問１４）

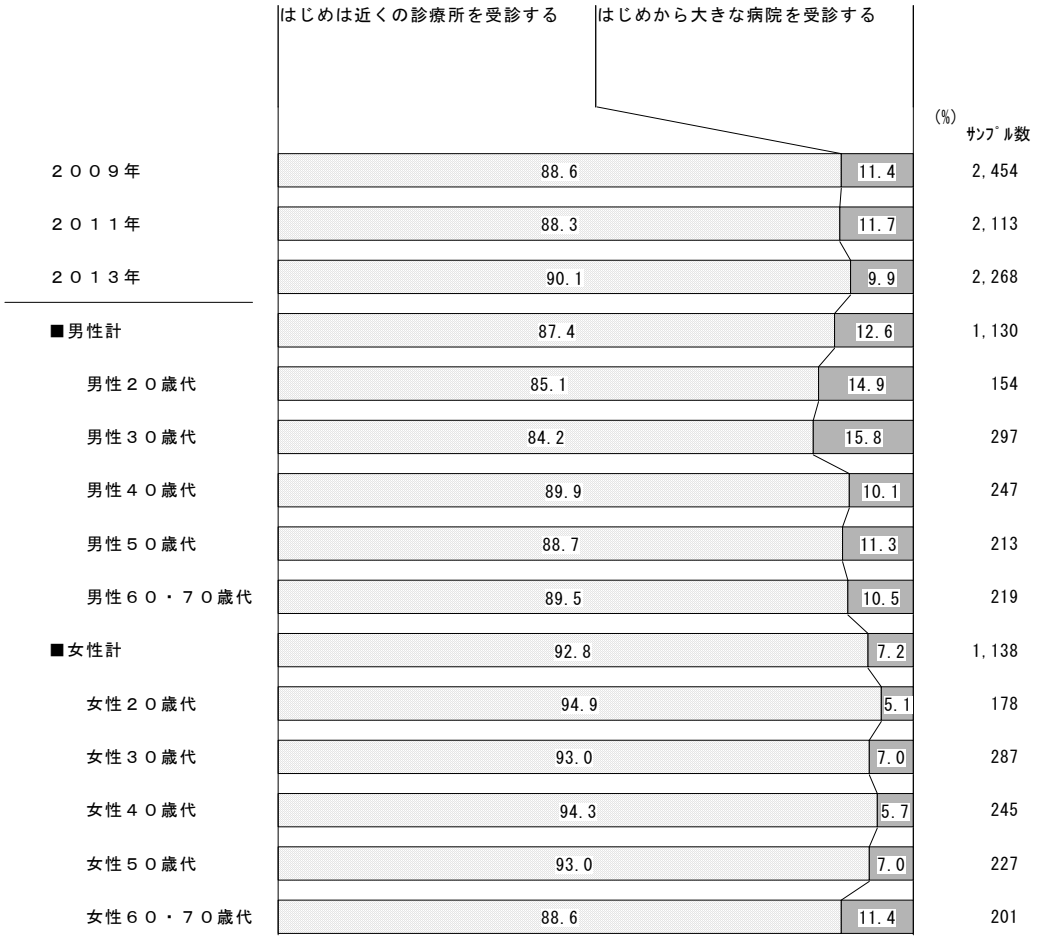
問１４　あなたは、熱が高いなど体の具合が悪くて医療機関を外来受診する際、どのように医療機関を選んでいますか。あまり医療機関にかからない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は１つ）

外来受診する際の医療機関の選び方では、「はじめは近くの医療機関を受診する」が 9 割（90.1%）を占めている。「はじめから大きな病院を受診する」のは 1 割（9.9%）であり、2009 年、2011 年と比較して大きな差は見られない。

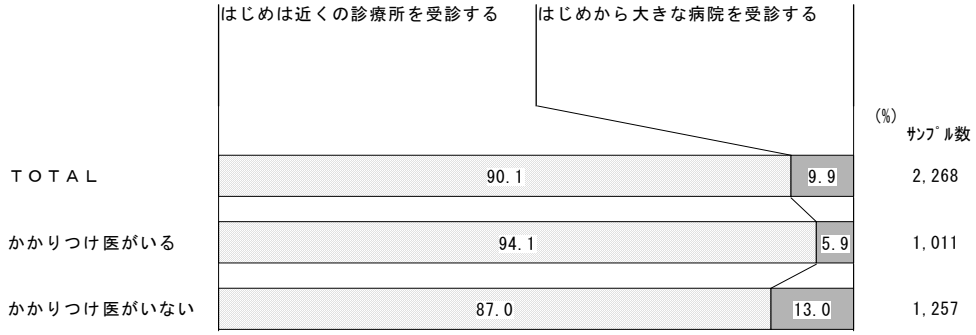
性別に見ると、男性の方が「はじめから大きな病院を受診する」割合が高い。

また、かかりつけ医の有無別(p.24:問 15 参照)に見ると、『かかりつけ医がいない』人の 1 割強(13.0%)が「はじめから大きな病院を受診する」と回答している。

問１４　初診時の受診意向



問１４　初診時の受診意向



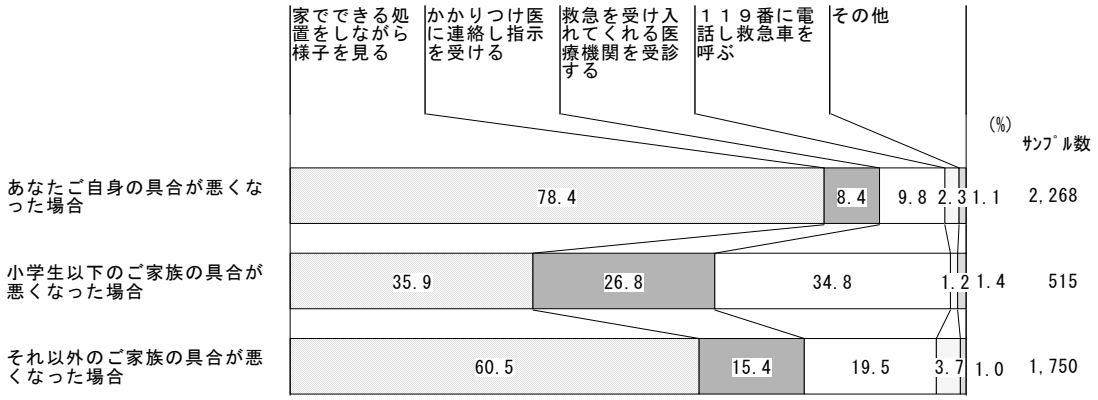
３．３．５　夜間救急時の受診意向（問１６）

問１６　あなたは、休日や深夜に、あなた自身やご家族が急な発熱などで具合が悪くなった時、どのように対応しますか。休日・深夜に具合が悪くなったことがない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は横の行ごとに１つずつ）

『あなたご自身の具合が悪くなった場合』は、「家でできる処置をしながら様子を見る」が８割（78.4%）を占め、「救急を受け入れてくれる医療機関を受診する」は１割（9.8%）である。

一方、『小学生以下のご家族の具合が悪くなった場合』は、「家でできる処置をしながら様子を見る」（35.9%）および「救急を受け入れてくれる医療機関を受診する」（34.8%）がそれぞれ３割強の割合となっている。

問１６　夜間救急時の受診意向

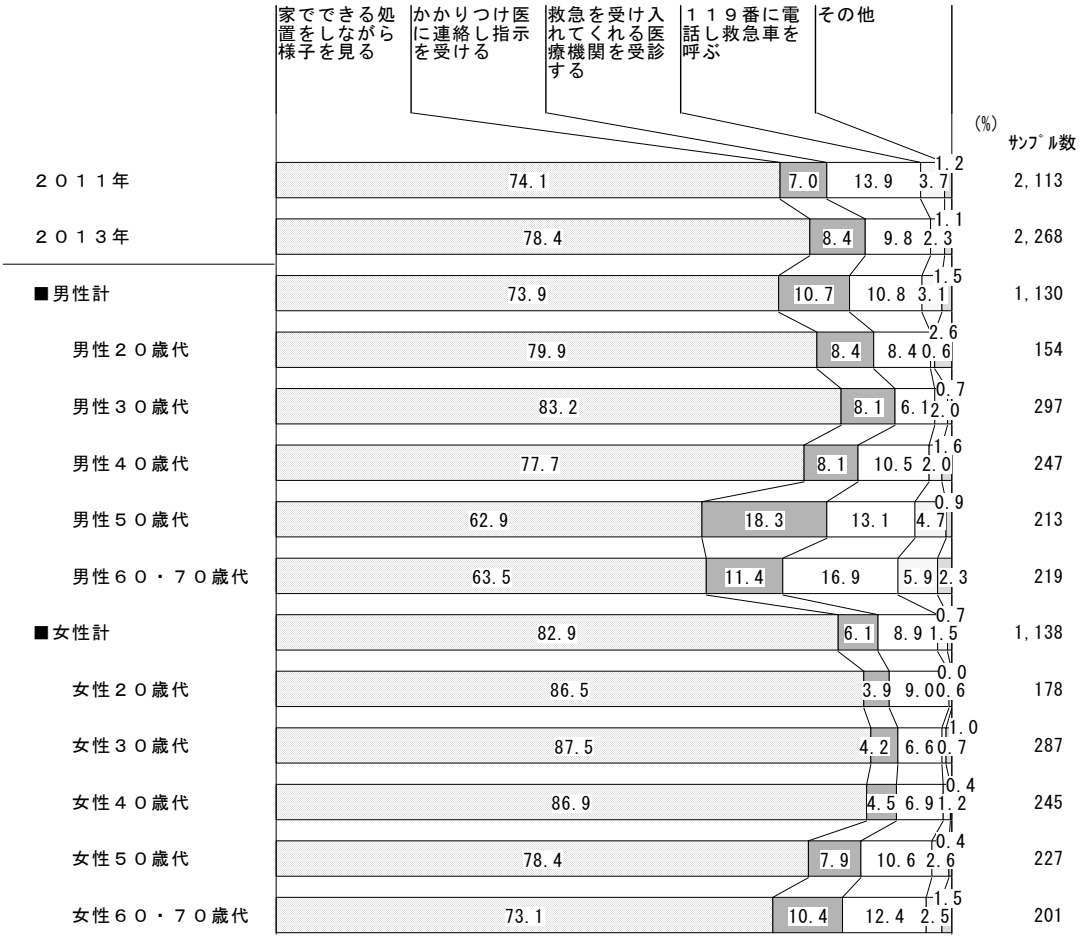


『あなたご自身の具合が悪くなった場合』を性別に見ると、「かかりつけ医に連絡し指示を受ける」割合は男性の方が高く、女性は「家でできる処置をしながら様子を見る」割合が高めになっている。

また、かかりつけ医の有無別（p.24：問 15 参照）に見ると、『かかりつけ医がいる』人の 1 割強（14.9%）は「かかりつけ医に連絡し指示を受ける」と回答している。

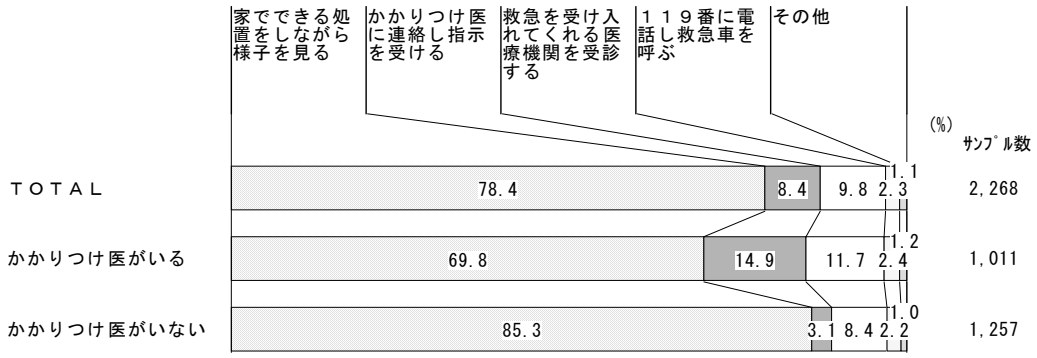
問１６　夜間救急時の受診意向

【あなたご自身の具合が悪くなった場合】



問１６　夜間救急時の受診意向

【あなたご自身の具合が悪くなった場合】



３．４　医療制度に関する意識や利用状況

３．４．１　医療全般に対する満足度（問１８）

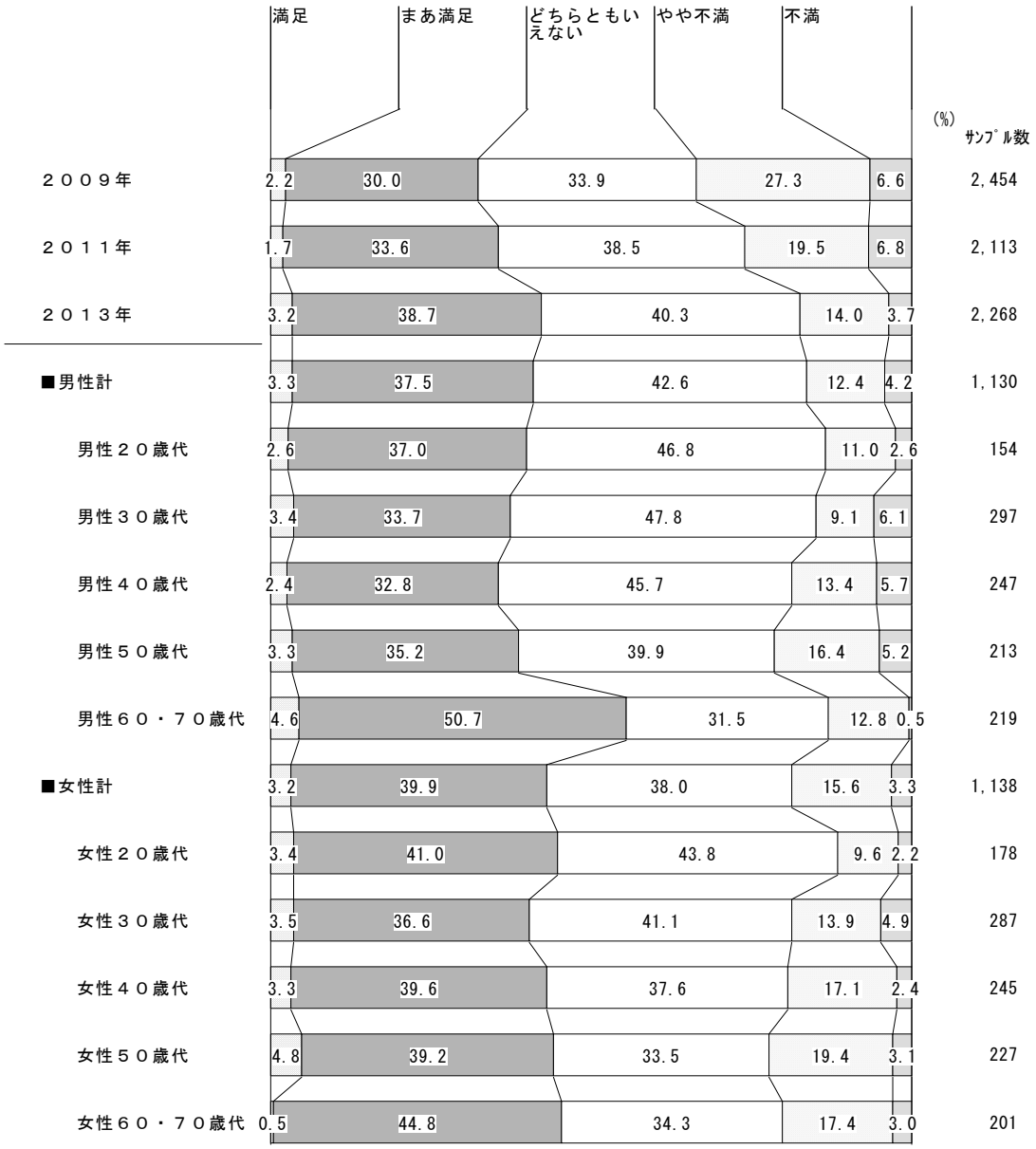
問１８　あなたは、受診のしやすさや、受診した際の自己負担や健康保険料など、日本の医療水準を総合的に考えると、医療全般についてどの程度満足していますか。（回答は１つ）

日本の医療全般に対しては、「満足」と「まあ満足」を合わせて 4 割（41.9%）がおおむね満足と回答している。

2009 年、2011 年と比較すると、「満足」、「まあ満足」、さらに「どちらともいえない」の割合が徐々に高くなっており、結果、不満（「やや不満」＋「不満」）の割合が低くなっている。

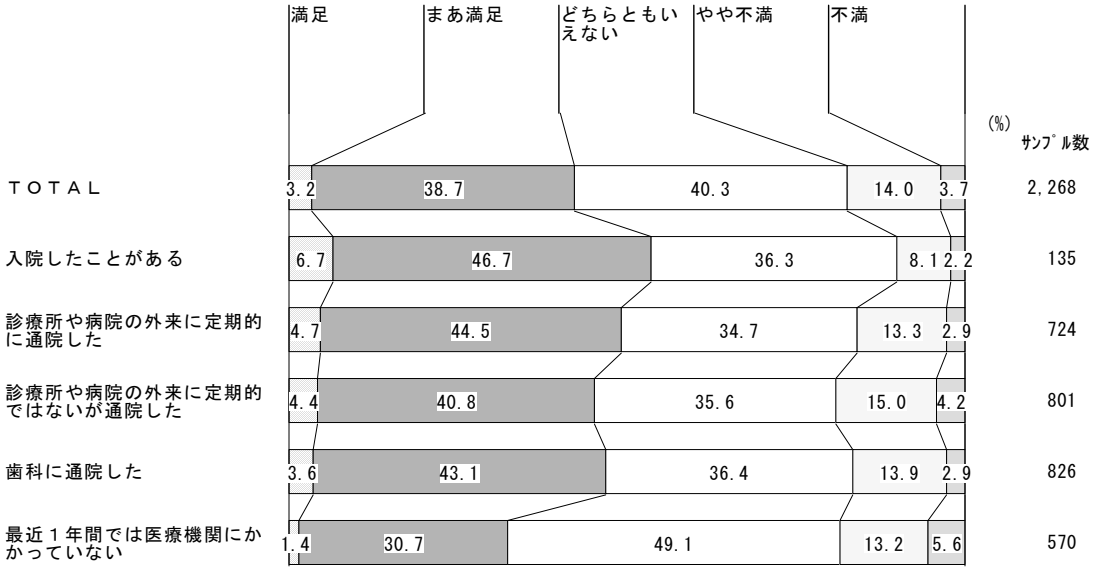
性・年代別に見ると、男性 60・70 歳代で半数以上（55.3%）がおおむね満足と回答しており、他の層より割合が高い。

問１８　医療全般に対する満足度



受診状況別（p.8：問 7 参照）に見ると、総じて受診機会ありの方が満足度は高く、特に『入院したことがある』人は満足（「満足」＋「まあ満足」）が 5 割強（53.4%）と他の層より割合が高い。

問１８　医療全般に対する満足度

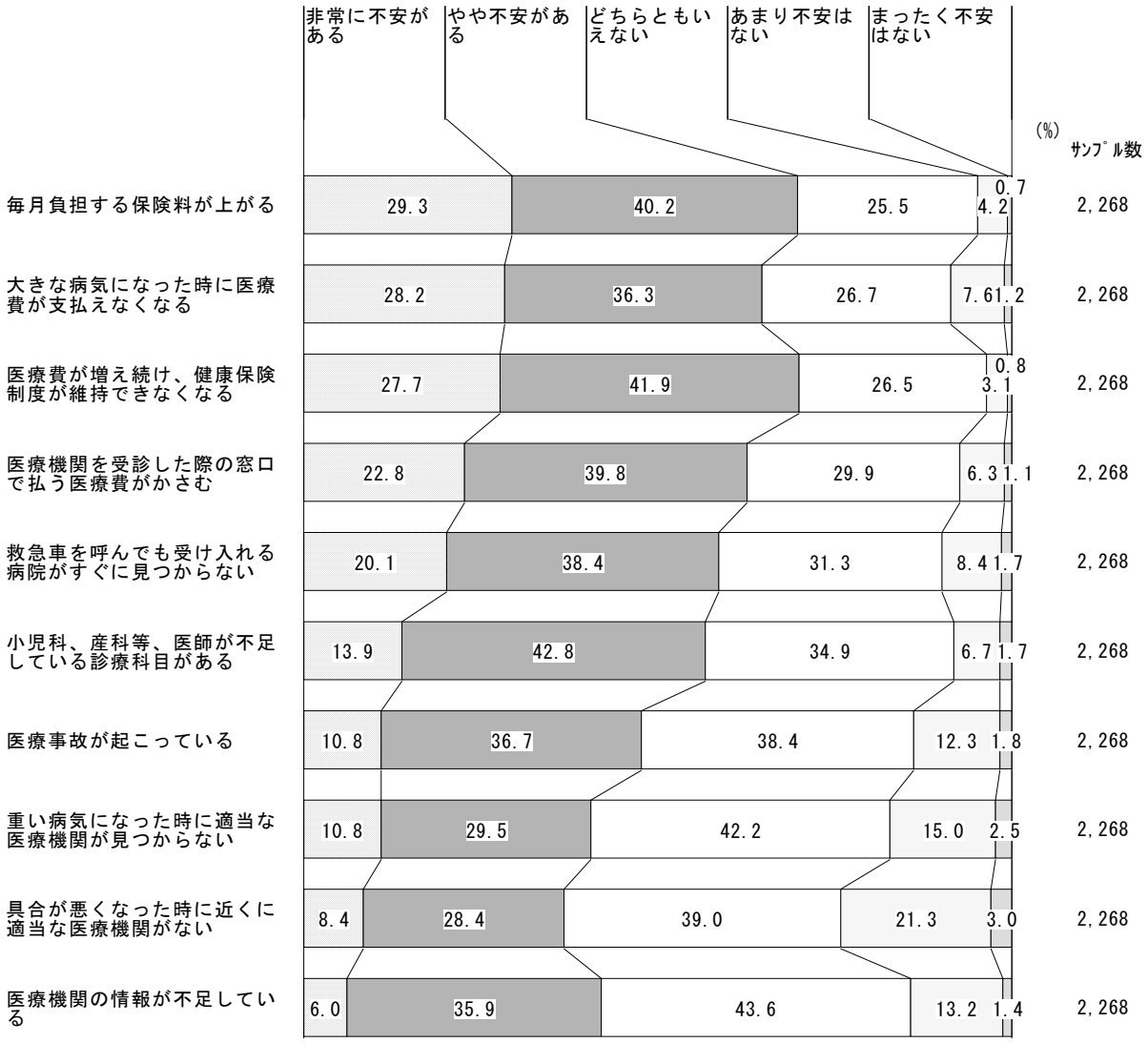


３．４．２　医療に対する不安（問１９）

問１９　あなたは医療全般に関し、次の項目についてどの程度不安に感じていますか。項目ごとにお答えください。（回答は横の行ごとに１つずつ）

医療に対する不安を「非常に不安がある」の割合が高い順に見ると、「毎月負担する保険料が上がる」（29.3%）、「大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる」（28.2%）、「医療費が増え続け、健康保険制度が維持できなくなる」（27.7%）の順であり、医療費負担に関する不安が大きい。

問１９　医療に対する不安

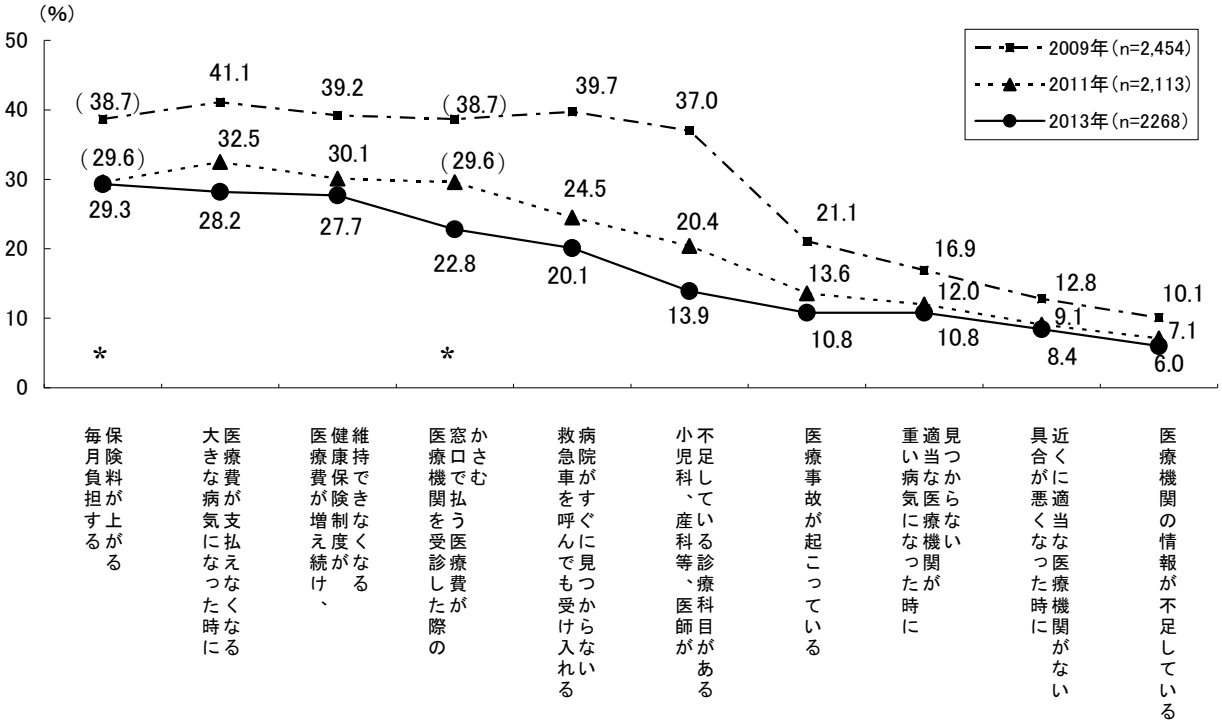


2009 年、2011 年と比較すると、「非常に不安がある」の回答割合は全体的に低くなっている。

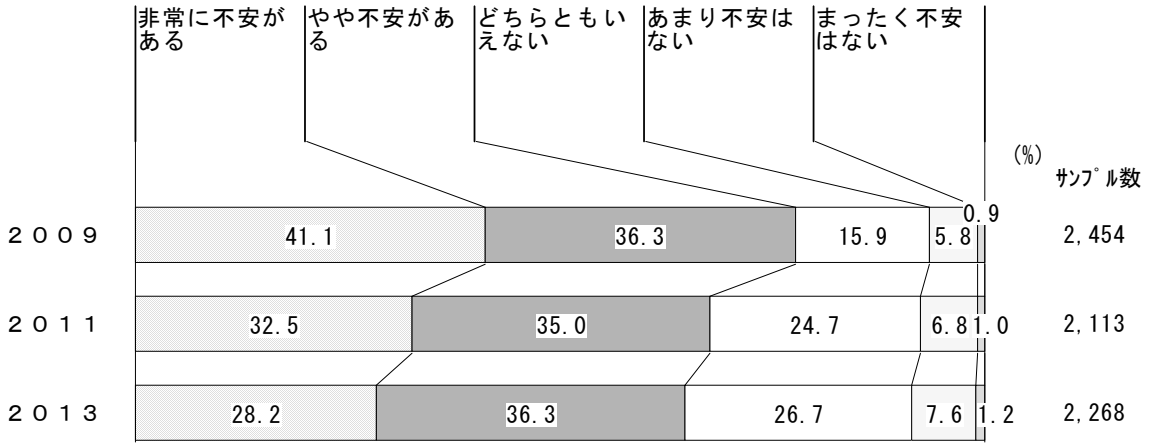
項目の１つである〔大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる〕を見ると、2009 年、2011 年と比較して「非常に不安がある」が徐々に低くなり、「あまり不安はない」が高くなっている。

問１９　医療に対する不安（非常に不安がある）

【項目の変更について】
2013 年は、過去調査の「医療機関を受診した際の自己負担や健康保険料が上がる」を、＊印の「毎月負担する保険料が上がる」と「医療機関を受診した際の窓口で払う医療費がかさむ」に分けて聴取しており、同項目の 2009 年および 2011 年の値は「医療機関を受診した際の自己負担や健康保険料が上がる」として聴取した値を参考表示。



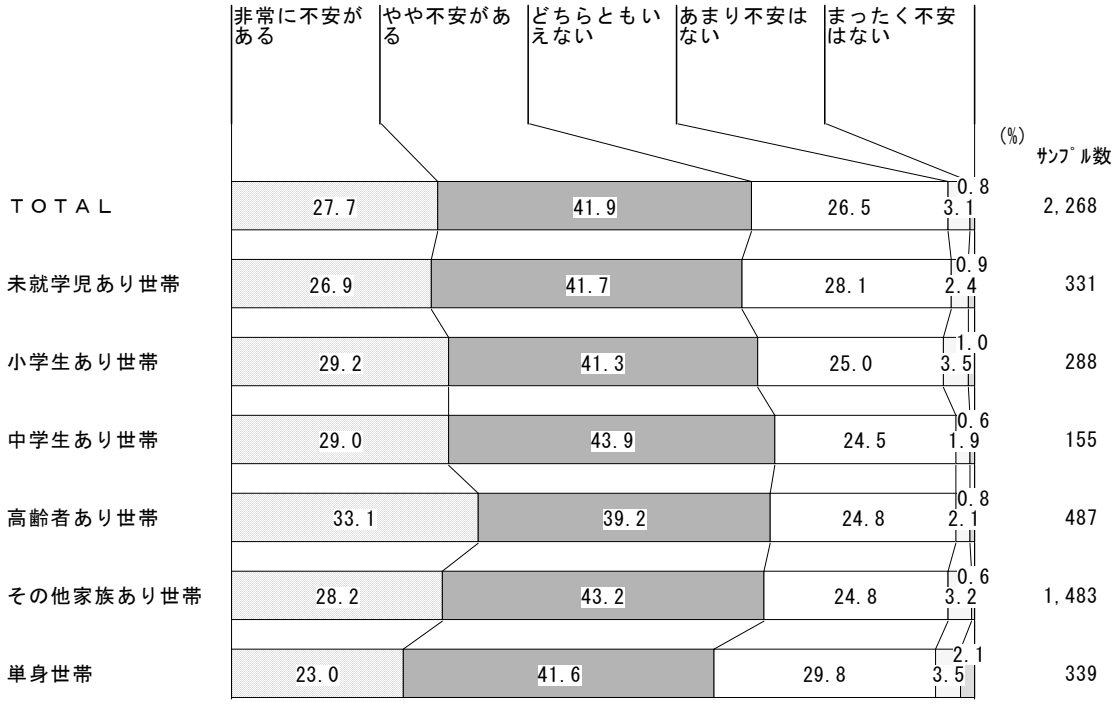
問１９　〔大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる〕



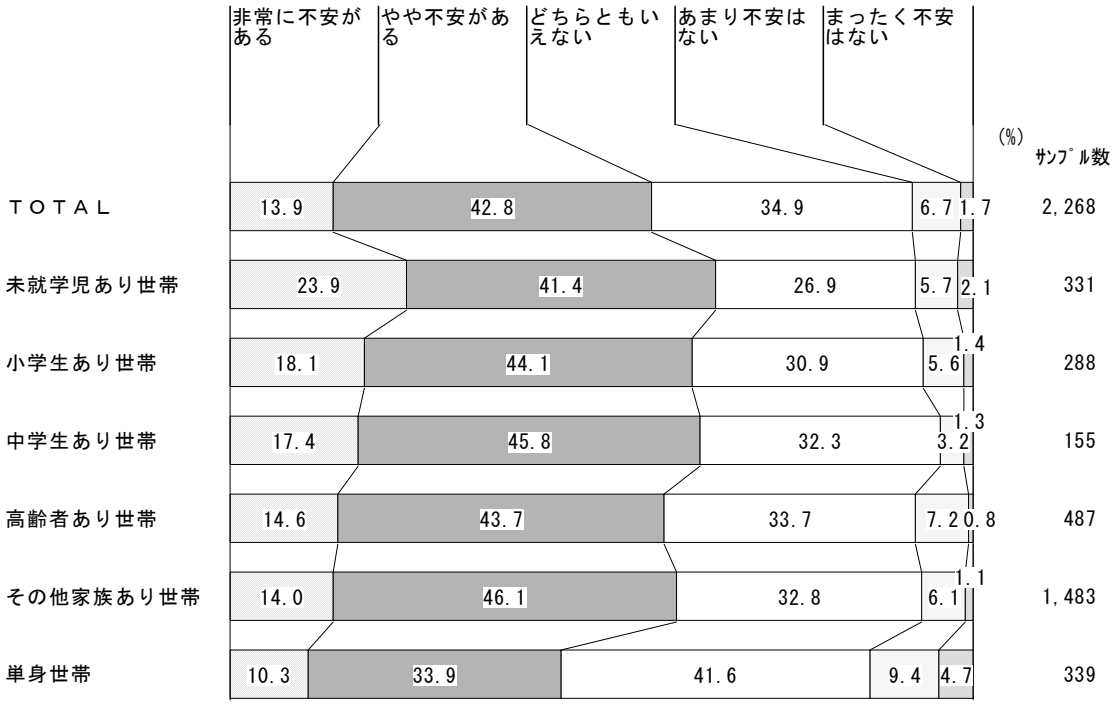
項目ごとに世帯構成別で見ると、〔医療費が増え続け、健康保険制度が維持できなくなる〕ことについては、『高齢者あり世帯』の人で「非常に不安がある」が3割強（33.1%）と、他よりも高い割合となっている。

〔小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある〕ことについては、『未就学児あり世帯』の2割強（23.9%）が「非常に不安がある」と回答しており、「やや不安がある」と合わせると6割強（65.3%）が不安を感じている。

問１９　〔医療費が増え続け、健康保険制度が維持できなくなる〕



問１９　〔小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある〕



付問１　上記以外で医療全般に関し、不安に感じていることがあればご自由にお書きください。

医療全般に関して不安に感じていることとしては、「医療費の高さ、今後の自己負担の増加」といった費用面の不安に関する意見がもっとも多い。次いで、「将来に関する漠然とした不安」、「医師不足、小児科・産科等の診療科不足」、「医師の質（知識や技術、モラル等）」、「医療の地域格差」と続き、地域で医療水準が維持されるのかを心配する意見が見られた。

＜医療全般に関して、不安に感じていること＞

No.	主な内容	件数
1	医療費の高さ、今後の自己負担の増加	139
2	将来に関する漠然とした不安	52
3	医師不足、小児科・産科等の診療科不足	42
4	医師の質（知識や技術、モラル等）	42
5	医療の地域格差	39
6	保険料の高さ、今後の負担の増加	37
7	高齢者の受診頻度増や医療費負担の増加	29
8	国の対応（保険料、医療費、薬の認定、制度等）に不満	27
9	過剰な投薬・無駄な受診	24
10	健康保険や医療制度の破綻	23
11	時間がかかる受診	23
12	病院や医師選びの情報不足	21
13	親身になってくれる医師・信用できる医師不足	18
14	夜間や救急対応（たらいまわし）	16
15	医療費（詳細等）が不明瞭	16
16	近くに病院がない	14
17	医療や保険に関する説明が不足している、理解できない	14
18	適切な医療が受けられるかどうか	14
19	大病や長期入院ができるかどうか	10

３．４．３　医療機関に関して不足している情報（問２０）

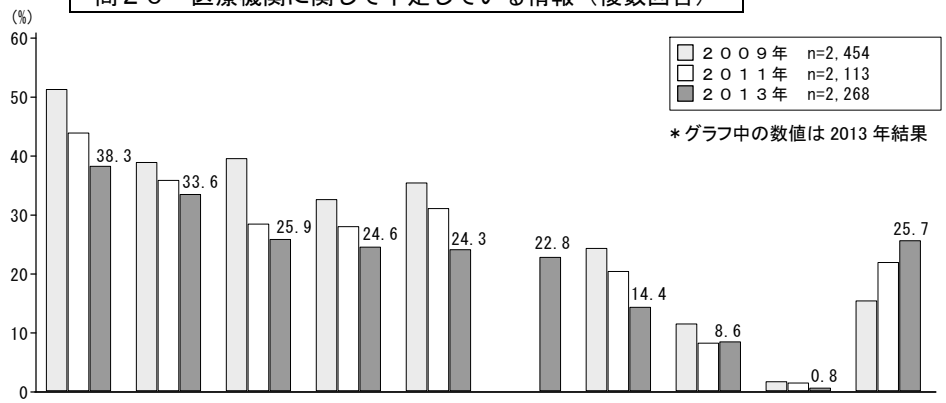
問２０　あなたは、医療機関に関してどのような情報が足りないと思いますか。（回答は該当するものすべて）

医療機関に関して不足していると思う情報は、「医師の専門分野、専門医・認定医かどうか」が 4 割（38.3%）でもっとも高く、次いで「受診した人（他の患者）による評判」（33.6%）、「連携している医療機関名や介護施設名」（25.9%）となっている。また、4 人に 1 人（25.7%）は「特にない」と回答している。

性・年代別に見ると、男性 40 歳代と女性 30 歳代では「受診した人（他の患者）による評判」の割合が高く、女性 50 歳代では「医師の専門分野、専門医・認定医かどうか」および「連携している医療機関名や介護施設名」等に対する割合が高くなっている。

2009 年、2011 年と比較すると、不足しているとする割合は全体的に低くなっており、一方で「特にない」が徐々に高くなっている。

問２０　医療機関に関して不足している情報（複数回答）



	性・年代（２０１３）	n	2 医師の専門分野、専門医・認定医かどうか	1 受診した人（他の患者）による評判	4 連携している医療機関名や介護施設名	5 夜間・休日診療の実施状況	3 医師の経歴や年齢	8 医療事故防止についての取り組み	6 手術の実施件数	7 往診・訪問診療の実施の有無	9 その他	10 特にない
1	２００９年	2,454	51.3	39.1	39.6	32.7	35.6	0.0	24.4	11.6	1.8	15.6
2	２０１１年	2,113	43.9	36.0	28.6	28.2	31.2	0.0	20.6	8.3	1.7	22.1
3	２０１３年	2,268	38.3	33.6	25.9	24.6	24.3	22.8	14.4	8.6	0.8	25.7
4	■男性計	1,130	36.0	31.1	23.3	22.4	24.5	19.9	12.5	7.1	1.1	28.4
5	男性２０歳代	154	24.7	31.8	15.6	18.2	18.2	17.5	11.0	3.9	1.3	37.7
6	男性３０歳代	297	34.3	30.3	18.9	24.6	21.5	16.2	10.1	4.0	1.3	32.0
7	男性４０歳代	247	34.8	40.5	24.7	22.3	25.9	19.8	11.3	7.3	0.8	23.9
8	男性５０歳代	213	40.4	28.2	27.7	23.9	26.3	22.1	12.7	7.0	1.9	24.4
9	男性６０・７０歳代	219	43.4	23.7	28.8	21.0	29.7	24.7	17.8	13.2	0.0	26.0
10	■女性計	1,138	40.5	36.2	28.6	26.9	24.0	25.7	16.3	10.0	0.6	23.0
11	女性２０歳代	178	36.0	36.5	28.1	31.5	21.3	21.3	12.4	9.0	0.6	20.2
12	女性３０歳代	287	33.8	41.8	19.9	28.2	18.8	22.3	11.8	4.2	0.7	25.1
13	女性４０歳代	245	42.4	37.1	24.9	24.5	25.7	26.5	20.4	9.4	0.8	24.1
14	女性５０歳代	227	47.1	36.6	34.4	25.6	30.0	27.3	17.2	11.9	0.4	22.9
15	女性６０・７０歳代	201	44.3	26.4	39.3	25.4	24.9	31.8	19.9	17.9	0.5	21.4

３．４．４　健康や医療についてほしい情報（問２１）

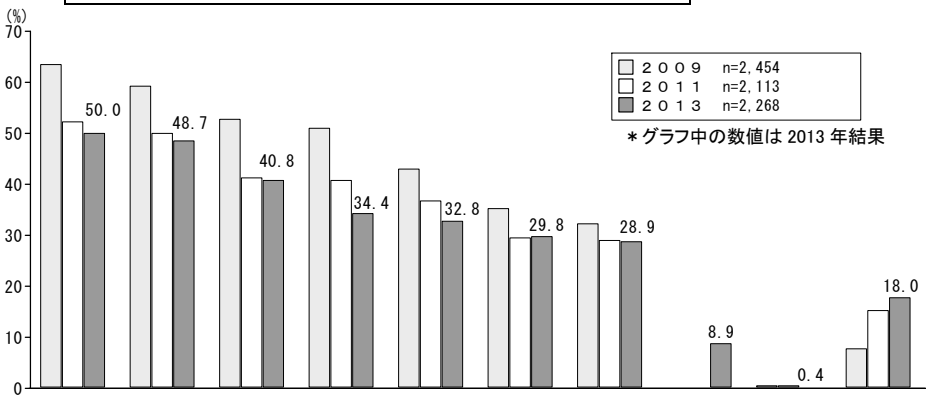
問２１　医療機関に関する情報以外では、あなたは健康や医療についてどのような情報をほしいと思いますか。（回答は該当するものすべて）

健康や医療についてほしい情報としては、「治療にかかる費用の目安」（50.0%）、「病気の原因や病状、治療法」（48.7%）等の割合が高い。

性・年代別に見ると、男性 20・30 歳代の 3 割前後が「特にない」としており、全体的に女性の方が健康や医療についての情報をほしいと考えている傾向が見られる。

2009 年、2011 年と比較すると、「特にない」の割合が徐々に高まっており、情報をほしいとする割合は全体的に低くなる傾向となっている。

問２１　健康や医療についてほしい情報（複数回答）



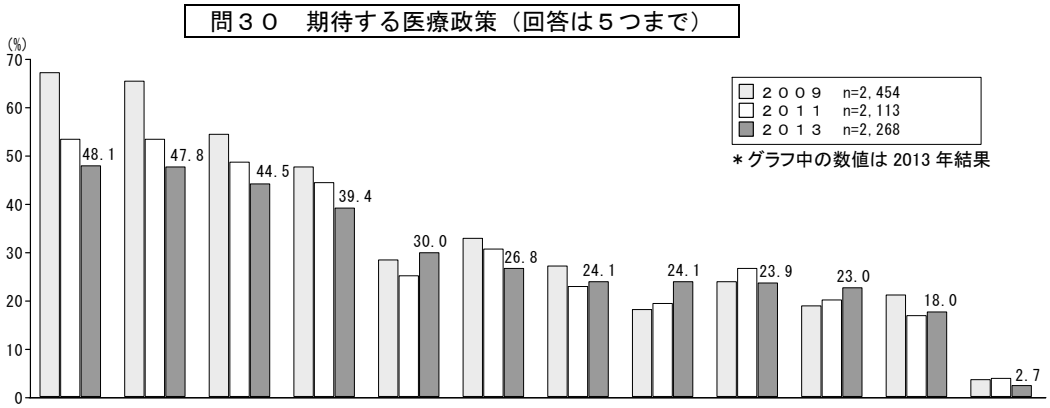
	性・年代（２０１３）	n	6 治療にかかる費用の目安	3 病気の原因や症状、治療法	4 作用処方される薬の効能効果や副	7 健康保険制度のしくみ医療費が高額になった場合の	5 治療にかかる期間	1 予防方法効果的な健康づくりや病気の	2 かかりつけ医の選び方	8 介護保険サービスに関する情報	9 その他	10 特にない
1	２００９年	2,454	63.7	59.4	52.8	51.1	43.0	35.5	32.5	0.0	0.7	8.0
2	２０１１年	2,113	52.3	50.2	41.4	40.8	37.0	29.7	29.1	0.0	0.7	15.4
3	２０１３年	2,268	50.0	48.7	40.8	34.4	32.8	29.8	28.9	8.9	0.4	18.0
4	■男性計	1,130	45.0	41.1	32.2	28.4	29.6	28.1	27.1	6.1	0.5	22.7
5	男性２０歳代	154	44.8	28.6	26.6	24.7	31.8	31.2	24.7	3.9	0.6	31.8
6	男性３０歳代	297	39.7	40.4	27.6	24.9	27.9	26.9	28.6	5.4	0.7	27.3
7	男性４０歳代	247	45.7	42.1	34.0	25.1	31.2	27.1	27.9	5.3	1.2	18.2
8	男性５０歳代	213	49.3	49.8	36.2	33.3	31.5	25.8	24.9	8.0	0.0	18.3
9	男性６０・７０歳代	219	47.5	41.1	36.5	34.7	26.5	31.1	27.9	7.8	0.0	19.2
10	■女性計	1,138	55.0	56.3	49.4	40.3	35.9	31.4	30.7	11.6	0.4	13.4
11	女性２０歳代	178	54.5	50.6	46.6	34.3	37.1	34.3	32.6	9.6	0.0	16.9
12	女性３０歳代	287	55.1	53.0	45.6	37.3	37.6	29.3	33.4	6.3	0.3	14.3
13	女性４０歳代	245	55.1	56.7	49.4	41.2	37.6	25.7	29.4	11.8	0.4	16.7
14	女性５０歳代	227	60.4	59.9	54.6	46.7	34.4	32.2	30.0	17.2	0.4	7.9
15	女性６０・７０歳代	201	49.3	61.7	51.2	41.8	32.3	37.8	27.4	14.4	0.5	10.9

３．４．５　期待する医療政策（問３０）

問３０　あなたは、今後の日本の医療についてどのようなことを望みますか。特に希望したいことを５つまでお答えください。（回答は５つまで）

日本の医療に対して望むこととは、「医師の養成・確保」（48.1%）の割合がもっとも高く、次いで「医師不足とされる小児、産科医療等の体制の整備」（47.8%）、「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保」（44.5%）、「夜間や休日における救急医療体制の整備」（39.4%）の順となっている。

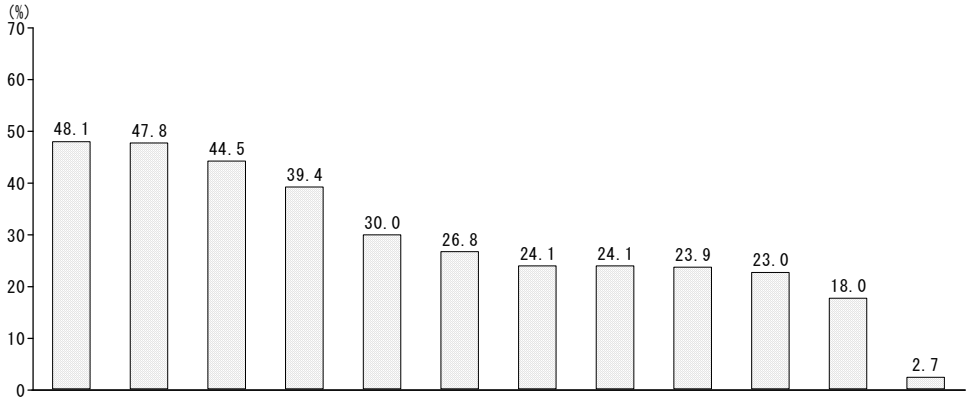
2009 年、2011 年と比較すると、上位の項目は低くなる傾向にあるが、「生活習慣病の治療の充実」や「難病対応等、最先端の医療の強化」等は高くなる傾向となっている。



	性・年代（２０１３）	n	1 医師の養成・確保	5 医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備	2 専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保	4 夜間や休日における救急医療体制の整備	6 患者紹介など、診療所と病院どうしの連携の推進	3 医療機関の積極的な情報開示	8 在宅医療を支えるしくみの充実	11 生活習慣病の治療の充実	9 がん治療の強化	10 難病対応等、最先端の医療の強化	7 リハビリを行える施設や介護施設等との連携	12 その他
1	２００９年	2,454	67.3	65.7	54.6	47.9	28.7	33.1	27.3	18.3	24.1	19.2	21.5	3.9
2	２０１１年	2,113	53.5	53.7	48.8	44.6	25.3	30.9	23.0	19.6	27.0	20.5	17.2	4.0
3	２０１３年	2,268	48.1	47.8	44.5	39.4	30.0	26.8	24.1	24.1	23.9	23.0	18.0	2.7
4	■男性計	1,130	45.1	45.2	42.7	38.8	24.8	25.3	19.7	25.1	25.6	25.3	15.6	2.9
5	男性２０歳代	154	56.5	40.3	35.7	37.0	17.5	22.1	11.0	22.7	26.0	27.3	10.4	1.3
6	男性３０歳代	297	44.4	43.4	37.4	34.0	21.5	23.2	13.5	21.2	23.9	24.6	14.5	4.7
7	男性４０歳代	247	44.9	46.6	40.1	38.5	21.9	21.9	16.2	19.0	22.7	24.3	16.2	3.2
8	男性５０歳代	213	42.7	42.7	47.9	44.1	29.6	31.0	20.7	29.1	29.1	25.4	15.5	1.4
9	男性６０・７０歳代	219	40.6	52.1	52.5	42.0	32.9	28.8	37.4	35.2	27.4	26.0	20.1	2.7
10	■女性計	1,138	51.1	50.4	46.3	40.0	35.2	28.3	28.5	23.1	22.2	20.7	20.4	2.5
11	女性２０歳代	178	56.2	57.3	39.9	43.3	24.7	24.2	14.6	15.2	20.8	21.9	9.6	2.2
12	女性３０歳代	287	49.8	58.5	37.3	41.5	29.6	25.1	21.3	19.5	24.7	23.3	13.9	2.8
13	女性４０歳代	245	52.2	40.0	46.9	36.3	34.3	29.4	28.6	22.0	25.7	21.2	21.2	2.4
14	女性５０歳代	227	50.2	48.0	52.0	39.2	40.1	33.9	33.9	28.6	18.1	18.1	25.6	3.5
15	女性６０・７０歳代	201	47.8	48.3	57.7	40.3	48.3	28.9	44.8	30.3	20.4	17.9	32.3	1.5

本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がいる』世帯の人は、「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保」や「患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進」に対する期待が高い。また、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、「がん治療の強化」や「難病対策等、最先端の医療の強化」を挙げる割合が他の世帯よりも高くなっている。『介護保険制度のサービスを利用中・1 年以内に利用予定の人がいる』世帯の人は、「在宅医療を支えるしくみの充実」や「リハビリを行える施設や介護施設等との連携」に対する期待が高い。

問３０　期待する医療政策（回答は５つまで）



	問９　本人または家族の治療状況（複数回答）	n	1 医師の養成・確保	5 医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備	2 専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保	4 夜間や休日における救急医療体制の整備	6 患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進	3 医療機関の積極的な情報開示	8 在宅医療を支えるしくみの充実	11 生活習慣病の治療の充実	9 がん治療の強化	10 難病対応等、最先端の医療の強化	7 リハビリを行える施設や介護施設等との連携	12 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	48.1	47.8	44.5	39.4	30.0	26.8	24.1	24.1	23.9	23.0	18.0	2.7
1	慢性疾患で現在治療中の人がいる	638	48.6	47.3	49.8	37.1	36.1	28.8	31.8	31.8	24.1	26.2	22.4	2.4
2	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	107	43.0	57.9	43.0	43.0	32.7	21.5	29.9	20.6	34.6	33.6	24.3	2.8
3	介護サービスを利用中、１年以内に利用予定	162	44.4	56.2	47.5	43.2	33.3	30.2	30.9	23.5	24.1	21.0	28.4	4.9
4	上記に当てはまる人はいない	1,484	49.1	47.0	42.0	40.1	26.7	26.1	20.4	21.5	23.2	21.3	15.0	2.9

３．４．６　ジェネリック医薬品の認知・使用経験（問２２）

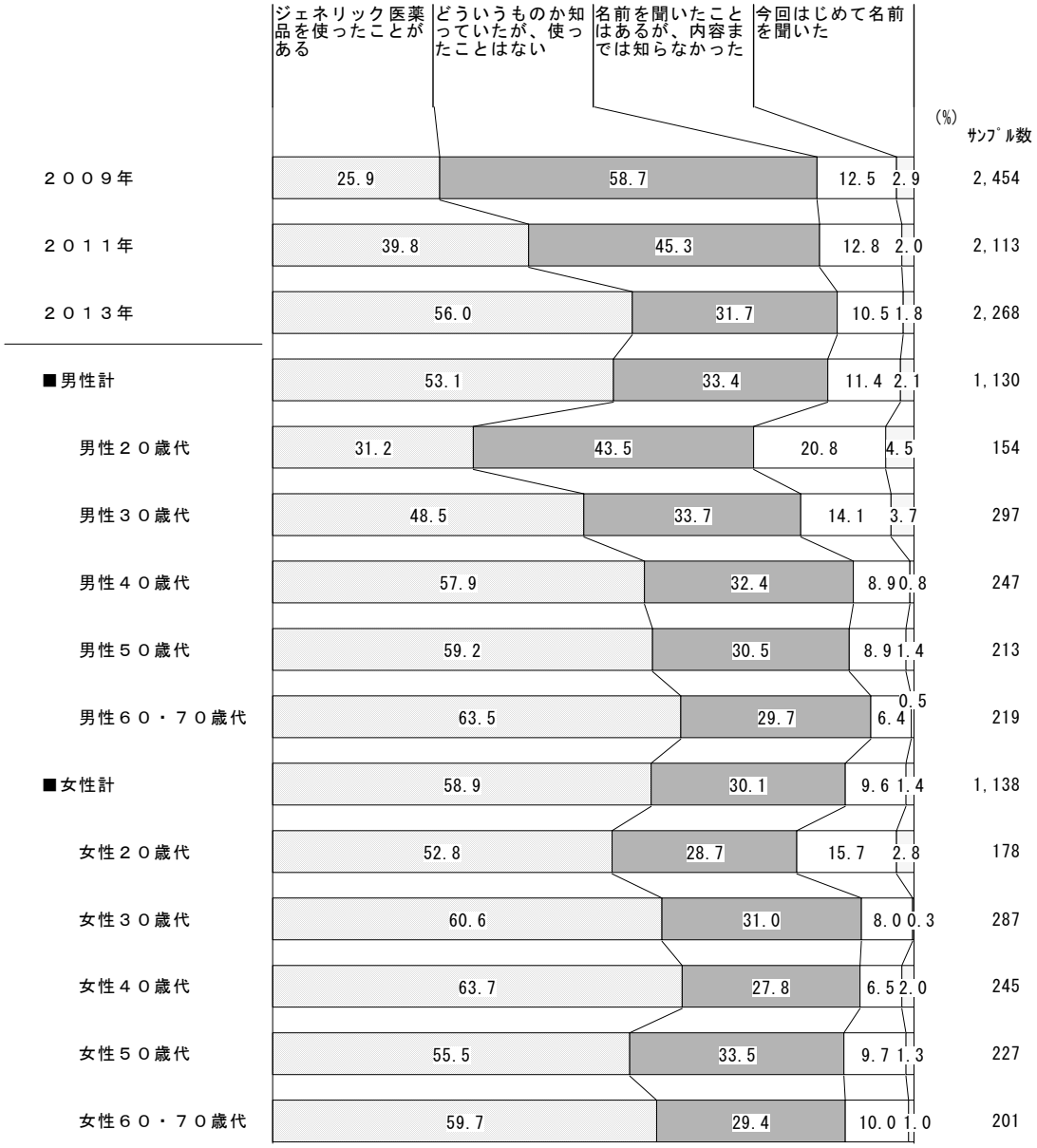
問２２　あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。（回答は１つ）

「ジェネリック医薬品を使ったことがある」と回答したのは過半数の 6 割弱（56.0%）にのぼり、「どういうものか知っていたが、使ったことはない」は 3 割（31.7%）となっている。

2009 年、2011 年と比較すると、「ジェネリック医薬品を使ったことがある」の割合は徐々に高くなってきている。

性・年代別に見ると、男性 20 歳代で使用経験の割合が低い。

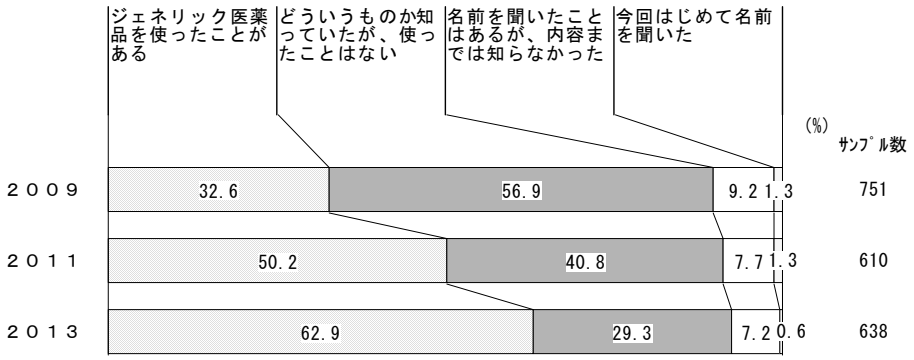
問２２　ジェネリック医薬品の認知・使用経験



本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がいる』世帯と『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、2011 年の段階で既に「ジェネリック医薬品を使ったことがある」割合が 5 割に達しており、2013 年ではその割合が約 6 割とさらに高くなっている。

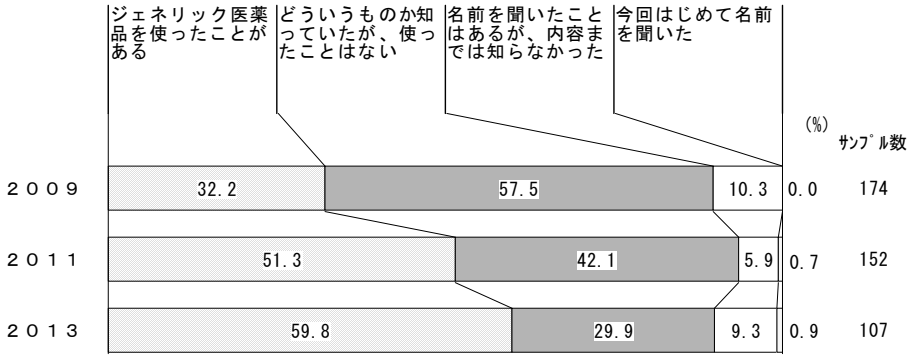
問２２　ジェネリック医薬品の認知・使用経験

【慢性疾患で現在治療中の人がいる】



問２２　ジェネリック医薬品の認知・使用経験

【心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる】



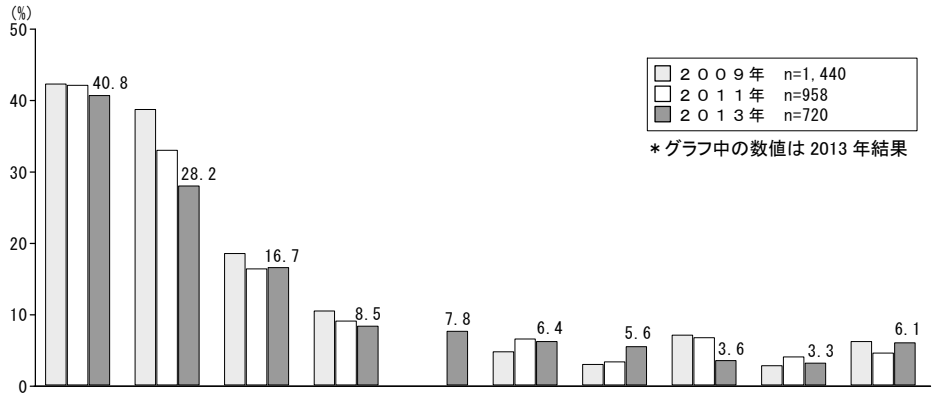
３．４．７　ジェネリック医薬品の未利用理由（問２２付問）

付問１　「どういうものか知っていたが、使ったことはない」のは、どのような理由からですか。
（回答は該当するものすべて）【「どういうものか知っていたが、使ったことはない」人】

「医療機関を受診していない、受診しても投薬されない」を除くと、「医師や薬剤師から話をしてくれないと言い出せない」が 3 割弱（28.2%）でもっとも高い。次いで、「入手方法が分からないから」（16.7%）となっている。

2009 年、2011 年と比較すると、「医師や薬剤師から話をしてくれないと言い出せない」の割合が大幅に低くなっている。また、「あまり安くならないから」の割合がやや高くなっている。

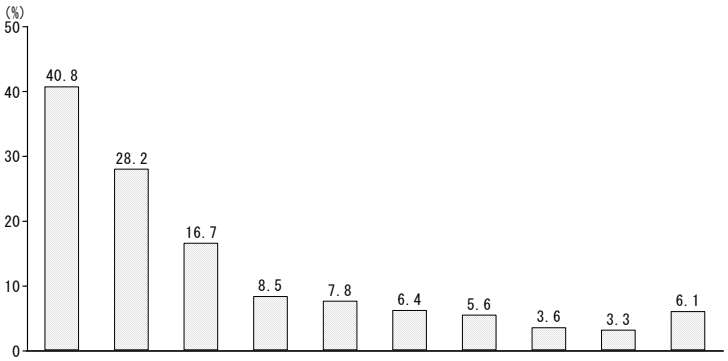
付問１　ジェネリック医薬品の未利用理由（複数回答）



	性・年代（２０１３）	n	1 受診しても投薬されない医療機関を受診していない、	3 れないと言い出せない医師や薬剤師から話をしてく	2 入手方法が分からないから	5 から効き目や安全性に不安がある	9 が出ていない薬だから代替するジェネリック医薬品	7 だから切り替えができない処方せん	4 あまり安くならないから	8 今の薬を変えたくないから	6 いなかった希望したが、薬局等に置いて	10 その他
1	２００９年	1,440	42.4	38.8	18.6	10.6	0.0	4.9	3.1	7.2	2.9	6.3
2	２０１１年	958	42.2	33.1	16.6	9.2	0.0	6.8	3.4	6.9	4.2	4.8
3	２０１３年	720	40.8	28.2	16.7	8.5	7.8	6.4	5.6	3.6	3.3	6.1
4	■男性計	377	40.3	24.9	20.7	8.2	6.9	6.4	6.4	4.0	3.4	6.4
5	男性２０歳代	67	46.3	16.4	23.9	9.0	7.5	3.0	4.5	0.0	1.5	3.0
6	男性３０歳代	100	44.0	24.0	21.0	10.0	8.0	4.0	13.0	2.0	3.0	5.0
7	男性４０歳代	80	37.5	26.3	27.5	6.3	3.8	6.3	5.0	3.8	2.5	7.5
8	男性５０歳代	65	36.9	27.7	20.0	7.7	7.7	12.3	1.5	3.1	7.7	6.2
9	男性６０・７０歳代	65	35.4	30.8	9.2	7.7	7.7	7.7	4.6	12.3	3.1	10.8
10	■女性計	343	41.4	31.8	12.2	8.7	8.7	6.4	4.7	3.2	3.2	5.8
11	女性２０歳代	51	41.2	35.3	23.5	9.8	5.9	5.9	5.9	2.0	2.0	3.9
12	女性３０歳代	89	46.1	25.8	18.0	10.1	12.4	4.5	4.5	2.2	3.4	3.4
13	女性４０歳代	68	38.2	36.8	11.8	5.9	8.8	7.4	1.5	5.9	2.9	4.4
14	女性５０歳代	76	38.2	30.3	5.3	6.6	7.9	6.6	7.9	3.9	2.6	10.5
15	女性６０・７０歳代	59	42.4	33.9	3.4	11.9	6.8	8.5	3.4	1.7	5.1	6.8

本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、「切り替えができない処方せんだから」や「今の薬を変えたくないから」の割合が高くなっている。

付問１　ジェネリック医薬品の未利用理由（複数回答）



	問９　本人または家族の治療状況（複数回答）	n	1 受診しても投薬されない医療機関を受診していない、	3 れないと言い出せない医師や薬剤師から話をしてく	2 入手方法が分からないから	5 から効き目や安全性に不安がある	9 が出ていない薬だから代替するジェネリック医薬品	7 だから切り替えができない処方せん	4 あまり安くならないから	8 今の薬を変えたくないから	6 いなかった希望したが、薬局等に置いて	10 その他
0	ＴＯＴＡＬ	720	40.8	28.2	16.7	8.5	7.8	6.4	5.6	3.6	3.3	6.1
1	慢性疾患で現在治療中の人がいる	187	38.0	29.9	7.5	10.2	11.2	9.6	6.4	3.7	6.4	5.9
2	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	32	21.9	31.3	18.8	15.6	9.4	18.8	3.1	12.5	0.0	9.4
5	上記に当てはまる人はいない	483	42.4	26.3	20.1	7.7	6.4	4.1	5.2	2.9	2.1	6.2

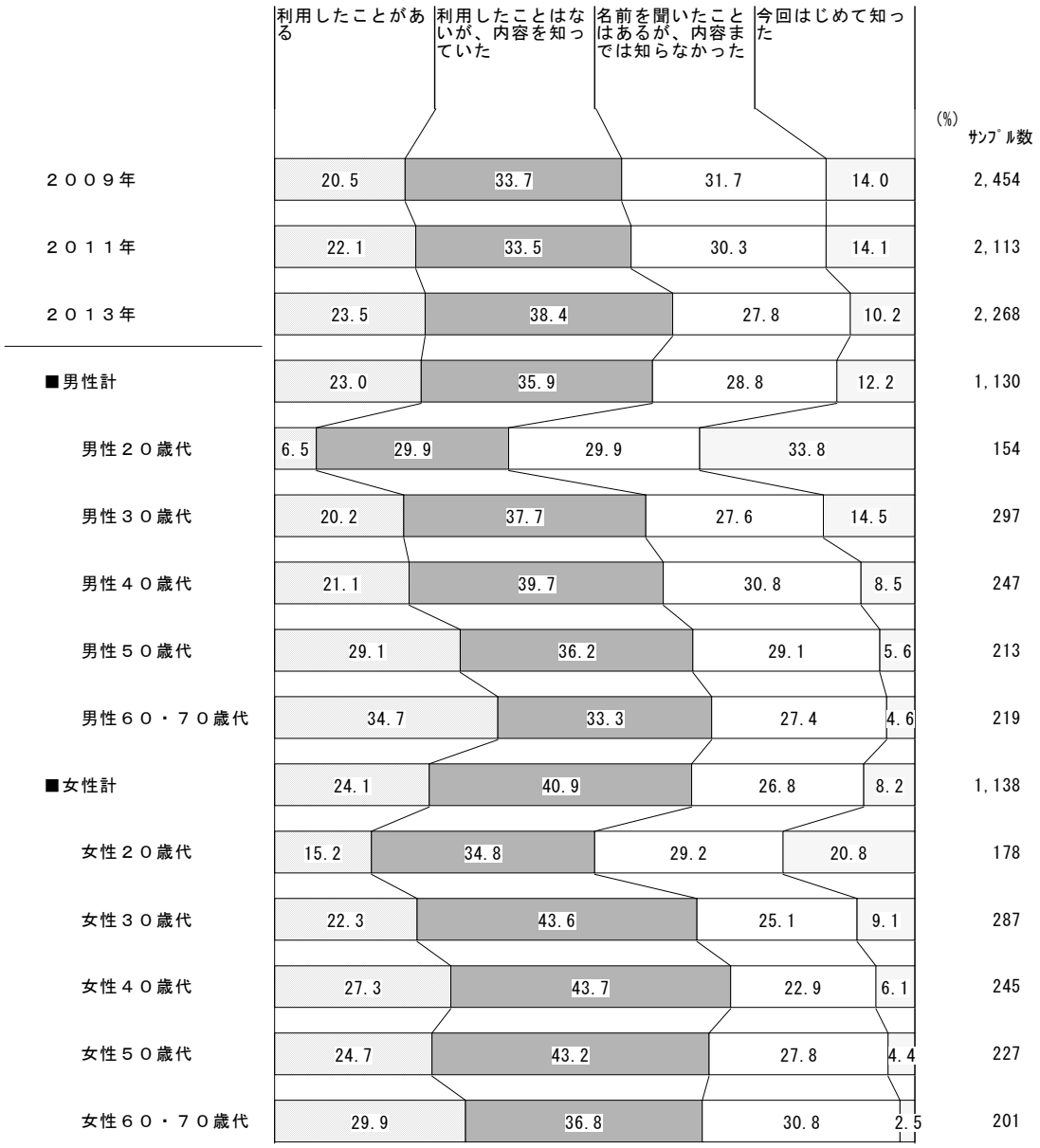
３．４．８　高額療養費制度の認知・利用状況（問２３）

問２３　あなたは「高額療養費制度」をご存知ですか。（次の説明をお読みのうえお答えください。）
（回答は１つ）

高額療養費制度を「利用したことがある」のは 2 割強（23.5%）、「利用したことはないが内容を知っていた」は 4 割弱（38.4%）であり、2009 年、2011 年と比較して、利用者および認知している人の割合は高くなってきている。

男女ともに、60・70 歳代の利用率が高く、年齢が上がるにつれて「今回はじめて知った」が低くなっている。

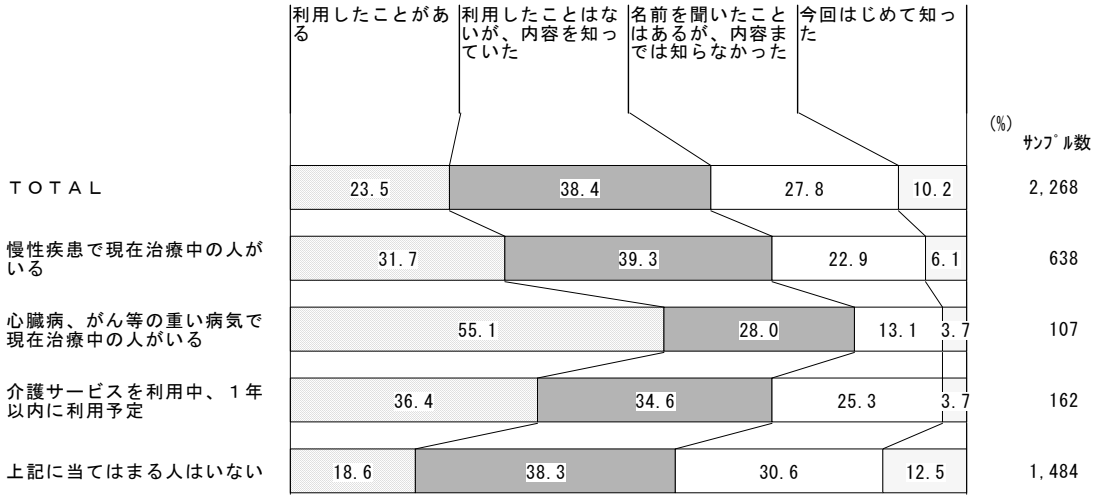
問２３　高額療養費制度の認知・利用状況



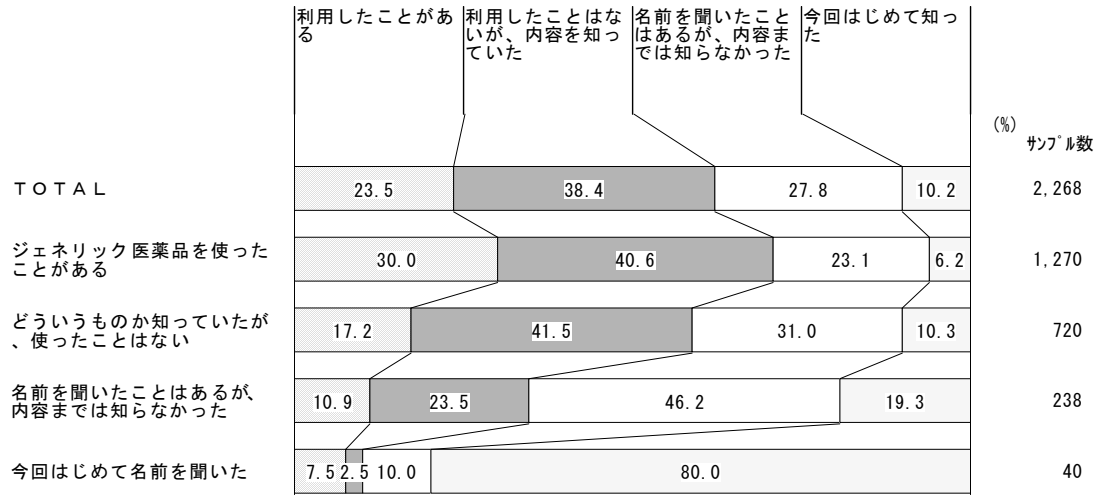
本人・家族の治療状況別（p.12：問 9 参照）に見ると、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、5 割強（55.1%）が「利用したことがある」と回答している。一方、慢性疾患や重病、介護制度サービス利用等に当てはまる人はいない（『上記に当てはまる人はいない』）世帯の人は「今回はじめて知った」の割合が高くなっている。

ジェネリック医薬品の認知・使用経験別（p.41：問 22 参照）に見ると、「ジェネリック医薬品を使ったことがある」人で高額療養費制度を利用または内容を認知している割合は 7 割（70.6%）と高い一方、ジェネリック医薬品について「今回はじめて名前を聞いた」人の 8 割（80.0%）は、高額療養費制度を「今回はじめて知った」と回答している。

問２３　高額療養費制度の認知・利用状況



問２３　高額療養費制度の認知・利用状況



３．５　医療費負担

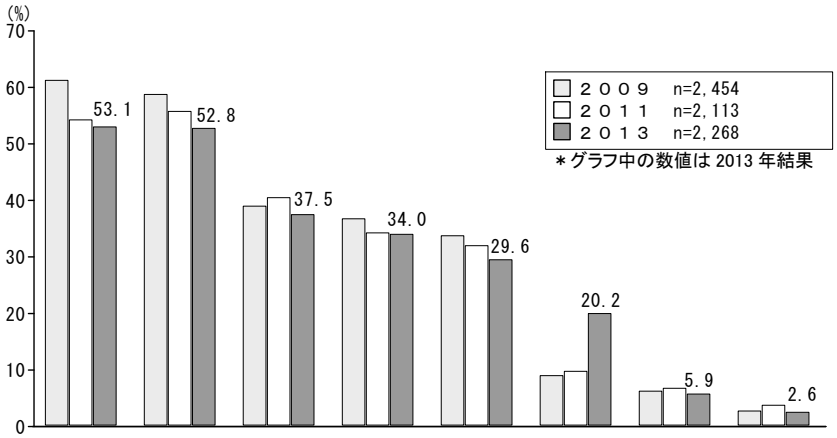
３．５．１　医療費適正化に対する考え（問２４）

問２４　日本では高齢化や医療の高度化等によって、医療費は毎年増え続けています。あなたは、どのような取り組みを進めるべきだと思いますか。特に必要だと思うものを３つまでに絞ってお答えください。　（回答は３つまで）

医療費の増加に対して取り組むべきこととして、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」（53.1%）がもっとも高く、「毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める」（52.8%）が高い。

2009 年、2011 年と比較すると、「病院の病床数を絞り込み、入院治療が必要な人に重点化」が徐々に高くなっている一方、ほかの項目は徐々に低くなる傾向にある。

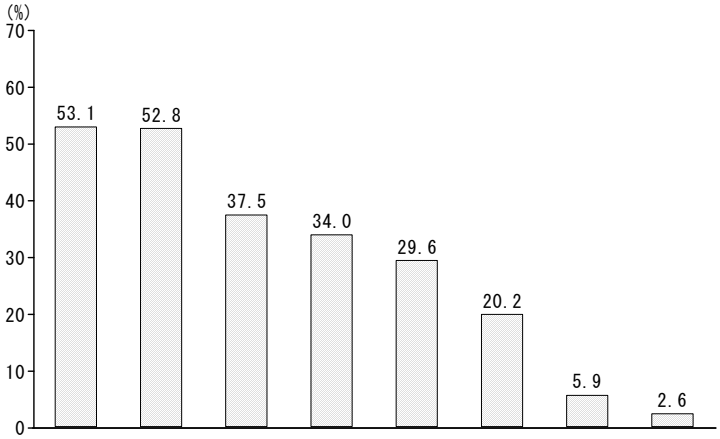
問２４　医療費適正化に対する考え（回答は３つまで）



	性・年代（２０１３）	n	3 必要以上の検査や過剰な投薬をしない	1 毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める	5 ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める	2 健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する	4 安易な重複受診は控える	7 病院の病床数を絞り込み、入院治療が必要な人に重点化	6 入院期間の短縮化を進める	8 その他
1	２００９年	2,454	61.5	58.9	39.2	36.8	33.8	9.0	6.5	2.9
2	２０１１年	2,113	54.4	56.0	40.6	34.5	32.2	10.0	6.8	3.8
3	２０１３年	2,268	53.1	52.8	37.5	34.0	29.6	20.2	5.9	2.6
4	■男性計	1,130	50.9	52.0	40.0	30.9	28.8	18.1	6.3	3.3
5	男性２０歳代	154	43.5	47.4	35.7	31.2	29.2	21.4	8.4	0.6
6	男性３０歳代	297	41.1	51.9	40.1	26.9	24.2	16.8	6.4	6.1
7	男性４０歳代	247	48.6	48.6	41.3	27.5	34.8	16.2	4.5	2.8
8	男性５０歳代	213	59.6	49.3	41.3	32.9	27.2	15.0	6.6	1.9
9	男性６０・７０歳代	219	63.5	62.1	40.2	37.9	29.2	22.4	6.4	3.2
10	■女性計	1,138	55.3	53.5	35.1	37.2	30.4	22.4	5.5	1.8
11	女性２０歳代	178	38.2	55.1	35.4	38.8	22.5	20.8	8.4	1.7
12	女性３０歳代	287	42.9	52.6	36.6	35.9	28.6	19.9	5.2	2.4
13	女性４０歳代	245	58.8	54.7	35.5	33.9	30.2	22.0	5.3	1.6
14	女性５０歳代	227	65.6	52.0	31.7	34.8	33.0	27.3	6.2	2.6
15	女性６０・７０歳代	201	72.1	53.7	35.8	44.3	37.3	22.4	3.0	0.5

本人・家族の治療状況別（p.12：問９参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がいる』世帯（61.1%）と『介護保険制度のサービスを利用中・１年以内に利用予定の人がいる』世帯（64.8%）の人は、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」が６割強と他の世帯よりも高い割合になっている。

問２４　医療費適正化に対する考え（回答は３つまで）



	問９　本人または家族の治療状況（複数回答）	n	3 必要以上の検査や過剰な投薬をしない	1 毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める	5 ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める	2 健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する	4 安易な重複受診は控える	7 病院の病床数を絞り込み、入院治療が必要な人に重点化	6 入院期間の短縮化を進める	8 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	53.1	52.8	37.5	34.0	29.6	20.2	5.9	2.6
1	慢性疾患で現在治療中の人がいる	638	61.1	56.1	39.3	37.6	31.5	21.9	5.3	2.4
2	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	107	57.9	55.1	37.4	40.2	29.9	15.0	11.2	0.9
3	介護サービスを利用中、１年以内に利用予定	162	64.8	54.3	30.9	35.8	29.6	22.2	6.8	4.3
4	上記に当てはまる人はいない	1,484	49.1	52.2	37.1	32.3	28.8	20.0	5.7	2.6

３．５．２　負担増の選択（問２５）

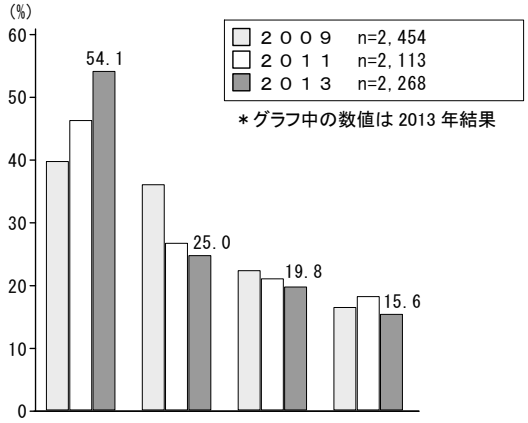
問２５　増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があります。国民の負担が増えるとした場合、あなたは医療費をどのようにまかなっていくのが適切だと思いますか。
（回答は該当するものすべて）

医療費負担に関する対策として、半数以上（54.1%）が「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」を挙げている。次いで、「税金を上げてまかなう」（25.0%）、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」（19.8%）の順となっている。

2009 年、2011 年と比較すると、「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」の割合が徐々に高くなっており、一方、その他の項目は低くなっている。

また、選択の内訳を見ると、「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」のみの選択者が 4 割強（44.9%）を占め、2009 年、2011 年より徐々に高い割合となっている。

問２５　負担増の選択（複数回答）



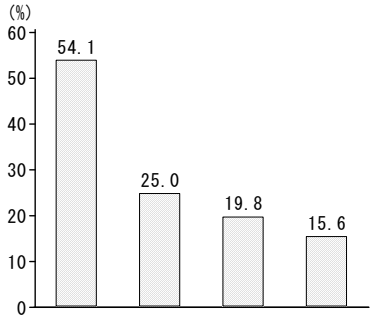
各選択肢　選択率			
回答方法	2009年	2011年	2013年
「受診者の負担割合増」のみ選択	32.1%	38.6%	44.9%
「増税」のみ選択	26.9%	20.9%	18.0%
「その他」のみ選択	14.1%	16.3%	13.9%
「健康保険料の引き上げ」のみ選択	13.9%	13.5%	11.6%
複数選択	13.0%	10.7%	11.6%

	性・年代（２０１３）	n	2 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす	3 税金を上げてまかなう	1 私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる	4 その他
1	２００９年	2,454	40.0	36.2	22.6	16.7
2	２０１１年	2,113	46.4	26.9	21.1	18.4
3	２０１３年	2,268	54.1	25.0	19.8	15.6
4	■男性計	1,130	53.3	28.8	22.2	13.5
5	男性２０歳代	154	50.6	21.4	28.6	9.1
6	男性３０歳代	297	55.6	27.3	17.5	14.8
7	男性４０歳代	247	55.1	31.6	20.2	13.4
8	男性５０歳代	213	54.5	28.6	19.7	15.5
9	男性６０・７０歳代	219	48.9	33.3	28.8	12.8
10	■女性計	1,138	55.0	21.1	17.4	17.8
11	女性２０歳代	178	48.9	30.9	20.8	11.8
12	女性３０歳代	287	54.0	19.5	19.2	16.7
13	女性４０歳代	245	53.9	19.6	18.0	19.6
14	女性５０歳代	227	59.5	18.5	15.4	20.7
15	女性６０・７０歳代	201	58.2	19.4	13.4	18.9

受診状況別（p.8：問７参照）に見ると、『入院したことがある』人や『診療所や病院の外来に定期的に通院した』人では、「税金を上げてまかなう」の割合がやや高くなっている。

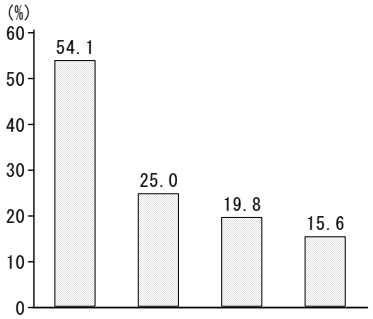
なお、世帯年収別の回答差は見られなかった。

問２５　負担増の選択（複数回答）



	問７　最近１年間の受診状況（複数回答）	n	2 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす	3 税金を上げてまかなう	1 私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる	4 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	54.1	25.0	19.8	15.6
1	入院したことがある	135	50.4	29.6	20.7	14.1
2	診療所や病院の外来に定期的に通院した	724	50.3	28.0	21.4	18.5
3	診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した	801	54.9	24.2	18.6	18.4
4	歯科に通院した	826	54.8	25.2	20.7	14.5
5	最近１年間では医療機関にかかっていない	570	56.0	23.7	19.8	13.3

問２５　負担増の選択（複数回答）



	＊問５　世帯年収	n	2 医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす	3 税金を上げてまかなう	1 私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる	4 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	54.1	25.0	19.8	15.6
1	２００万円未満	121	43.0	29.8	18.2	18.2
2	２００万円～４００万円未満	599	51.9	25.4	20.7	14.4
3	４００万円～６００万円未満	632	53.6	25.9	20.3	15.3
4	６００万円～８００万円未満	356	57.3	21.6	19.4	16.3
5	８００万円以上	333	60.7	26.4	18.9	15.0
6	わからない	227	52.9	21.6	18.9	18.1

付問１　そのように考える理由をご自由にお書きください。

「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」と回答した人の理由としては、「医療費は国民全員で負担すべきだから」がもっとも多く、次いで「現状ではやむを得ないと思うから」が挙げられている。

「医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす」と回答した人の理由の多くは、「受診した患者が負担するのが妥当だと思うから」がもっとも多く、「安易な受診を減らし、医療費の削減につながると思うから」も多く挙がっている。

「税金を上げてまかなう」と回答した人は、「公平な負担だと思うから」や「強いて言うなら一番妥当な対応だと思うから」を理由として挙げている。

＜健康保険料を引き上げるべき／理由＞

No.	主な内容	件数
1	医療費は国民全員で負担すべきだから	37
2	現状ではやむを得ないと思うから	32
3	他によい方法がないから	25
4	医療制度・保険制度を維持する必要があるから	19
5	受診した患者が負担するのが妥当だと思うから	16

＜受診患者の負担を増やすべき／理由＞

No.	主な内容	件数
1	受診した患者が負担するのが妥当だと思うから	241
2	安易な受診を減らし、医療費の削減につながると思うから	128
3	受診しない人も同様に負担するのは不公平だと思うから	107
4	高齢者の受診頻度や負担を見直すべきだと思うから	70
5	病気になるのは自己責任だから	30

＜税金を上げてまかなうべき／理由＞

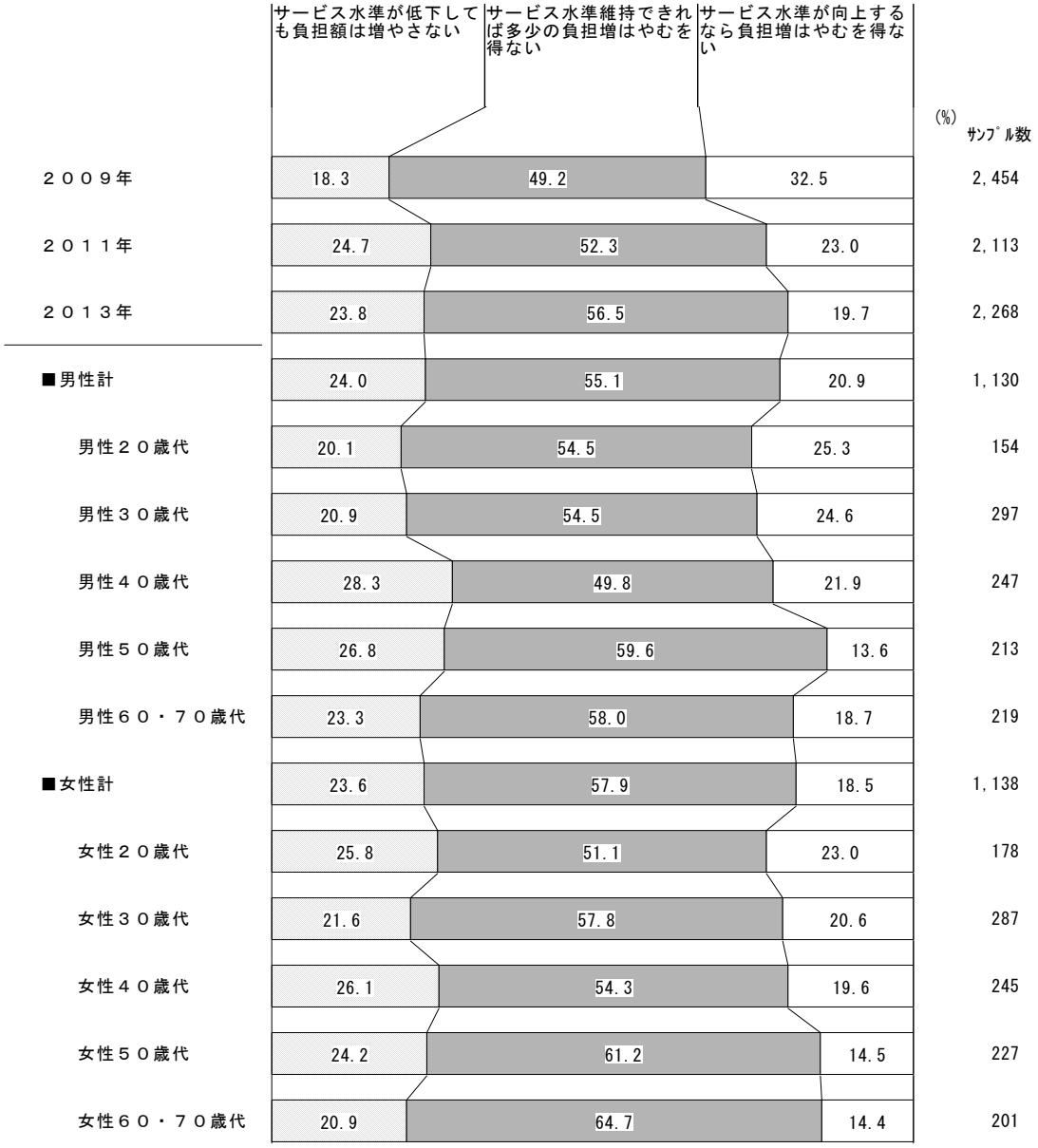
No.	主な内容	件数
1	公平な負担だと思うから	45
2	強いて言うなら一番妥当な対応だと思うから	42
3	医療費は国民全員で負担すべきだから	39
4	他によい方法がないから	22
5	所得や年齢に応じた負担にすればよいと思うから	19
5	個人負担には限度があり、これ以上の負担は生活が苦しくなると思うから	19

３．５．３　医療サービスの水準と費用負担についての考え（問２６）

問２６　医療サービスの水準と費用負担との関係について、次のいずれかの考え方を選ばなければならないとしたら、あなたはどの考え方を選択しますか。（回答は１つ）

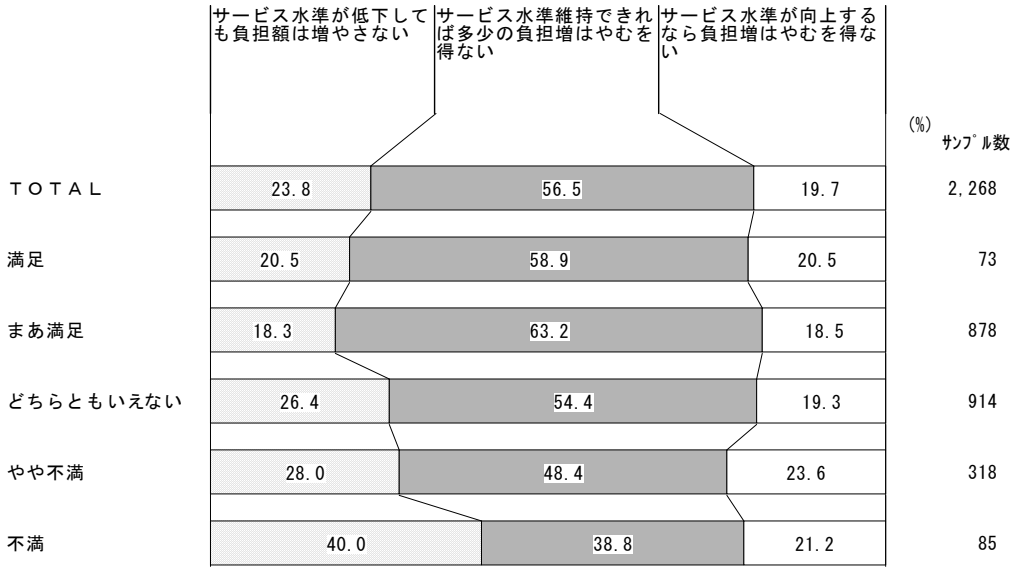
医療サービスの水準と費用負担についての考え方は、6 割弱（56.5%）が「サービス水準を維持できれば多少の負担増はやむを得ない」と回答している。また、4 人に 1 人が「サービス水準が低下しても負担額は増やさない」（23.8%）と回答しており、2011 年とほぼ同じ割合となっている。一方、「サービス水準が向上するなら負担増はやむを得ない」は 2 割（19.7%）であり、2009 年、2011 年に比べて徐々に低くなっている。

問２６　医療サービスの水準と費用負担についての考え



医療全般に対する満足度別（p.31：問 18 参照）に見ると、不満度が高くなるにつれて「サービス水準が低下しても負担額は増やさない」と回答する傾向があり、特に『不満』の層では 4 割（40.0%）が負担増に否定的である。

問２６　医療サービスの水準と費用負担についての考え



３．５．４　紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え（問２７）

問２７　現在、救急外来の現場の一部では、緊急性の低い症状で利用するケースが増えており、本来必要とする患者さんへの対応が滞る事態が発生しています。

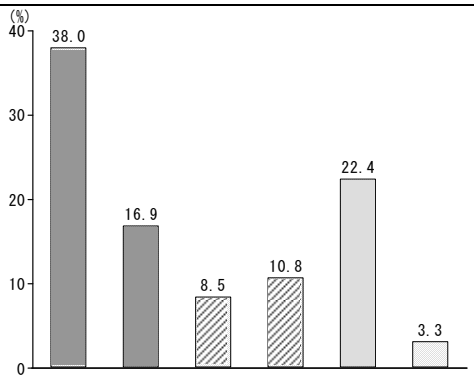
政府の社会保障制度改革国民会議において、病院と診療所の適切な役割分担を図るため、大病院の外来は紹介患者を中心とし、一般的な外来受診は「かかりつけ医」に相談するシステムの普及、定着を進めていく目的で、紹介状なしの大病院の外来の受診には１万円などの定額負担を導入する意見が出ました。あなたは、これについてどう考えますか。（回答は１つ）

紹介状なしの大病院の外来受診について、定額負担を導入する案に対しては、「安易な大病院での外来の利用を抑える効果があると思う」が 4 割（38.0%）となっている。次いで「利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う」が 22.4%となっている。

1 万円の設定について、効果がある（「安易な大病院での外来の利用を抑える効果があると思う」および「もっと低額の負担でも、効果はあると思う」の合計）は 54.9%、効果はない（「負担が発生しても利用を抑える効果はないと思う」および「もっと高額の負担でないと、効果はないと思う」の合計）は 19.3%であった。

性・年代別に見ると、女性 30 歳代の「安易な大病院での外来の利用を抑える効果があると思う」（45.3%）、女性 50 歳代の「利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う」（28.2%）が、他の層よりも高くなっている。

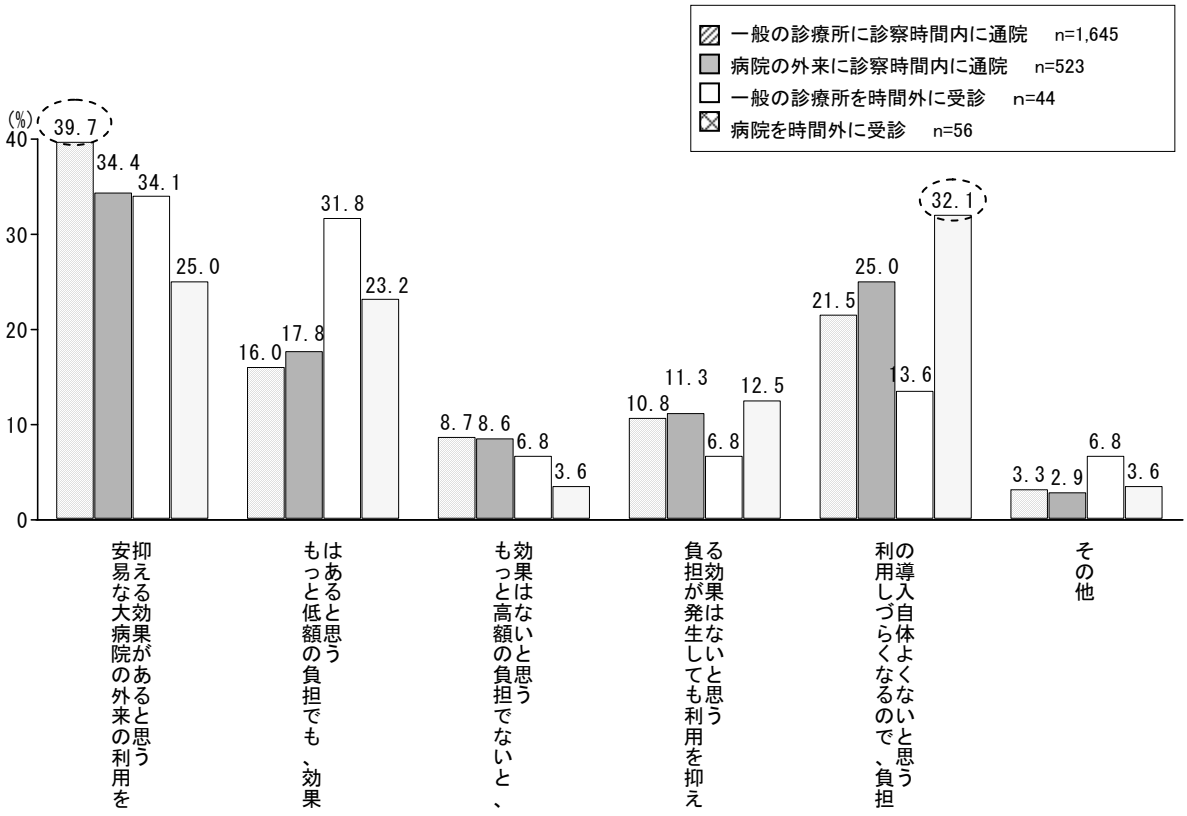
問２７　紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え



	性・年代	n	1 安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う	2 もっと低額の負担でも、効果はあると思う	3 もっと高額の負担でないと、効果はないと思う	4 負担が発生しても利用を抑える効果はないと思う	5 利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う	6 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	38.0	16.9	8.5	10.8	22.4	3.3
1	■男性計	1,130	35.4	18.4	9.8	11.7	20.9	3.8
2	男性２０歳代	154	33.8	20.1	7.8	16.2	20.1	1.9
3	男性３０歳代	297	34.3	16.8	11.8	11.8	22.2	3.0
4	男性４０歳代	247	36.0	19.4	10.1	12.6	17.4	4.5
5	男性５０歳代	213	36.2	18.3	10.8	10.3	19.7	4.7
6	男性６０・７０歳代	219	36.5	18.3	7.3	8.7	24.7	4.6
7	■女性計	1,138	40.6	15.5	7.2	10.0	24.0	2.7
8	女性２０歳代	178	38.8	19.1	6.2	10.7	24.2	1.1
9	女性３０歳代	287	45.3	13.2	6.6	11.8	21.3	1.7
10	女性４０歳代	245	40.0	15.1	9.8	10.2	22.0	2.9
11	女性５０歳代	227	38.3	15.0	8.8	7.0	28.2	2.6
12	女性６０・７０歳代	201	38.8	16.4	4.0	10.0	25.4	5.5

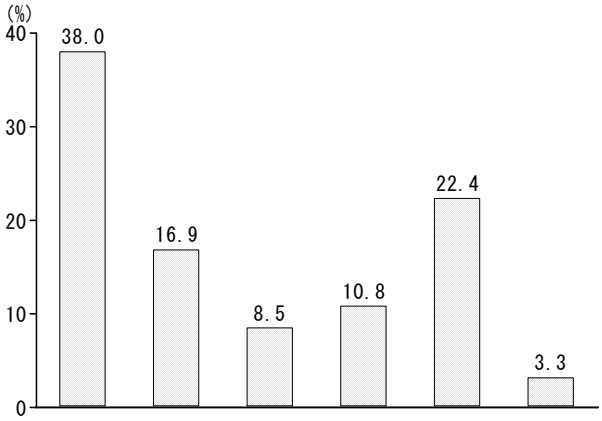
また、直近に外来受診した医療機関別（p.13：問 10 参照）に見ると、『一般の診療所に診察時間内に通院』した人で、「安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う」（39.7%）が高い。一方、『病院を時間外に受診』した人では、「利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う」（32.1%）が高くなっている。

問２７　紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え



世帯年収別に見ると、『1000 万円以上』世帯で「安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う」が高い。また、『200 万円未満』世帯で「もっと低額の負担でも、効果はあると思う」および「負担が発生しても利用を抑える効果はないと思う」の割合が他の層より高くなっている。『200 万円～400 万円未満』世帯では「利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う」が高くなっている。

問２７　紹介状なしの大病院の外来受診に対する定額負担導入への考え



	＊問５　世帯年収	n	1 安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う	2 もっと低額の負担でも、効果はあると思う	3 もっと高額の負担でないと、効果はないと思う	4 負担が発生しても利用を抑える効果はないと思う	5 利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う	6 その他
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	38.0	16.9	8.5	10.8	22.4	3.3
1	２００万円未満	121	33.1	24.8	5.8	17.4	15.7	3.3
2	２００万円～４００万円未満	599	35.1	14.4	8.8	12.5	26.5	2.7
3	４００万円～６００万円未満	632	39.7	15.5	7.8	10.4	22.5	4.1
4	６００万円～８００万円未満	356	41.3	18.8	7.0	8.7	21.3	2.8
5	８００万円～１０００万円未満	171	38.6	18.7	11.1	8.2	19.3	4.1
6	１０００万円以上	162	48.1	16.0	13.0	10.5	11.1	1.2
7	わからない	227	30.8	19.8	8.4	9.7	27.3	4.0

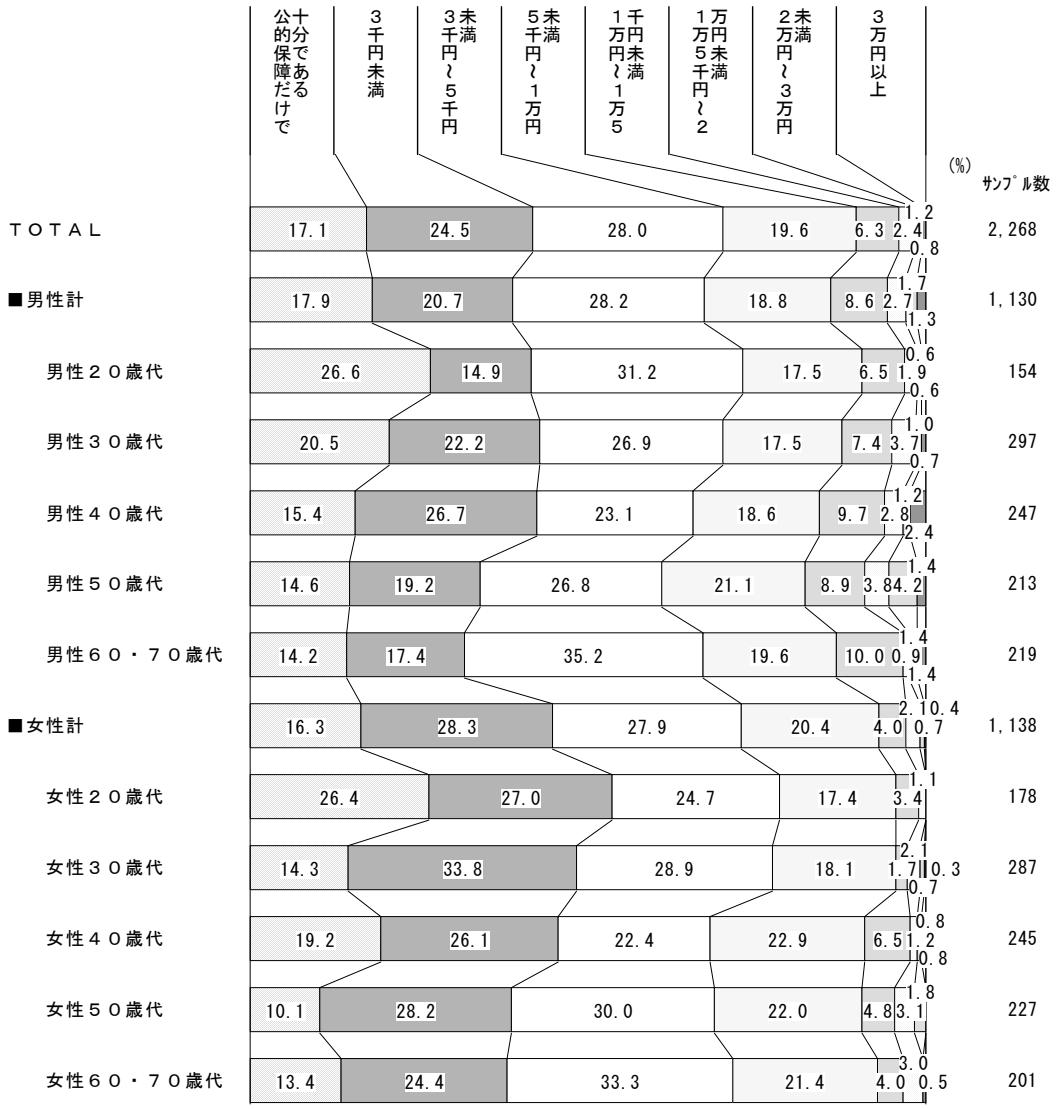
３．５．５　民間保険加入に対する考え（問２８）

問２８　公的保障（健康保険制度）のほかに民間保険（例：生命保険の疾病特約やがん保険等）に加入するなどの備えをする場合、月額いくらまでなら保険料を支払っても構わないと考えますか。
（回答は１つ）

民間保険加入の際に支払っても構わない保険料としては、「3 千円～5 千円未満」が 3 割（28.0%）ともっとも多く、次いで「3 千円未満」（24.5%）、「5 千円～1 万円未満」（19.6%）となっており、1 万円以下の支払いが全体の 7 割を占める。なお、「公的保障だけで十分である」とするのは 2 割弱（17.1%）を占める。

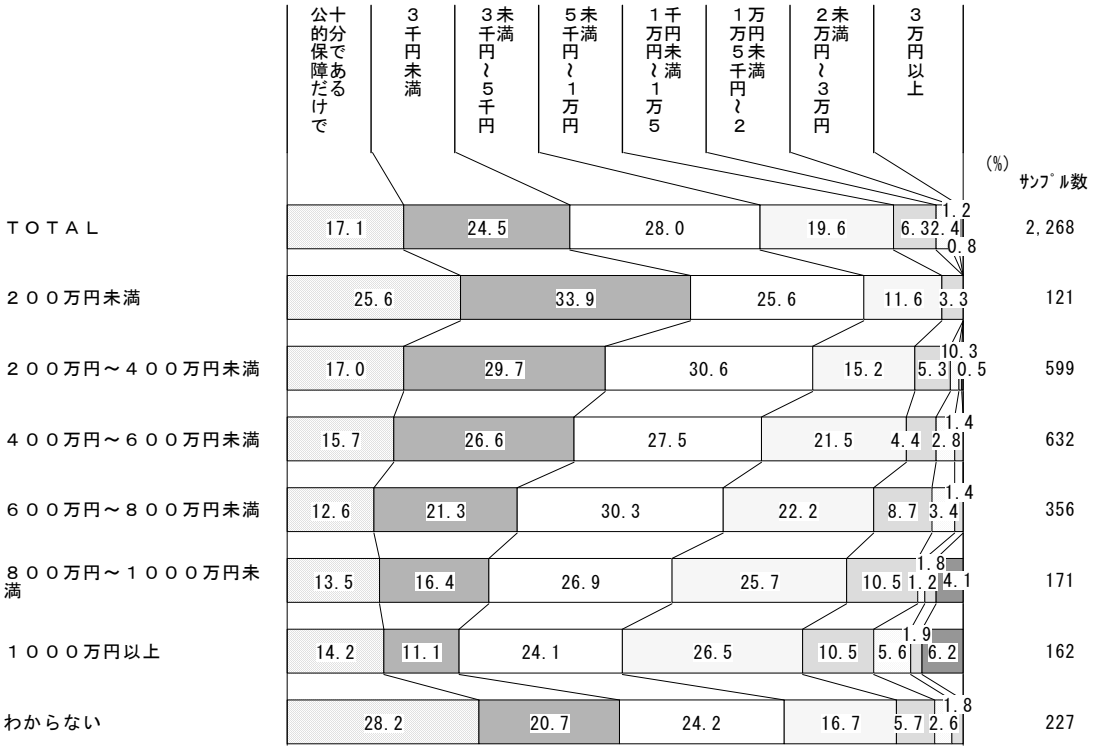
性別に見ると、男性は「1 万円～1 万 5 千円未満」、女性は「3 千円未満」が高くなっている。

問２８　民間保険加入に対する考え



世帯年収別に見ると、世帯年収が高いほど支払っても構わない保険料も高くなる傾向にあり、『1000万円以上』世帯では 2 割強（24.2%）が 1 万円以上支払っても構わないと回答している。また、「公的保障だけで十分である」とするのは、『200 万円未満』世帯がもっとも高い。

問２８　民間保険加入に対する考え



３．５．６　医療費・保険料の公平性の考え方（問２９）

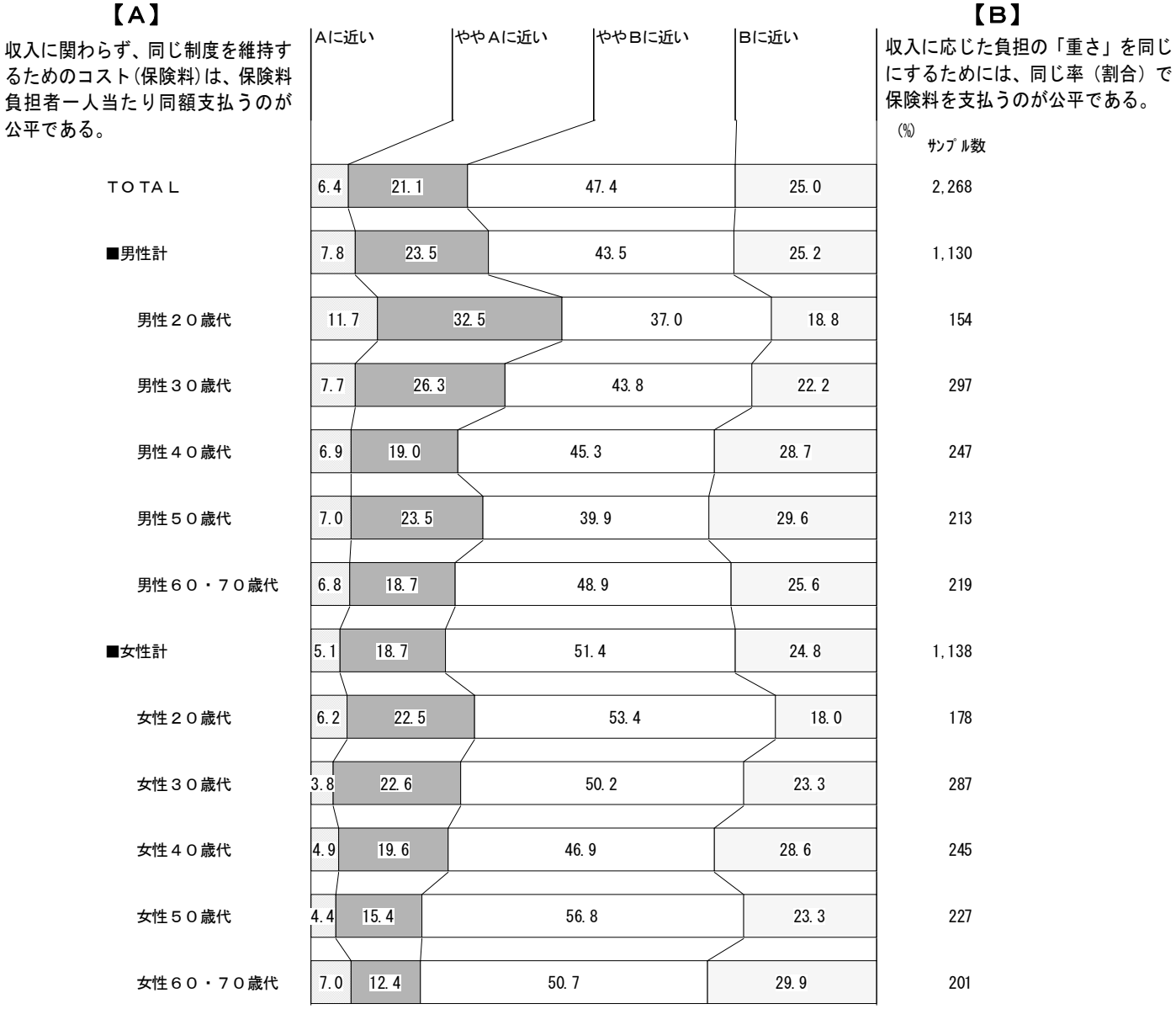
問２９　今日の日本では、誰もが安心して必要な医療を受けられるよう、病気になったときに医療費の支払いが大きな負担になった際の国が保障する制度として「社会保障としての医療保険制度」が運用されています。この制度を今後も維持していくためには多くの人の納得と理解が不可欠ですが、「公平性」の考え方は人によってさまざまです。

以下の(1)～(4)の項目について、ＡとＢ、あなたのお考えに近いほうの意見をお選びください。（回答は１つ）

(1)保険料は金額と率（割合）のどちらを同じにするのが公平か

保険料負担の公平性については、「収入に応じて同じ率（割合）で支払うのが公平（「B に近い」＋「やや B に近い」）」と考える人の割合が 7 割強（72.4%）となっている。ただし、男性 20 歳代は「収入に関わらず保険料は同額支払うのが公平（「A に近い」＋「やや A に近い」）」と考える人の割合が 4 割強（44.2%）と他の層より高くなっている。

問２９　(1)保険料は金額と率（割合）のどちらを同じにするのが公平か

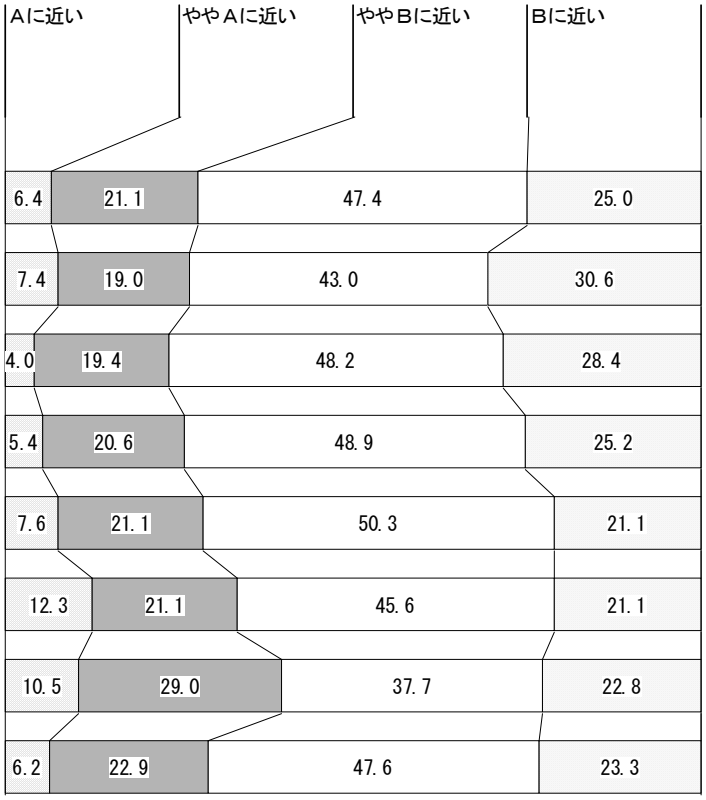


世帯年収別に見ると、世帯収入が高くなるにつれて、「収入に関わらず保険料は同額支払うのが公平（「Ａに近い」＋「ややＡに近い」）」と考える人の割合が高い。

問２９　(1)保険料は金額と率（割合）のどちらを同じにするのが公平か

【Ａ】収入に関わらず、同じ制度を維持するためのコスト(保険料)は、保険料負担者一人当たり同額支払うのが公平である。

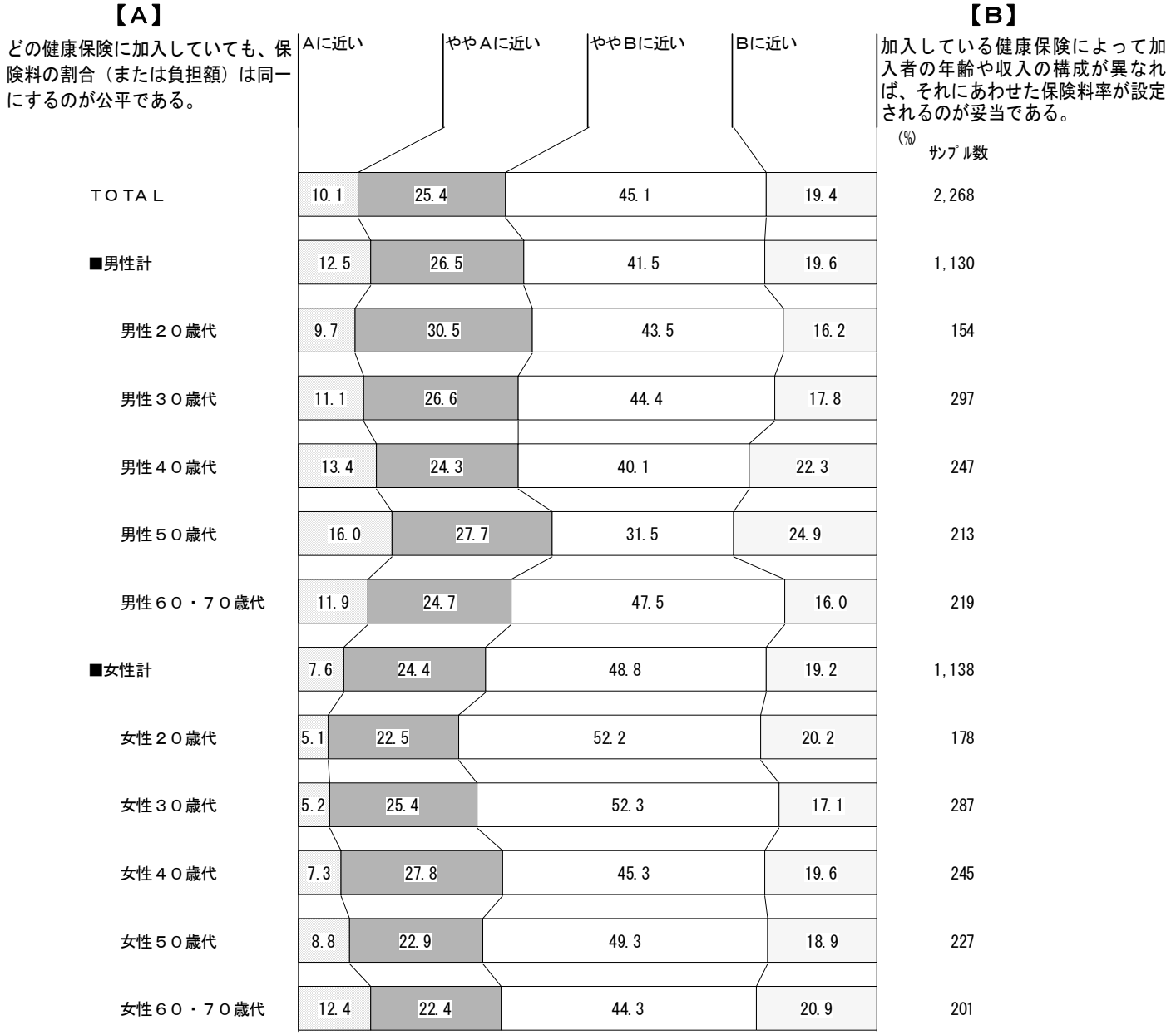
【Ｂ】収入に応じた負担の「重さ」を同じにするためには、同じ率（割合）で保険料を支払うのが公平である。



(2)加入健康保険ごとの保険料率の設定をどう考えるか

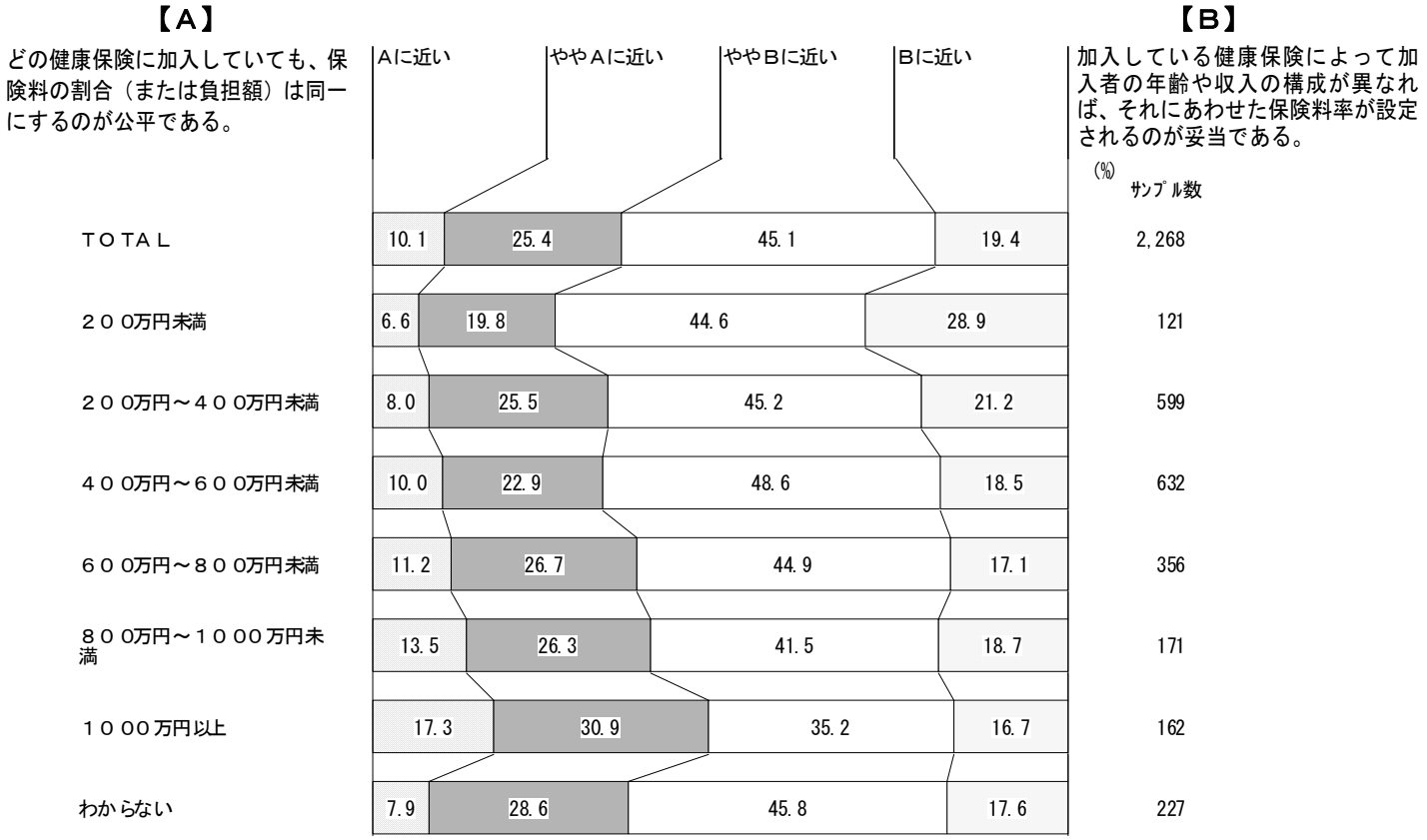
加入健康保険ごとの保険料設定については、「加入健康保険に応じた保険料率設定が妥当（B に近い、やや B に近い）」と考える人の割合が 6 割強（64.5%）となっている。ただし、男性 50 歳代は「加入健康保険に関わらず保険料率等の設定は同一にするのが公平（「A に近い」＋「やや A に近い」）」と考える人の割合が 4 割強（43.7%）と他の層より高くなっている。

問２９　(2)加入健康保険ごとの保険料率の設定をどう考えるか



世帯年収別に見ると、世帯収入が高くなるにつれて、「加入健康保険に関わらず保険料率等の設定は同一にするのが公平（「A に近い」＋「やや A に近い」）」と考える人の割合が高い。

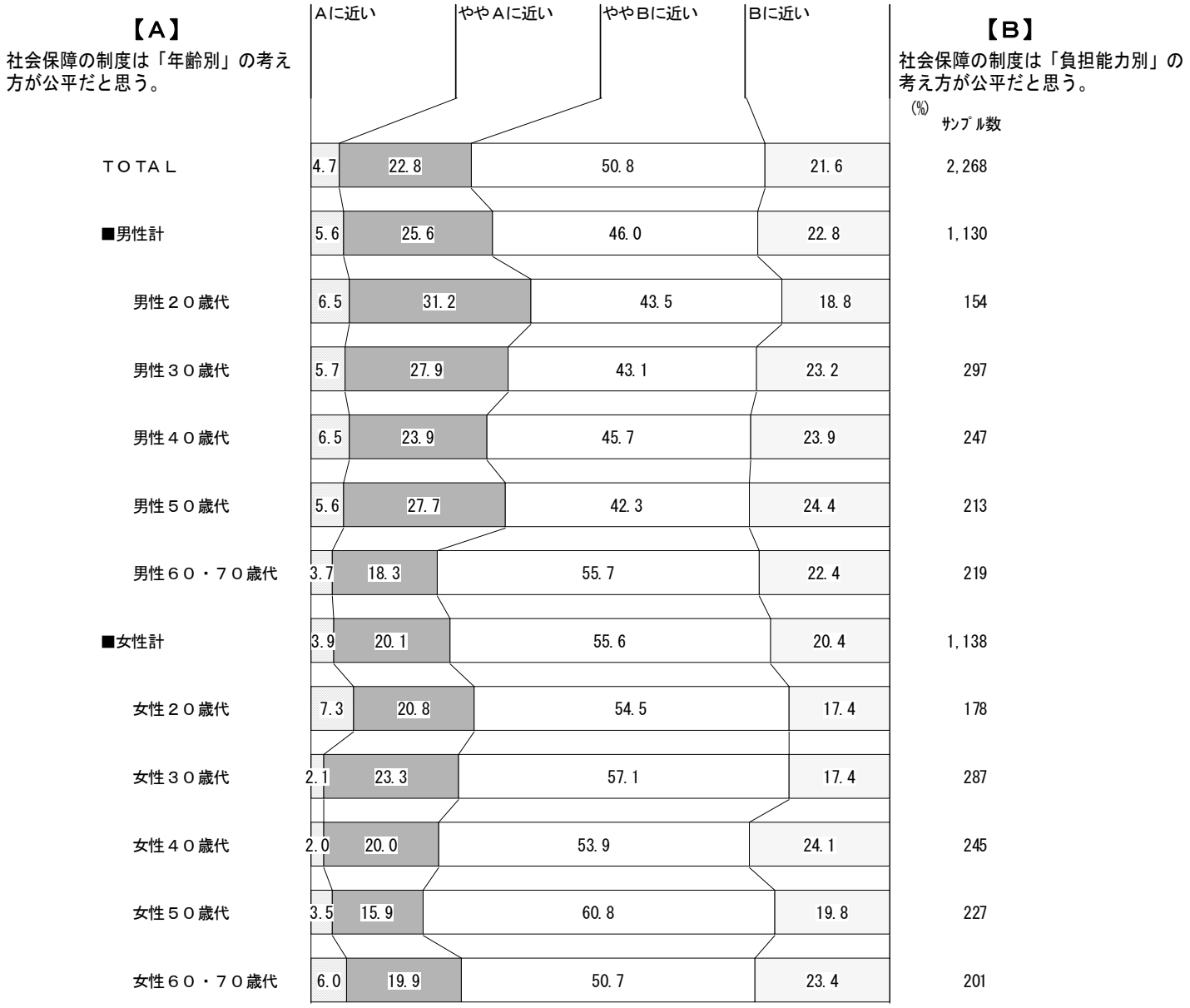
問２９　(2)加入健康保険ごとの保険料率の設定をどう考えるか



(3) 社会保障制度は年齢別と負担能力別のどちらが公平か

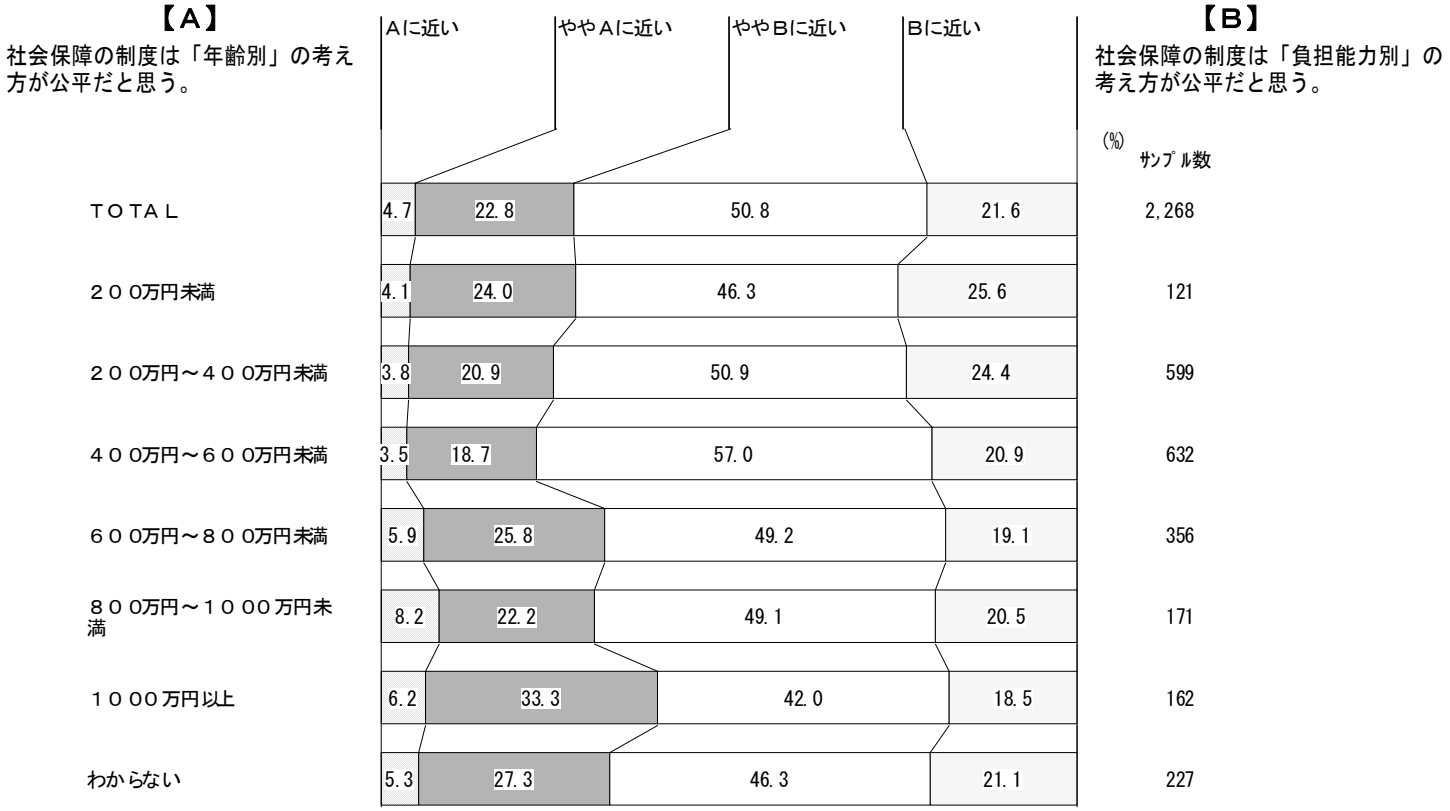
社会保障制度について、年齢別ではなく「負担能力別の考え方が公平（「B に近い」＋「やや B に近い」）」と考える人の割合が 7 割強（72.4%）となっている。女性 30・50 歳代は「やや B に近い」と考える人の割合が他の層より高くなっている。一方、男性 20 歳代は「年齢別の考え方が公平（「A に近い」＋「やや A に近い」）」と考える人の割合が 4 割（37.7%）と他の層より高くなっている。

問２９　(3) 社会保障制度は年齢別と負担能力別のどちらが公平か



世帯年収別に見ると、『400 万円～600 万円未満』世帯では「負担能力別の考え方が公平（「B に近い」＋「やや B に近い」)」、『1000 万円以上』世帯では「年齢別の考え方が公平（「A に近い」＋「やや A に近い」)」と考える人の割合が高い。

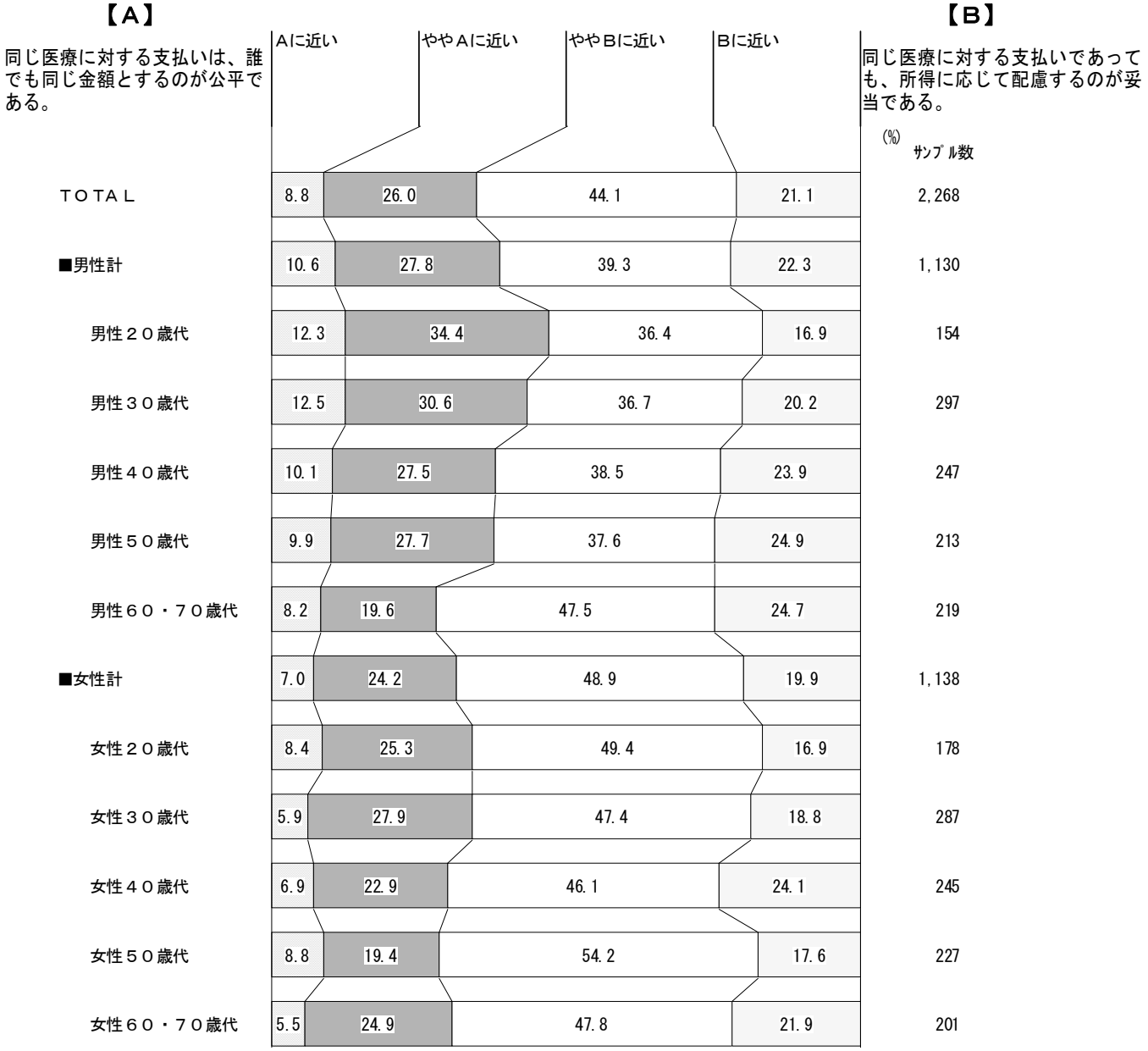
問２９　(3)社会保障制度は年齢別と負担能力別のどちらが公平か



(4) 医療費の支払いは同額と所得配慮のどちらが妥当か

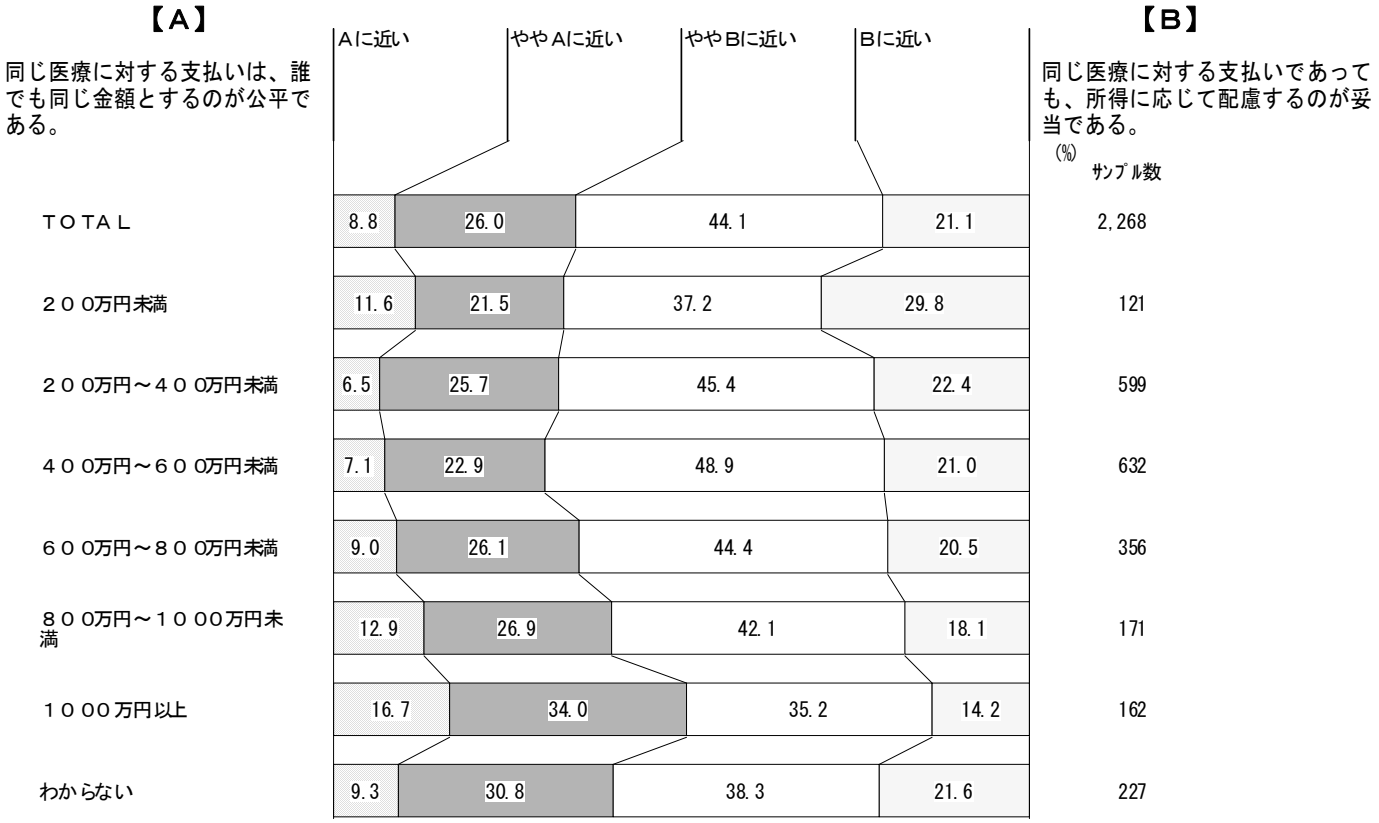
医療費の支払いについて、「同じ医療に対する支払いは所得に応じて配慮するのが妥当（「B に近い」＋「やや B に近い」)」と考える人の割合が 6 割強（65.2%）となっている。一方、男性 20・30 歳代は「同じ医療に対する支払いは誰でも同額とするのが公平（「A に近い」＋「やや A に近い」)」と考える人の割合が他の層より高くなっている。

問２９　(4) 医療費の支払いは同額と所得配慮のどちらが妥当か



世帯年収別に見ると、『1000 万円以上』世帯で「同じ医療に対する支払いは誰でも同額とするのが公平（「A に近い」＋「やや A に近い」）」と考える人が半数（50.7%）と他の層より高い。

問２９　(4)医療費の支払いは同額と所得配慮のどちらが妥当か



３．６　健康寿命等について（問３１）

問３１　最後に、以下のそれぞれについて、あなたのイメージの年齢を直感でお答えください。

(1) 高齢者と考える年齢

(2) 仕事をやめる年齢

(3) 介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢

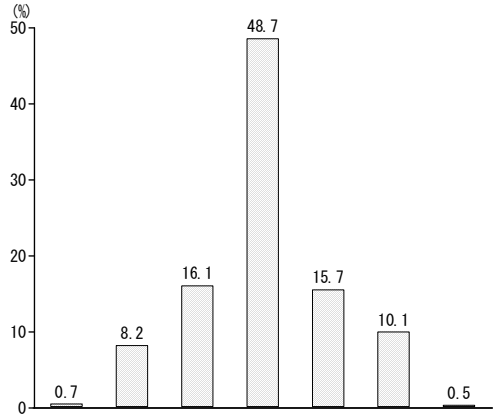
(4) あなたが生きていたいと思う年齢

(1)高齢者と考える年齢

「70～74 歳」がもっとも高く、平均年齢は 70.21 歳であった。

性・年代別に見ると、年齢が上がるにつれて高齢者と考える年齢も高くなる傾向にある。

問３１　(1)高齢者と考える年齢

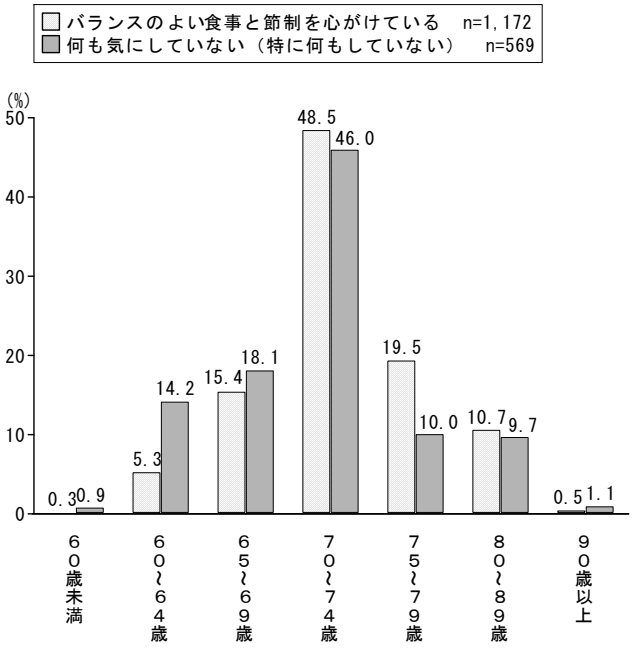


平均年齢 70.21 歳
（男性平均 69.11 歳）
（女性平均 71.30 歳）
中央値 70.0 歳

	性・年代	n	1 ６０歳未満	2 ６０～６４歳	3 ６５～６９歳	4 ７０～７４歳	5 ７５～７９歳	6 ８０～８９歳	7 ９０歳以上
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	0.7	8.2	16.1	48.7	15.7	10.1	0.5
1	■男性計	1,130	1.2	11.6	18.7	49.6	10.8	7.6	0.5
2	男性２０歳代	154	4.5	26.6	29.2	33.8	1.3	3.9	0.6
3	男性３０歳代	297	2.0	14.5	25.3	45.8	6.4	5.7	0.3
4	男性４０歳代	247	0.4	12.1	17.0	52.6	9.3	7.7	0.8
5	男性５０歳代	213	0.0	7.0	16.4	54.0	13.6	8.0	0.9
6	男性６０・７０歳代	219	0.0	0.9	6.4	58.0	22.4	12.3	0.0
7	■女性計	1,138	0.1	4.9	13.5	47.8	20.6	12.6	0.5
8	女性２０歳代	178	0.0	17.4	18.0	41.0	12.9	10.1	0.6
9	女性３０歳代	287	0.3	4.2	19.9	49.5	17.8	8.0	0.3
10	女性４０歳代	245	0.0	4.1	13.5	55.5	16.7	9.8	0.4
11	女性５０歳代	227	0.0	1.3	10.1	50.2	23.3	14.1	0.9
12	女性６０・７０歳代	201	0.0	0.0	4.5	39.3	32.8	22.9	0.5

健康維持・生活習慣病予防のための取り組み別（p21：問 17 参照）で『バランスのよい食事と節制を心がけている』、および『何も気にしていない（特に何もしていない)』と答えた人を比較すると、『バランスのよい食事と節制を心がけている』人は「75～79 歳」、『何も気にしていない（特に何もしていない)』人は「60～64 歳」の回答割合が高めになっている。

問３１　(1)高齢者と考える年齢



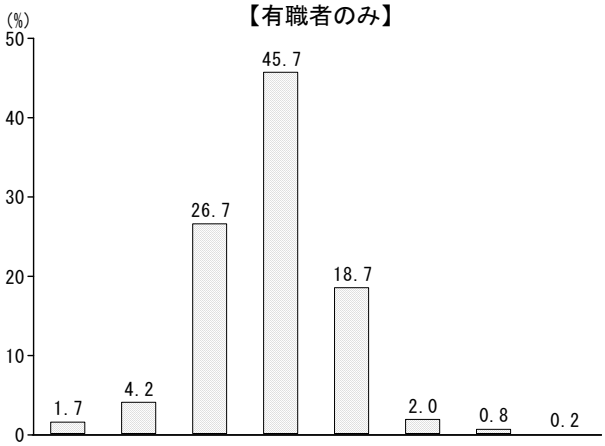
(2)仕事を持っている人が考える仕事をやめる年齢

「65～69 歳」がもっとも高く、平均年齢は 64.06 歳であった。

性・年代別に見ると、年齢が若いほど 64 歳までが仕事をやめる年齢と考える傾向にある。

問３１　(2)仕事をやめる年齢

【有職者のみ】



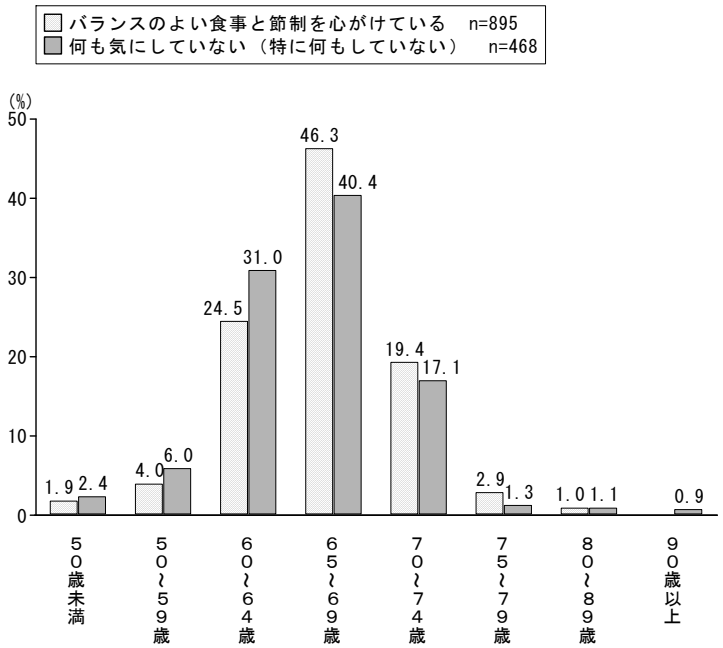
平均年齢 64.06 歳
（男性平均 65.16 歳）
（女性平均 62.56 歳）
中央値 65.0 歳

	性・年代	n	1 ５０歳未満	2 ５０～５９歳	3 ６０～６４歳	4 ６５～６９歳	5 ７０～７４歳	6 ７５～７９歳	7 ８０～８９歳	8 ９０歳以上
0	ＴＯＴＡＬ	1,815	1.7	4.2	26.7	45.7	18.7	2.0	0.8	0.2
1	■男性計	1,044	0.8	1.7	22.9	48.1	23.0	2.4	0.9	0.3
2	男性２０歳代	112	4.5	5.4	37.5	37.5	12.5	2.7	0.0	0.0
3	男性３０歳代	287	1.0	2.8	27.5	46.3	19.9	1.4	1.0	0.0
4	男性４０歳代	243	0.0	1.2	25.1	50.2	20.2	1.6	0.8	0.8
5	男性５０歳代	208	0.0	0.5	22.6	54.8	18.8	2.4	1.0	0.0
6	男性６０・７０歳代	194	0.0	0.0	5.2	46.9	41.8	4.6	1.0	0.5
7	■女性計	771	3.0	7.5	31.8	42.5	12.8	1.6	0.6	0.1
8	女性２０歳代	120	11.7	12.5	50.8	19.2	5.0	0.8	0.0	0.0
9	女性３０歳代	200	4.5	9.5	36.5	39.5	8.0	1.5	0.5	0.0
10	女性４０歳代	200	0.0	11.0	29.5	46.0	13.5	0.0	0.0	0.0
11	女性５０歳代	164	0.0	1.2	28.0	51.8	15.9	2.4	0.6	0.0
12	女性６０・７０歳代	87	0.0	0.0	6.9	56.3	27.6	4.6	3.4	1.1

健康維持・生活習慣病予防のための取り組み別（p21：問 17 参照）で『バランスのよい食事と節制を心がけている』、および『何も気にしていない（特に何もしていない)』と答えた人を比較すると、『バランスのよい食事と節制を心がけている』人は「65～69 歳」、『何も気にしていない（特に何もしていない)』人は「60～64 歳」の回答割合が高めになっている。

問３１　(2)仕事をやめる年齢

【有職者のみ】

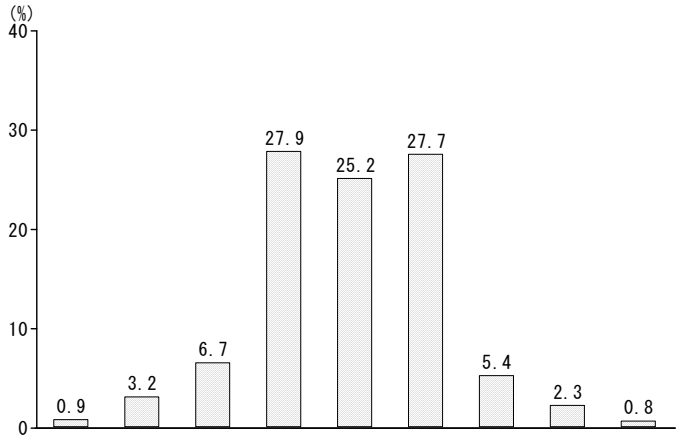


(3)介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢

70～84 歳にかけての回答が高く、平均年齢は 74.85 歳であった。

性・年代別に見ると、年齢が上がるにつれて、介護を必要とせずに日常生活を送れると考える年齢も上がる傾向にある。

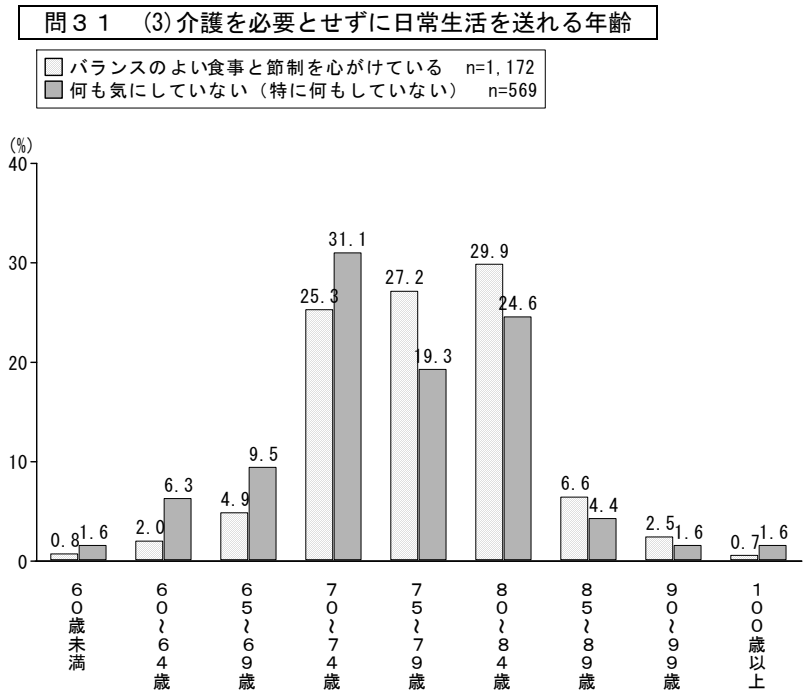
問３１　(3)介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢



平均年齢 74.85 歳
（男性平均 74.41 歳）
（女性平均 75.29 歳）
平均値 75.0 歳

	性・年代	n	1 60歳未満	2 60～64歳	3 65～69歳	4 70～74歳	5 75～79歳	6 80～84歳	7 85～89歳	8 90～99歳	9 100歳以上
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	0.9	3.2	6.7	27.9	25.2	27.7	5.4	2.3	0.8
1	■男性計	1,130	1.0	3.5	8.0	29.2	25.2	25.2	4.1	3.0	0.9
2	男性２０歳代	154	4.5	7.8	7.8	33.1	18.2	23.4	3.2	0.6	1.3
3	男性３０歳代	297	1.0	4.4	13.5	34.0	20.5	19.5	3.4	2.4	1.3
4	男性４０歳代	247	0.0	2.8	9.3	26.7	26.7	28.3	1.6	4.0	0.4
5	男性５０歳代	213	0.5	2.8	4.7	32.9	28.2	23.0	4.7	2.3	0.9
6	男性６０・７０歳代	219	0.0	0.5	2.3	19.2	32.0	32.9	7.8	5.0	0.5
7	■女性計	1,138	0.8	2.9	5.4	26.6	25.1	30.1	6.7	1.7	0.7
8	女性２０歳代	178	2.2	6.2	7.3	33.1	23.6	16.9	7.9	1.7	1.1
9	女性３０歳代	287	0.7	3.5	7.3	35.2	21.3	26.5	4.9	0.0	0.7
10	女性４０歳代	245	1.2	4.1	5.7	29.4	24.9	28.2	4.1	1.2	1.2
11	女性５０歳代	227	0.0	0.9	4.0	22.0	26.9	33.5	10.1	2.6	0.0
12	女性６０・７０歳代	201	0.0	0.0	2.0	10.4	30.3	45.8	7.5	3.5	0.5

健康維持・生活習慣病予防のための取り組み別（p21：問 17 参照）で『バランスのよい食事と節制を心がけている』、および『何も気にしていない（特に何もしていない)』と答えた人を比較すると、『バランスのよい食事と節制を心がけている』人は 75～84 歳にかけて、『何も気にしていない（特に何もしていない)』人は 60～74 歳にかけての回答割合が高めになっている。

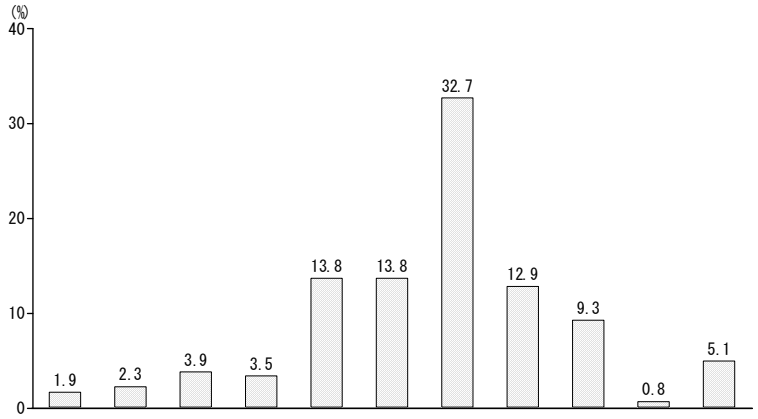


(4)生きていたいと思う年齢

「80～84 歳」の回答が高く、平均年齢は 78.32 歳であった。

性・年代別に見ると、年齢が上がるにつれて生きていたいと思う年齢も上がる傾向にある。

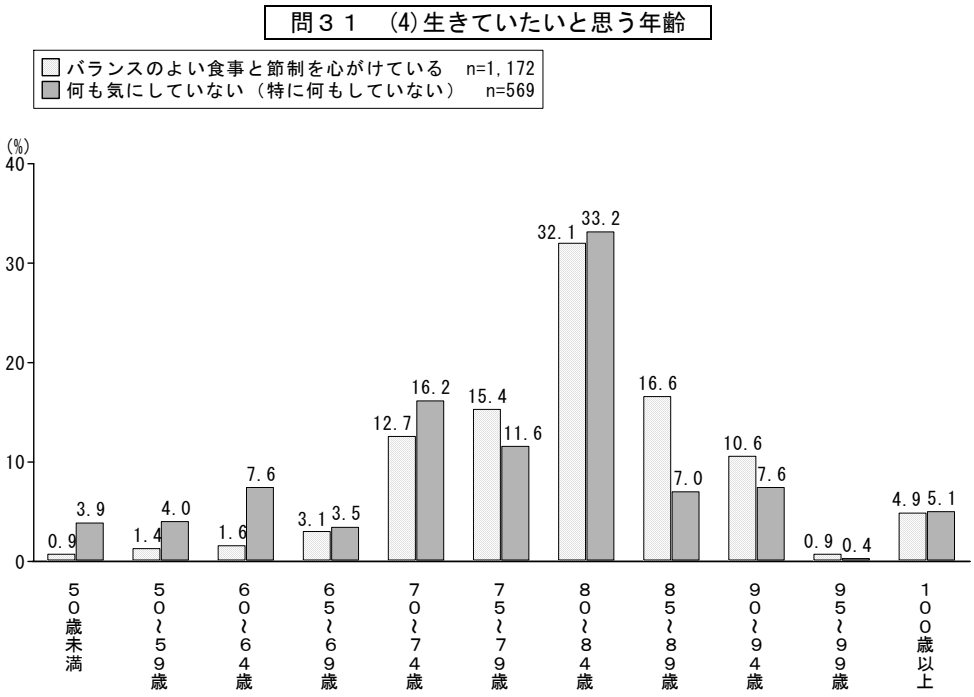
問３１　(4)生きていたいと思う年齢



平均年齢 78.32 歳
（男性平均 78.73 歳）
（女性平均 77.90 歳）
中央値 80.0 歳

	性・年代	n	1 50歳未満	2 50～59歳	3 60～64歳	4 65～69歳	5 70～74歳	6 75～79歳	7 80～84歳	8 85～89歳	9 90～94歳	10 95～99歳	11 100歳以上
0	ＴＯＴＡＬ	2,268	1.9	2.3	3.9	3.5	13.8	13.8	32.7	12.9	9.3	0.8	5.1
1	■男性計	1,130	1.9	2.3	4.2	3.1	13.4	13.0	33.8	11.6	9.5	1.0	6.3
2	男性２０歳代	154	9.1	7.8	7.1	3.9	11.0	9.1	25.3	9.7	10.4	0.6	5.8
3	男性３０歳代	297	2.0	3.4	6.1	4.7	16.8	9.8	34.0	7.1	8.8	0.7	6.7
4	男性４０歳代	247	0.8	1.2	5.7	4.0	17.0	13.4	34.4	7.7	8.5	1.2	6.1
5	男性５０歳代	213	0.0	0.5	1.4	0.9	15.0	18.8	36.6	13.1	7.0	0.0	6.6
6	男性６０・７０歳代	219	0.0	0.0	0.5	1.4	4.6	14.2	36.1	21.9	13.2	2.3	5.9
7	■女性計	1,138	1.8	2.4	3.6	3.9	14.1	14.7	31.6	14.1	9.2	0.7	3.9
8	女性２０歳代	178	8.4	2.8	5.1	5.6	14.0	6.2	23.6	14.6	14.0	0.6	5.1
9	女性３０歳代	287	1.7	3.1	4.2	4.9	17.4	9.4	35.2	10.8	7.3	0.7	5.2
10	女性４０歳代	245	0.0	4.9	5.7	4.1	20.0	20.8	24.9	7.8	6.5	1.2	4.1
11	女性５０歳代	227	0.0	0.4	2.6	4.0	11.0	21.1	35.2	14.1	8.4	0.4	2.6
12	女性６０・７０歳代	201	0.0	0.0	0.0	0.5	6.0	14.9	37.8	26.4	11.9	0.5	2.0

健康維持・生活習慣病予防のための取り組み別（p21：問 17 参照）で『バランスのよい食事と節制を心がけている』と『何も気にしていない（特に何もしていない)』と答えた人を比較すると、『バランスのよい食事と節制を心がけている」人は「75～79 歳」および 85～94 歳にかけて、『何も気にしていない（特に何もしていない)』人は 64 歳以下での回答割合が高めになっている。



資料編《調査票》

スクリーニング調査票

健康と医療に関する調査

問１【全員に】あなたの性別をお答えください。

１　男性	２　女性

問２【全員に】あなたの年齢をお答えください。

歳

問３【全員に】あなたの職業をお答えください。（回答は１つ）

１　自営業・自由業	６　パートタイマー、アルバイト
２　会社・団体などの役員	７　専業主婦（夫）、家事手伝い
３　会社員・団体職員	８　学生
４　公務員	９　無職
５　契約社員・派遣社員	10　その他（　　）

問４【全員に】あなたはふだん、医療や健康についての情報をどこから入手していますか。（回答は該当するものすべて）

１　テレビ（ニュースや情報番組、ＣＭ）	10　保健師
２　ラジオ（ニュースや情報番組、ＣＭ）	11　薬局・薬剤師
３　新聞記事・広告	12　市区町村からの案内・情報提供
４　雑誌・書籍	13　勤め先の健康管理担当
５　インターネット	14　勤め先からの案内・情報提供
６　家族	15　加入している健康保険（医療保険）からの案内・情報提供
７　友人・知人	
８　職場の同僚	16　その他（　　）
９　医師・歯科医師・看護師	17　特に情報は入手していない

問５　あなたが加入している健康保険（医療保険）の種類をお答えください（必ず健康保険証を確認のうえお答えください）。（回答は１つ）

選択肢	説明
1　組合管掌健康保険（組合健保）	企業や企業グループ（単一健保）、同業の企業（総合健保）が運営している健康保険。設立に一定規模が必要なため、主に大手企業やそのグループ企業の従業員が加入。全国に約 1,400 の組合がある。
2　全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）	健康保険組合を持たない企業の従業員で構成される健康保険。旧社会保険庁が運営していた「政府管掌健康保険（政管健保）」を国から引き継ぐ形で、平成 20 年 10 月より全国健康保険協会が運営している。
3　共済組合	国家公務員・地方公務員、私立学校教職員、一部の独立行政法人職員、日本郵政グループ職員などを対象とした健康保険。
4　船員保険	船員を対象とした健康保険。
5　国民健康保険（国保）	自営業の方などを対象に市町村と東京 23 区が運営している健康保険。
6　国民健康保険組合	自営であっても同種同業の人が集まって設立されている健康保険（例：医師国保組合　など）
7　その他	（　　）

前問で「全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）」に加入しているとお答えになった方におたずねします。」

問６　【問５で“2”の人（協会けんぽ加入者）に】あなたは被保険者本人ですか、それとも被扶養者（家族）ですか。（回答は１つ）

１	被保険者本人	４	被扶養者（被保険者の親）
２	被扶養者（被保険者の配偶者）	５	被扶養者（その他）
３	被扶養者（被保険者の子）		

問７　【問５で“2”の人（協会けんぽ加入者）に】あなたが加入している協会けんぽの支部はどちらですか。必ず健康保険証を確認のうえ、お答えください。（回答は１つ）

1	北海道支部	17	石川支部	33	岡山支部
2	青森支部	18	福井支部	34	広島支部
3	岩手支部	19	山梨支部	35	山口支部
4	宮城支部	20	長野支部	36	徳島支部
5	秋田支部	21	岐阜支部	37	香川支部
6	山形支部	22	静岡支部	38	愛媛支部
7	福島支部	23	愛知支部	39	高知支部
8	茨城支部	24	三重支部	40	福岡支部
9	栃木支部	25	滋賀支部	41	佐賀支部
10	群馬支部	26	京都支部	42	長崎支部
11	埼玉支部	27	大阪支部	43	熊本支部
12	千葉支部	28	兵庫支部	44	大分支部
13	東京支部	29	奈良支部	45	宮崎支部
14	神奈川支部	30	和歌山支部	46	鹿児島支部
15	新潟支部	31	鳥取支部	47	沖縄支部
16	富山支部	32	島根支部		

本調査票

医療と健康保険制度等に関する調査

＜基本属性＞

問１　【全員に】あなたの性別をお答えください。

１　男性	２　女性

問２　【全員に】あなたの年齢をお答えください。

歳

問３　【全員に】あなたの職業をお答えください。（回答は１つ）

１　自営業・自由業	６　パートタイマー、アルバイト
２　会社・団体等の役員	７　専業主婦（夫）、家事手伝い
３　会社員・団体職員	８　学生
４　公務員	９　無職
５　契約社員・派遣社員	10　その他（　　）

問４　【全員に】あなた以外に、同居しているご家族はいらっしゃいますか。（回答は該当するものすべて）

１　未就学児
２　小学生
３　中学生
４　65 歳以上の人
５　上記以外の家族
６　同居している家族はいない（ひとり暮らし）

問５　【全員に】あなたの世帯全体の年収（税込み）はおおよそいくら位ですか。（回答は１つ）

１　200 万円未満	６　1000 万円～1200 万円未満
２　200 万円～400 万円未満	７　1200 万円～1500 万円未満
３　400 万円～600 万円未満	８　1500 万円以上
４　600 万円～800 万円未満	９　わからない
５　800 万円～1000 万円未満	

問６　【全員に】あなたはこの１年間に、協会けんぽと、次のような接点を持ったことがありますか。（回答は該当するものすべて）

１　協会けんぽの窓口に、手続きや相談に行った
２　協会けんぽに問い合わせや相談の電話をした
３　協会けんぽのホームページを見た
４　協会けんぽ（支部）のメールマガジン登録をした
５　協会けんぽの健診を受診した
６　協会けんぽの保健師から保健指導を受けた
７　任意継続加入に関する手続きをした
８　高額療養費の給付を受けた
９　傷病手当金の給付を受けた
10　出産育児一時金の給付を受けた
11　その他（　　）
12　接点を持ったことはない

＜最近１年間の医療機関受診状況についてうかがいます。＞

問７　【全員に】
最近１年間で、あなたは病気やけがの治療のために医療機関にかかったことがありますか。（回答は該当するものすべて）

＊ご家族（子どもや親等）の受診でなく、あなた自身についてお答えください。
＊「健診や人間ドック」「出産やその前後の健診」を除いてお答えください。

１	入院したことがある
２	歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した（例　慢性的な症状・病気）
３	歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した（例　かぜ等の短期の症状・病気）
４	歯科に通院した
５	最近１年間では医療機関にかかっていない

付問１　【問７で“1～4”を回答した人に】
最近１年間で利用機会が最も多かった医療機関について、あなたの自宅または職場や学校から、その医療機関に行くのによく利用する交通手段と時間をお答えください。

＜交通手段＞　　＜かかる時間＞

（回答は該当するものすべて）

１	徒歩のみ	４	バス
２	自転車、バイク	５	車（タクシーを含む）
３	電車	６	その他（　　）

分

問８　【問７で“1～4”を回答した人に】
今年８月の１か月間に、あなた自身の受診のために医療機関の窓口で支払った金額は合計でいくら位でしたか。８月の支払いがなかった方は、ここ１年の間で支払いがあった月の平均概算額をお答えください。（回答は１つ）

１	１千円未満	４	１万円～２万円未満
２	１千円～５千円未満	５	２万円～８万円未満
３	５千円～１万円未満	６	８万円以上

問９　【全員に】
あなた自身またはご家族の中に、以下のような状態にあてはまる方はいらっしゃいますか。当てはまるものを選んでください。（回答は該当するものすべて）

１	あなた自身またはご家族の中に、高血圧症、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病等の慢性疾患で現在治療中の人がいる
２	あなた自身またはご家族の中に、心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる
３	あなた自身またはご家族の中に、介護保険制度のサービスを利用している人がいる
４	あなた自身またはご家族の中に、今後１年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がありそうな人がいる
５	あなた自身もご家族も、上記に当てはまる人はいない

＜一番最近に外来（通院）受診した医療機関の診断や治療についてうかがいます。＞

問 10　【全員に】

あなたが一番最近、外来（通院）受診した医療機関は次のどれですか。ここ 1 年間は医療機関にかかっていない方も、一番最近受診した医療機関についてお答えください。（回答は１つ）

＊「歯科」の場合を除いてお答えください。

＊ご家族（子どもや親等）の受診でなく、あなた自身についてお答えください。

＊「健診や人間ドック」「出産前後の健診」を除いてお答えください。

1	一般の診療所（〇〇クリニック、〇〇内科等）の外来に診療時間内に通院
2	一般の診療所（〇〇クリニック、〇〇内科等）を時間外に受診
3	病院の外来に診療時間内に通院
4	病院を時間外に受診

問 11　【全員に】

あなたは外来（通院）の医療機関を選ぶ際、どのようなことを重視していますか。次の項目ごとに重視度をお答えください。

また、一番最近に外来（通院）受診した医療機関について、項目ごとの満足度をお答えください。

（回答は「重視度」「満足度」ごとにそれぞれ１つずつ）

	医療機関を受診する際の**重視度**					一番最近に外来受診した際の**満足度**					
	重視する	まあ重視する	どちらともいえない	あまり重視しない	重視しない	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない・該当しない
自宅や職場などから近い	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
評判のよい医療機関である	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
経験豊富な医師がいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
医師が実際に診察・治療してくれる時間の長さが適切である	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
治療や薬剤についてのていねいな説明があり、患者からの質問にもしっかり答えてくれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
待ち時間が短い	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
夜間や休日も開いている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
往診してくれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
医師や医療機関を評価するための十分な情報が提供されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
必要に応じて専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6

問 12　【全員に】

上記のような内容をすべて考慮すると、外来（通院）受診したその医療機関には総合的にどの程度満足していますか。（回答は１つ）

1　満足	2　まあ満足	3　どちらともいえない	4　やや不満	5　不満

＜受診意識とかかりつけ医についてうかがいます。＞

問 13　【全員に】
あなたは、熱が出るなど体の具合が悪い時には早めに医療機関を受診する方ですか。（回答は１つ）

１　早めに受診する方である	３　具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない
２　何日か様子をみて決める	

問 14　【全員に】
あなたは、熱が高いなど体の具合が悪くて医療機関を外来受診する際、どのように医療機関を選んでいますか。あまり医療機関にかからない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は１つ）

１　はじめは近くの診療所（〇〇クリニック、〇〇内科等）を受診し、その医師の判断で必要に応じて病院等の専門医療機関を紹介してもらう
２　はじめから大きな病院を受診し、検査や治療をしてもらう

問 15　【全員に】
あなたには、熱が高いなど体の具合が悪い時、まず診てもらったり相談したりすることのできる「かかりつけ医」がいますか。（回答は１つ）

１　いる
２　いない

付問１　【問 15 で“1”の人（かかりつけ医がいる人）に】
「かかりつけ医がいる」とお答えの方にうかがいます。
その医師のいる医療機関は、次のどれですか。（回答は１つ）

１　一般の診療所（〇〇クリニック、〇〇内科等）
２　病院

付問２　【問 15 で“1”の人（かかりつけ医がいる人）に】
その医師をかかりつけ医として選んだ理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）

１　自宅から近いから	９　深夜や休日などの緊急時にも診てくれるから
２　職場や学校から近いから	10　往診してくれるから
３　評判がよかったから	11　最新の設備を整えているから
４　医師の人柄がよいから	12　他の病院・医師から薦められたから
５　医師の診療技術が優れているから	13　その他　（　　）
６　病気や治療についてよく説明してくれるから	
７　どんな病気でも診てくれるから	
８　あなたやご家族の病歴･健康状態をよく知っているから	

問 16　【全員に】
あなたは、休日や深夜に、あなた自身やご家族が急な発熱などで具合が悪くなった時、どのように対応しますか。休日・深夜に具合が悪くなったことがない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は横の行ごとに１つずつ）

	家庭でできる処置（市販薬を服用するなど）をしながら様子を見る	かかりつけ医に連絡し指示を受ける	救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する	１１９番に電話し救急車を呼ぶ	その他（具体的に　　）
あなたご自身の具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5
【問 4 で“1,2”を回答した人に】 小学生以下のお子さんの具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5
【問 4 で“3,4,5”　を回答した人に】 それ以外のご家族の具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5

＜生活習慣病予防に関する取り組みについてうかがいます。＞

問 17　【全員に】
あなたは、高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリックシンドローム」を避けるため、あるいは健康維持のために日ごろからどのような取り組みを行っていますか。次の説明をお読みのうえお答えください。

〇メタボリックシンドローム
　メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満の人が、脂質代謝異常（血液中にコレステロールや中性脂肪が増える状態）、高血圧、高血糖といった動脈硬化の危険因子を２つ以上あわせ持った状態をいいます。このように動脈硬化の危険因子が重なると、心筋梗塞などの心疾患や脳血管疾患などになる危険性が急激に高まります。
〇特定健康診査
　生活習慣病を中心とした疾病予防を重視し、健康診査及び保健指導の充実を図る観点から、2008 年 4 月より、健康保険制度では 40 歳以上の加入者に対し、生活習慣病に関する健康診査（特定健康診査）を行うことになりました。いわゆる 40 歳以上を対象とした「健診」のことです。
〇特定保健指導
　その健診結果によって、必要な人には保健指導（特定保健指導）を実施します。内臓脂肪型肥満に着目し、その要因となっている生活習慣の改善を通して、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を減らしていくことを目指しています。

（回答は該当するものすべて）

1　野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている
2　特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識して歩く距離を多くするなど体を動かしている
3　定期的に運動している
4　喫煙を控えている
5　アルコールを控えている
6　日常的に体重や血圧等の測定を心がけている
7　毎年、健診あるいは人間ドックを受けている
8　健診の結果、メタボリックシンドロームに該当するとされたので、特定保健指導を受け生活習慣改善に取り組んでいる
9　健診の結果、メタボリックシンドロームに該当するとされたが、特にしていることはない
10　生活習慣病なので、医師の指示に従って治療を受けている
11　その他（　　）
12　何も気にしていない（特に何もしていない）

＜医療全般に対する満足度、不安やほしい情報についてうかがいます。＞

問 18　【全員に】
あなたは、受診のしやすさや、受診した際の自己負担や健康保険料など、日本の医療水準を総合的に考えると、医療全般についてどの程度満足していますか。（回答は１つ）

１　満足	２　まあ満足	３　どちらともいえない	４　やや不満	５　不満

問 19　【全員に】
あなたは医療全般に関し、次の項目についてどの程度不安に感じていますか。項目ごとにお答えください。（回答は横の行ごとに１つずつ）

	非常に不安がある	やや不安がある	どちらともいえない	あまり不安はない	まったく不安はない
医療機関や医師、治療内容についての情報が不足している	1	2	3	4	5
医療事故が起こっている	1	2	3	4	5
小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある	1	2	3	4	5
救急車を呼んでも受け入れてくれる病院がすぐに見つからない	1	2	3	4	5
具合が悪くなった時に近くに適当な医療機関がない	1	2	3	4	5
がんなど重い病気になった時に適当な医療機関が見つからない	1	2	3	4	5
医療機関を受診した際の窓口で払う医療費がかさむ	1	2	3	4	5
毎月負担する保険料が上がる	1	2	3	4	5
大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる	1	2	3	4	5
医療費が増え続けることで健康保険制度が維持できなくなる	1	2	3	4	5

付問１　【全員に】
上記以外で医療全般に関し、不安に感じていることがあればご自由にお書きください。

問 20　【全員に】
あなたは、医療機関に関してどのような情報が足りないと思いますか。（回答は該当するものすべて）

１　受診した人（他の患者）による評判	６　手術の実施件数
２　医師の専門分野、専門医・認定医かどうか	７　往診・訪問診療の実施の有無
３　医師の経歴や年齢	８　医療事故防止についての取り組み
４　連携している医療機関名や介護施設名	９　その他（　　）
５　夜間・休日診療の実施状況	10　特にない

問 21　【全員に】
医療機関に関する情報以外では、あなたは健康や医療についてどのような情報をほしいと思いますか。（回答は該当するものすべて）

１　効果的な健康づくりや病気の予防方法	７　医療費が高額になった場合の自己負担など健康保険制度のしくみ
２　かかりつけ医の選び方	８　介護保険サービスに関する情報
３　病気の原因や症状、治療法	９　その他（　　）
４　処方される薬の効能効果や副作用	10　特にない
５　治療にかかる期間	
６　治療にかかる費用の目安	

問 22　【全員に】
あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。

〇ジェネリック医薬品（後発医薬品）
　ジェネリック医薬品は、有効性や安全性が実証されてきた先発医薬品の効能と「同等」と厚生労働省において認められた医薬品です。ジェネリック医薬品は先発医薬品のノウハウを活用することにより開発費が抑えられるため、価格も安く、薬代の軽減や保険財政の負担の低減につながります。
　2008 年 4 月から処方せんの様式が変わり、「ジェネリック医薬品への変更不可」という欄に医師の署名がない限り、薬局では患者の選択に基づきジェネリック医薬品への変更調剤が可能となりました。

　＊ただし、すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。
　＊薬局に在庫がない場合など、ジェネリック医薬品に切り替えられない場合もあります。

（回答は 1 つ）

1　ジェネリック医薬品を使ったことがある
2　ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
3　名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
4　今回はじめて名前を聞いた

付問 1　【問 22 で“2”の人（どういうものか知っていたが、使ったことはない）に】
「ジェネリック医薬品（後発医薬品）がどういうものか知っていたが、使ったことはない」とお答えの方にうかがいます。
「どういうものか知っていたが、使ったことはない」のは、どのような理由からですか。（回答は該当するものすべて）

1　医療機関を受診していない、または受診しても投薬されなかったから
2　入手方法が分からないから
3　医師や薬剤師から話をしてくれないと、自分からは言い出せない
4　あまり安くならないから
5　効き目や安全性に不安があるから
6　ジェネリック医薬品を希望したが、薬局等に置いていなかったから
7　ジェネリック医薬品への切り替えができない処方せんだから
8　今の薬を変えたくないから
9　そもそも代替するジェネリック医薬品が出ていない薬だから
10　その他（　　）

問 23　【全員に】
あなたは「高額療養費制度」をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。

〇高額療養費制度
　医療機関や薬局の窓口で支払った額が、一定額を超えた場合に、その超えた金額が支給される制度です。事前に手続きをしている場合には超えた分を負担しなくてもよいか、または申請により払い戻しされます。限度額は所得及び年齢（70 歳未満であるか以上か）によって異なります。
　　例：70 歳未満の一般的な所得の人の 1 か月当たり限度額の計算式は、
　　〔80,100 円＋（総医療費－267,000 円）×１％〕となります。
　　仮に総医療費が 100 万円であれば、自己負担限度額は 30 万円ではなくて 87,430 円になります。

（回答は 1 つ）

1　利用したことがある
2　利用したことはないが、内容を知っていた
3　名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
4　今回はじめて知った

＜医療の負担とサービスの関係についてうかがいます。＞

問 24　【全員に】
日本では高齢化や医療の高度化等によって、医療費は毎年増え続けています。あなたは、どのような取り組みを進めるべきだと思いますか。特に必要だと思うものを 3 つまでに絞ってお答えください。（回答は 3 つまで）

１　毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める
２　健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する
３　必要以上の検査や過剰な投薬をしない
４　安易な重複受診は控える
５　ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める
６　入院期間の短縮化を進める
７　身近な診療所等にかかりつけ医をもち、安易に高度医療病院を利用しない
８　その他（　　）

問 25　【全員に】
増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があります。国民の負担が増えるとした場合、あなたは医療費をどのようにまかなっていくのが適切だと思いますか。（回答は該当するものすべて）

１　私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる
２　医療機関を受診した際の患者の負担割合を増やす
３　税金を上げてまかなう
４　その他（　　）

付問 1　【全員に】
そのように考える理由をご自由にお書きください。

問 26　【全員に】
医療サービスの水準と費用負担との関係について、次のいずれかの考え方を選ばなければならないとしたら、あなたはどの考え方を選択しますか。（回答は１つ）

１　健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない
２　健康保険でまかなえる医療サービスの水準が維持できるのであれば、健康保険料と患者の自己負担額が多少増えてもやむを得ない
３　健康保険でまかなえる医療サービスの水準を向上させるためには、健康保険料と患者の自己負担額が増えてもやむを得ない

問 27　現在、救急外来の現場の一部では、緊急性の低い症状で利用するケースが増えており、本来必要とする患者さんへの対応が滞る事態が発生しています。
　政府の社会保障制度改革国民会議において、病院と診療所の適切な役割分担を図るため、大病院の外来は紹介患者を中心とし、一般的な外来受診は「かかりつけ医」に相談するシステムの普及、定着を進めていく目的で、紹介状なしの大病院の外来の受診には１万円などの定額負担を導入する意見が出ました。あなたは、これについてどう考えますか。（回答は１つ）

１　１万円の負担は、安易な大病院の外来の利用を抑える効果があると思う
２　もっと高額の負担でないと、効果はないと思う
３　もっと低額の負担でも、効果はあると思う
４　金額に関わらず、負担が発生しても利用を抑える効果はないと思う
５　そもそも必要な大病院の外来を利用しづらくなるので、負担の導入自体よくないと思う

６　その他（　　）	

問 28　【全員に】

公的保障（健康保険制度）のほかに民間保険（例：生命保険の疾病特約やがん保険等）に加入するなどの備えをする場合、月額いくらまでなら保険料を支払っても構わないと考えますか。（回答は１つ）

※世帯ではなく、あなたご自身の保険料としてお答えください。

１　公的保障だけで十分である	５　１万円～１万５千円未満
２　３千円未満	６　１万５千円～２万円未満
３　３千円～５千円未満	７　２万円～３万円未満
４　５千円～１万円未満	８　３万円以上

問 29　【全員に】

今日の日本では、誰もが安心して必要な医療を受けられるよう、病気になったときに医療費の支払いが大きな負担になった際の国が保障する制度として「社会保障としての医療保険制度」が運用されています。この制度を今後も維持していくためには多くの人の納得と理解が不可欠ですが、「公平性」の考え方は人によってさまざまです。

以下のＡとＢの意見について、あなたのお考えに近いほうをお選びください。（回答は１つ）

Ａ	Ａに近い	ややＡに近い	ややＢに近い	Ｂに近い	Ｂ
収入に関わらず、同じ制度を維持するためのコスト（保険料）は、保険料負担者一人当たり同額支払うのが公平である。	1	2	3	4	収入に応じた負担の「重さ」を同じにするためには、同じ率（割合）で保険料を支払うのが公平である。
どの健康保険に加入していても、保険料の割合（または負担額）は同一にするのが公平である。	1	2	3	4	加入している健康保険によって加入者の年齢や収入の構成が異なれば、それにあわせた保険料率が設定されるのが妥当である。
社会保障の制度は「年齢別」の考え方が公平だと思う。	1	2	3	4	社会保障の制度は「負担能力別」の考え方が公平だと思う。
同じ医療に対する支払いは、誰でも同じ金額とするのが公平である。	1	2	3	4	同じ医療に対する支払いであっても、所得に応じて配慮するのが妥当である。

＜今後の医療政策についてうかがいます。＞

問 30　【全員に】
あなたは、今後の日本の医療についてどのようなことを望みますか。特に希望したいことを 5 つまでお答えください。（回答は 5 つまで）

1	医師の養成・確保
2	専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保
3	医療機関の積極的な情報開示
4	夜間や休日における救急医療体制の整備
5	医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備
6	患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進
7	リハビリを行える施設や介護施設等との連携
8	在宅医療を支えるしくみの充実
9	がん治療の強化
10	難病対応等、最先端の医療の強化
11	生活習慣病の治療の充実
12	その他（　　）

問 31　【全員に】
最後に、以下のそれぞれについて、あなたのイメージの年齢を直感でお答えください。
※あまり深く考え込まずに、漠然としたイメージで結構です。ただし、「介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢」及び「生きていたいと思う年齢」については、現在のご自身の年齢よりも先をお答えください。

高齢者と考える年齢	[　　]	歳以上
あなたが仕事をやめる年齢	[　　]	歳くらい　【問 4 で“1～6,10”を回答した人に】
あなたが介護を必要とせずに日常生活を送れる年齢	[　　]	歳くらい
あなたが生きていたいと思う年齢	[　　]	歳くらいまで